

加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 見直しのためのアンケート調査結果

令和5年7月
加 東 市

目 次

I	調査概要.....	1
1	調査目的.....	1
2	調査の実施について.....	1
3	配布数・有効回収数及び回収率.....	1
II	一般高齢者・要支援認定者 調査結果.....	2
1	回答者属性.....	2
2	回答者のタイプ別分類.....	4
3	ご家族や生活状況について.....	7
4	からだを動かすことについて.....	11
5	食べることについて.....	17
6	毎日の生活について.....	18
7	地域での活動について.....	23
8	たすけあいについて.....	30
9	健康について.....	31
10	認知症について.....	37
11	市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて.....	41
12	今後の生活と福祉や介護保険制度について.....	43
13	日常生活圏域ごとの状況.....	47
III	要介護認定者 調査結果.....	53
1	回答者属性.....	53
2	家族や生活状況について.....	54
3	日常生活について.....	61
4	健康について.....	65
5	介護保険制度と介護保険サービスについて.....	70
6	市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて.....	72
7	今後の生活と福祉や介護保険制度について.....	73
8	主な介護者の考えについて.....	76
9	調査結果の考察.....	80

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、令和6年度から令和8年度までの「加東市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」を策定するにあたり、今後の高齢者福祉サービスや健康づくりの方策を検討するために、日頃の生活や介護の状況、サービスの利用意向などの実態を把握することを目的として実施しました。

2 調査の実施について

(1) 一般高齢者・要支援認定者調査

調査種類	加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画見直しのためのアンケート調査 (一般高齢者・要支援認定者の方)
対象者	無作為に抽出した65歳以上の一般高齢者、要支援認定者：2,000人
実施期間	令和4年12月～令和5年1月10日(火)
実施方法	郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)

(2) 要介護認定者調査

調査種類	加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画見直しのためのアンケート調査 (要介護認定者の方)
対象者	要介護認定者のうち在宅の方：1,064人
実施期間	令和4年12月～令和5年1月10日(火)
実施方法	郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)

3 配布数・有効回収数及び回収率

(1) 一般高齢者・要支援認定者調査

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000件	1,472件	1,472件	73.6%

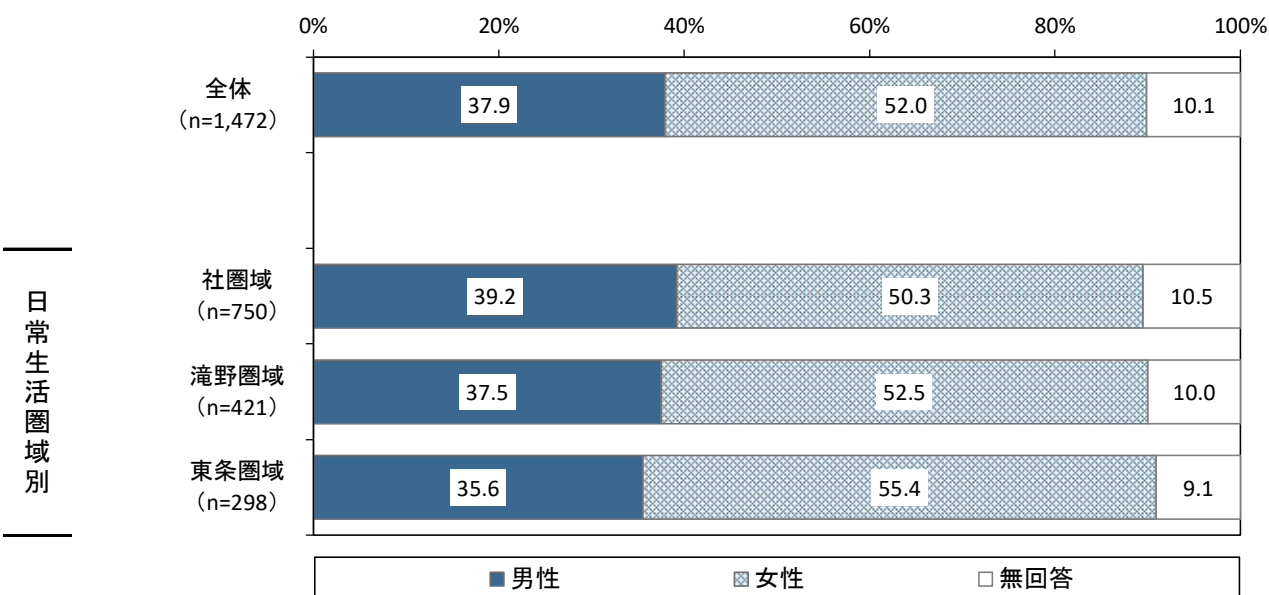
(2) 要介護認定者調査

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,064件	610件	600件	56.4%

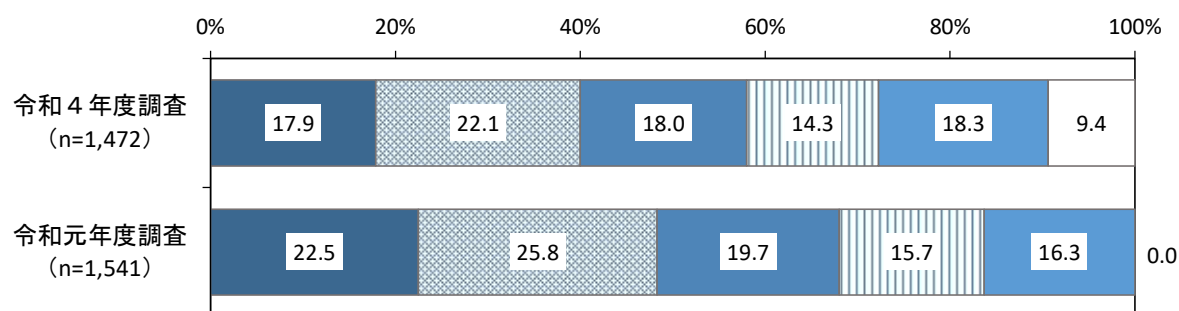
Ⅱ 一般高齢者・要支援認定者 調査結果

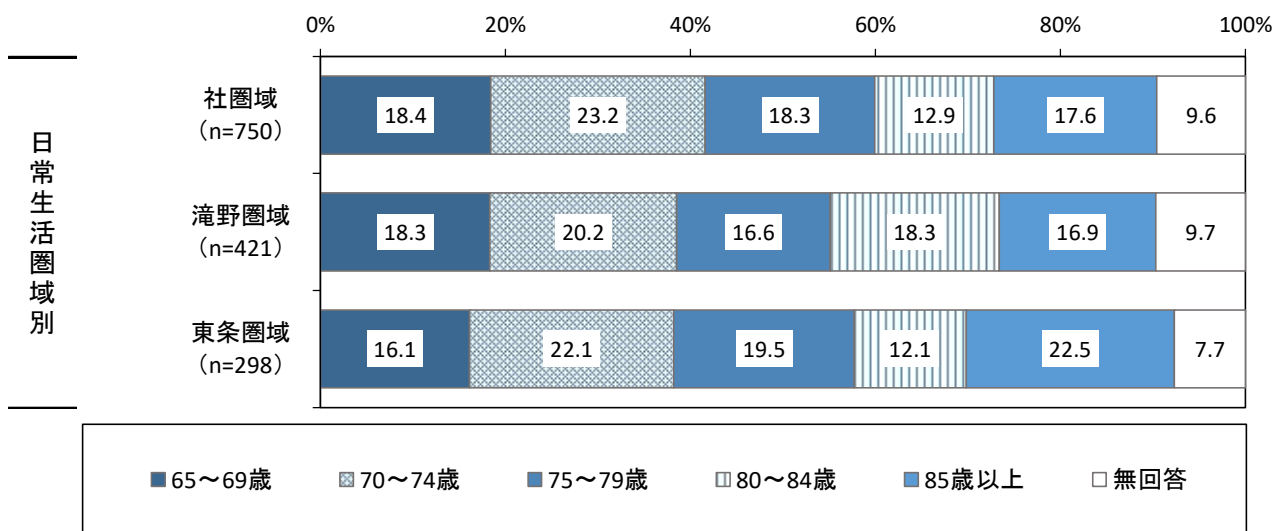
1 回答者属性

(1) 性別

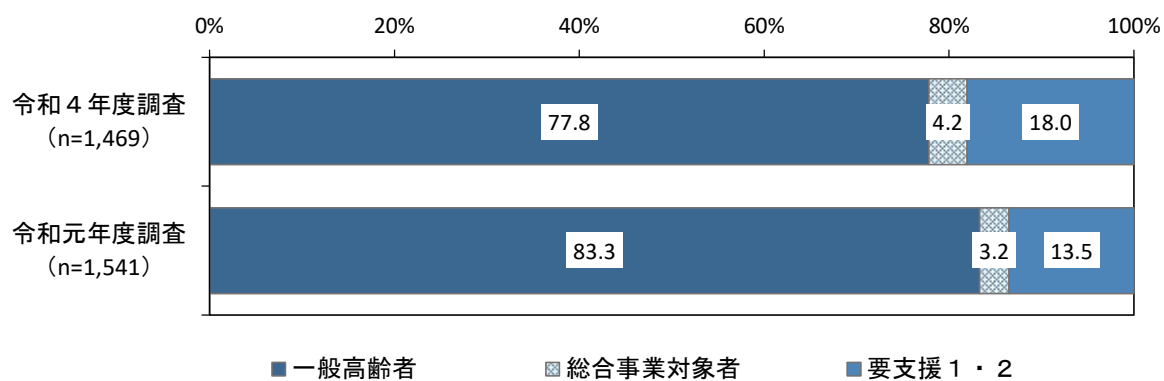


(2) 年齢





(3) 認定該当状況



2 回答者のタイプ別分類

本調査の下記の設問の結果から、回答者の「タイプ別分類」を実施しました。

問 週に1回以上は外出していますか。

1. ほとんど外出しない 2. 週1回

インドア派

3. 週2～4回 4. 週5回以上

アウトドア派

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 4. 既に参加している

3. 参加したくない

内向的

外交的

タイプ別分類	特性	想定される事業の方向性
インドア派 外交的	現在は、自宅の中で楽しむ志向が強いが、潜在的な外交的志向がある	・介護予防事業、サロンへの参加促進 ・ボランティア等への参加促進 など
インドア派 内向的	現在、今後も、自宅の中で楽しむ志向が強い	・介護予防など健康情報の提供 ・生涯学習情報の提供 ・在宅生活を支援するための情報提供 など
アウトドア派 外交的	自宅の外で楽しむ志向が強く、外交的志向もある	・介護予防事業、サロンへの参加促進 ・各種事業の運営者との育成支援 ・ボランティア等への参加促進 など
アウトドア派 内向的	自宅の外で楽しむ志向が強いが、外交的志向はあまりない	・介護予防など健康情報の提供 ・生涯学習情報の提供 ・在宅生活を支援するための情報提供 など

《高齢者の「タイプ別分類」の結果概要》

認定別にみると、要支援認定者・事業対象者の方が「インドア派内向的」の割合が高く、一般高齢者の方が「アウトドア派外交的」の割合が高くなっています。

性年齢別にみると、男女とも 65～84 歳で「アウトドア派外交的」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	インドア派 外交的	インドア派 内向的	アウトドア派 外交的	アウトドア派 内向的	無回答
全 体	1472	8.5	15.6	37.2	23.4	15.2

【認定別】

全 体	1472	8.5	15.6	37.2	23.4	15.2
一般高齢者	1143	6.9	11.2	43.5	26.8	11.6
要支援認定者・事業対象者	326	13.8	31.0	15.3	12.0	27.9

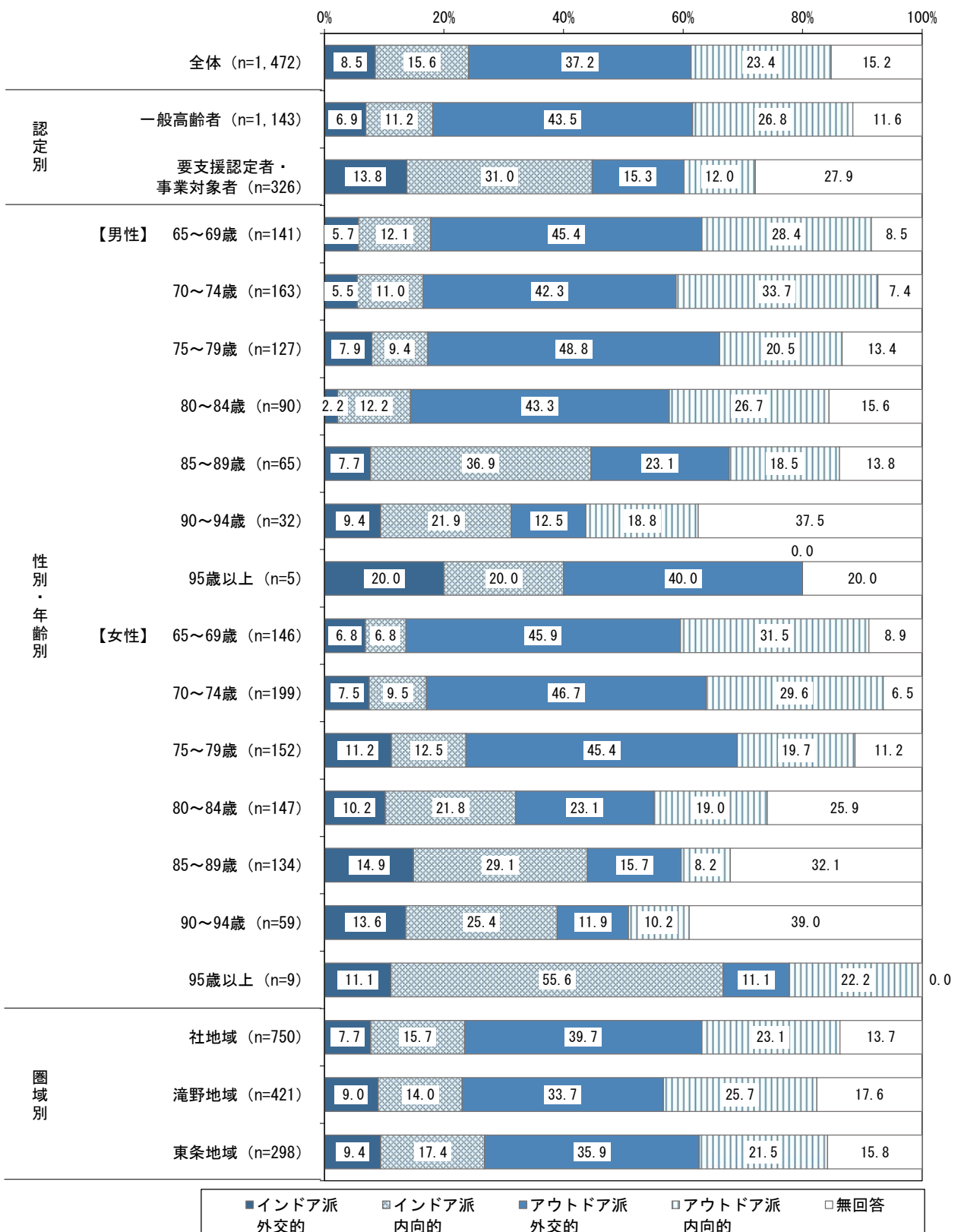
【性年齢別】

全 体	1472	8.5	15.6	37.2	23.4	15.2
男性 65～69 歳	141	5.7	12.1	45.4	28.4	8.5
70～74 歳	163	5.5	11.0	42.3	33.7	7.4
75～79 歳	127	7.9	9.4	48.8	20.5	13.4
80～84 歳	90	2.2	12.2	43.3	26.7	15.6
85～89 歳	65	7.7	36.9	23.1	18.5	13.8
90～94 歳	32	9.4	21.9	12.5	18.8	37.5
95 歳以上	5	20.0	20.0	40.0	—	20.0
女性 65～69 歳	146	6.8	6.8	45.9	31.5	8.9
70～74 歳	199	7.5	9.5	46.7	29.6	6.5
75～79 歳	152	11.2	12.5	45.4	19.7	11.2
80～84 歳	147	10.2	21.8	23.1	19.0	25.9
85～89 歳	134	14.9	29.1	15.7	8.2	32.1
90～94 歳	59	13.6	25.4	11.9	10.2	39.0
95 歳以上	9	11.1	55.6	11.1	22.2	—

【地域別】

全 体	1472	8.5	15.6	37.2	23.4	15.2
社地域	750	7.7	15.7	39.7	23.1	13.7
滝野地域	421	9.0	14.0	33.7	25.7	17.6
東条地域	298	9.4	17.4	35.9	21.5	15.8

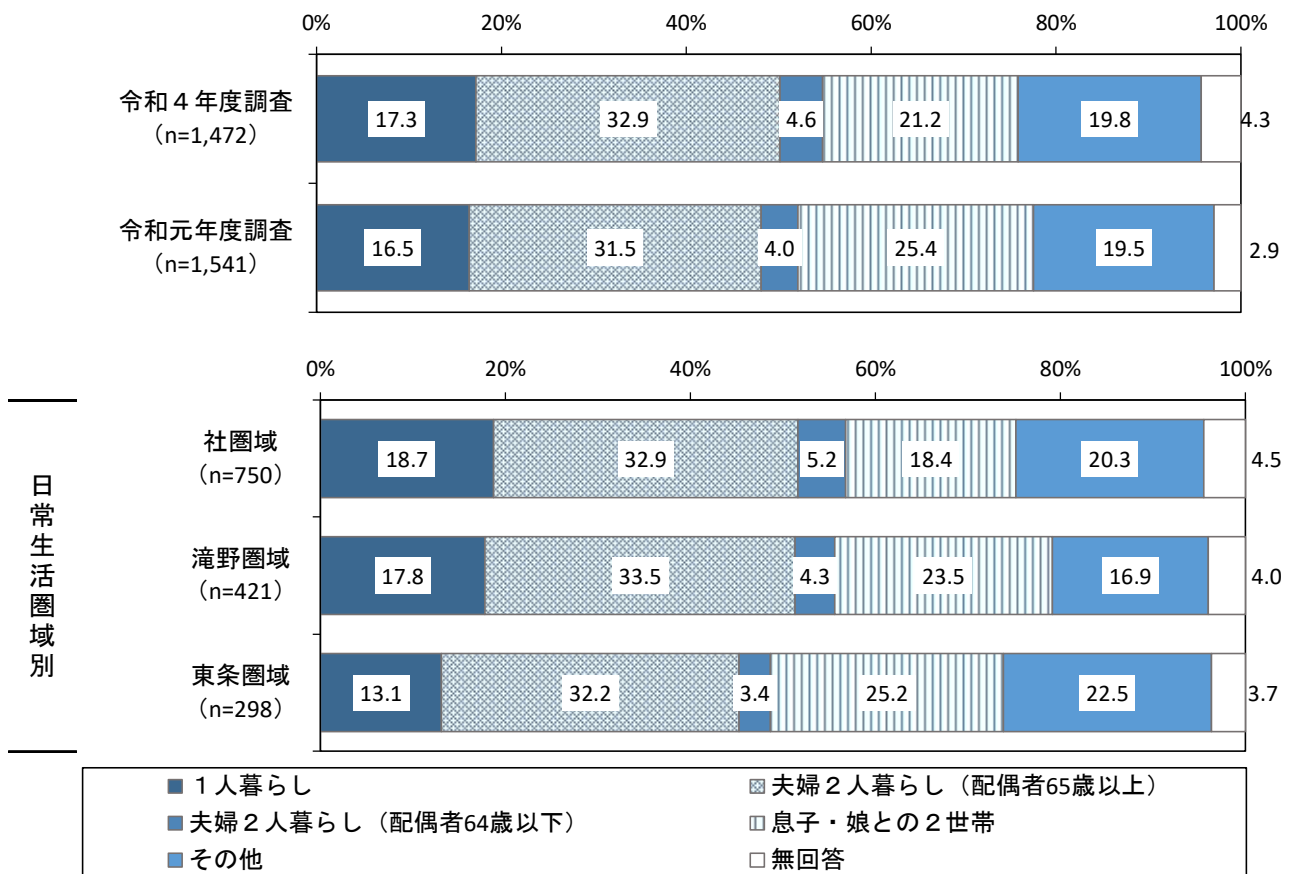
タイプ別の分類では、「アウトドア派 外交的」が 37.2%で最も高く、次いで「アウトドア派 内向的」が 23.4%、「インドア派 内向的」が 15.6%と続いています。



3 ご家族や生活状況について

(1) 家族構成

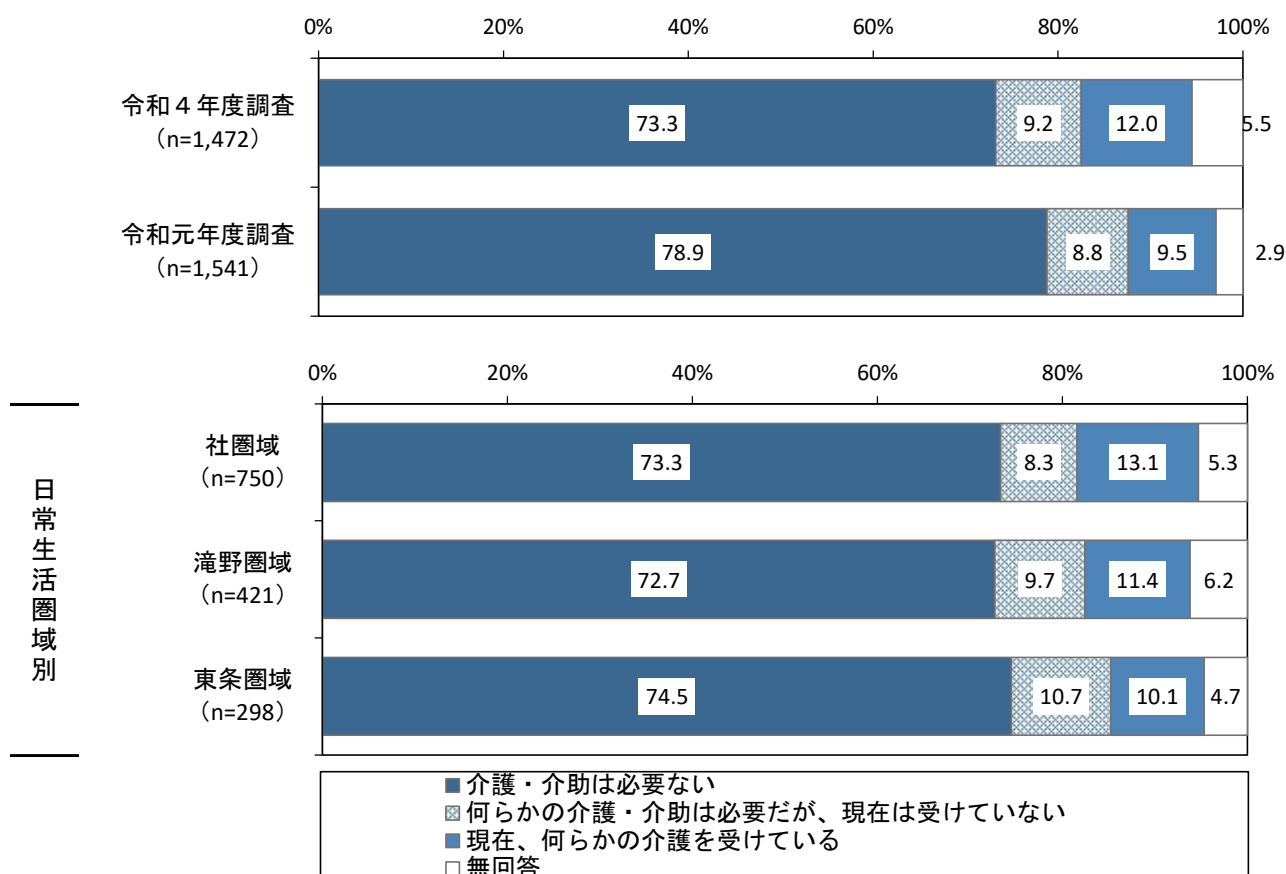
家族構成について、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が32.9%で最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が21.2%、「その他」が19.8%となっています。



（２）介護・介助の必要性

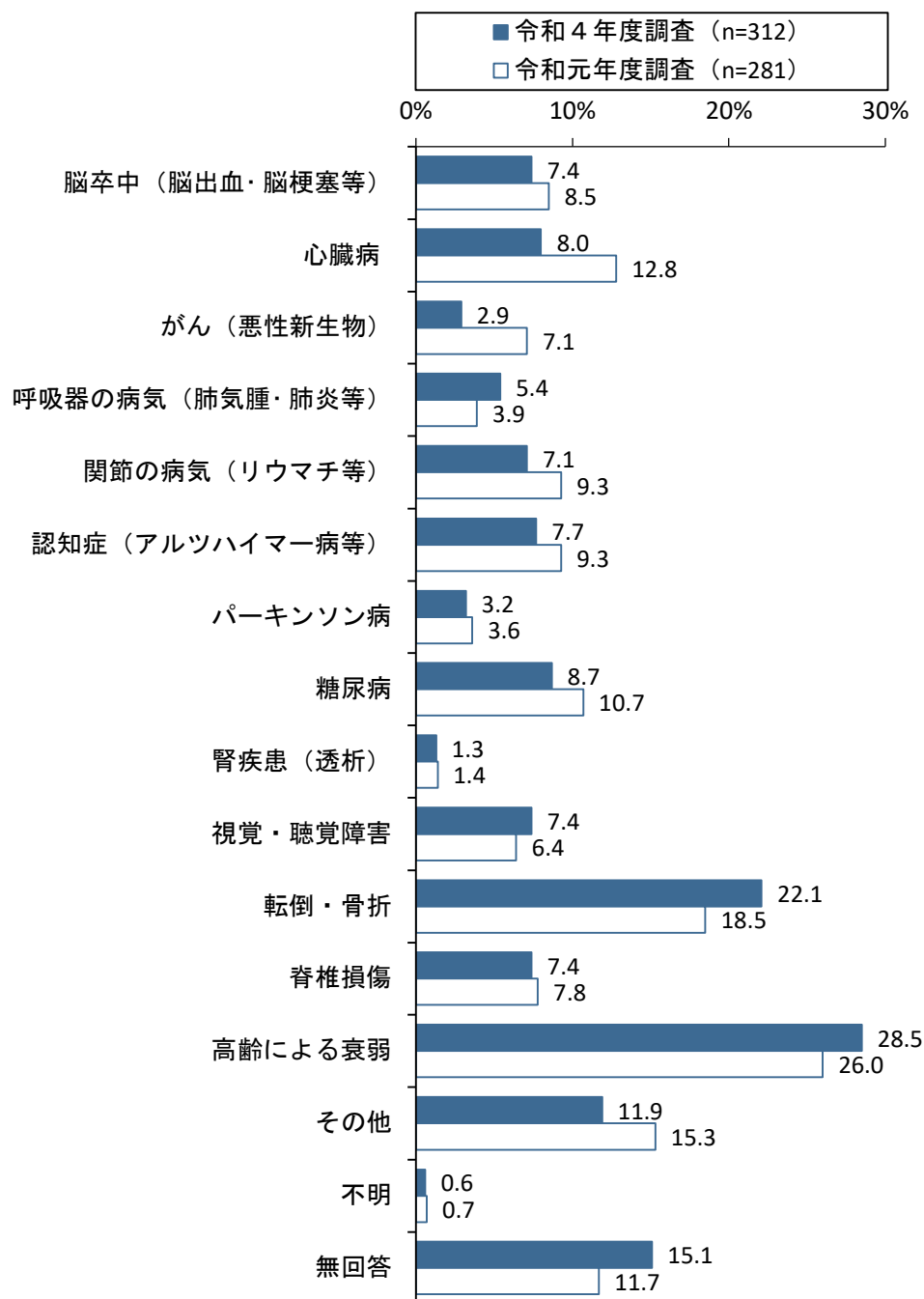
介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が 73.3%で最も多く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が 12.0%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 9.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が 5.6 ポイント減少し、「現在、何らかの介護を受けている」が 2.5 ポイント増加しています。



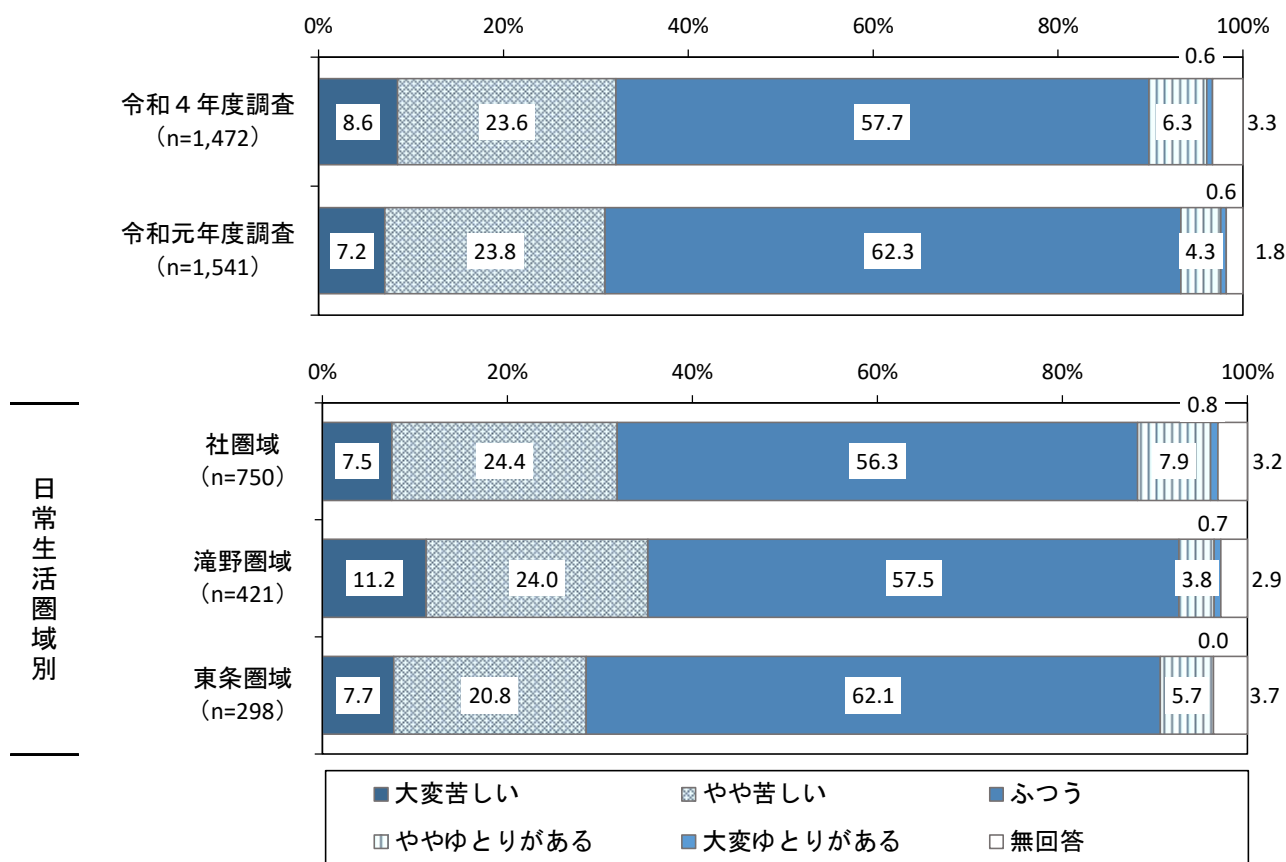
（３）介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因について、「高齢による衰弱」が 28.5%で最も多く、次いで「転倒・骨折」が 22.1%、「その他」が 11.9%となっています。



(4) 経済状況

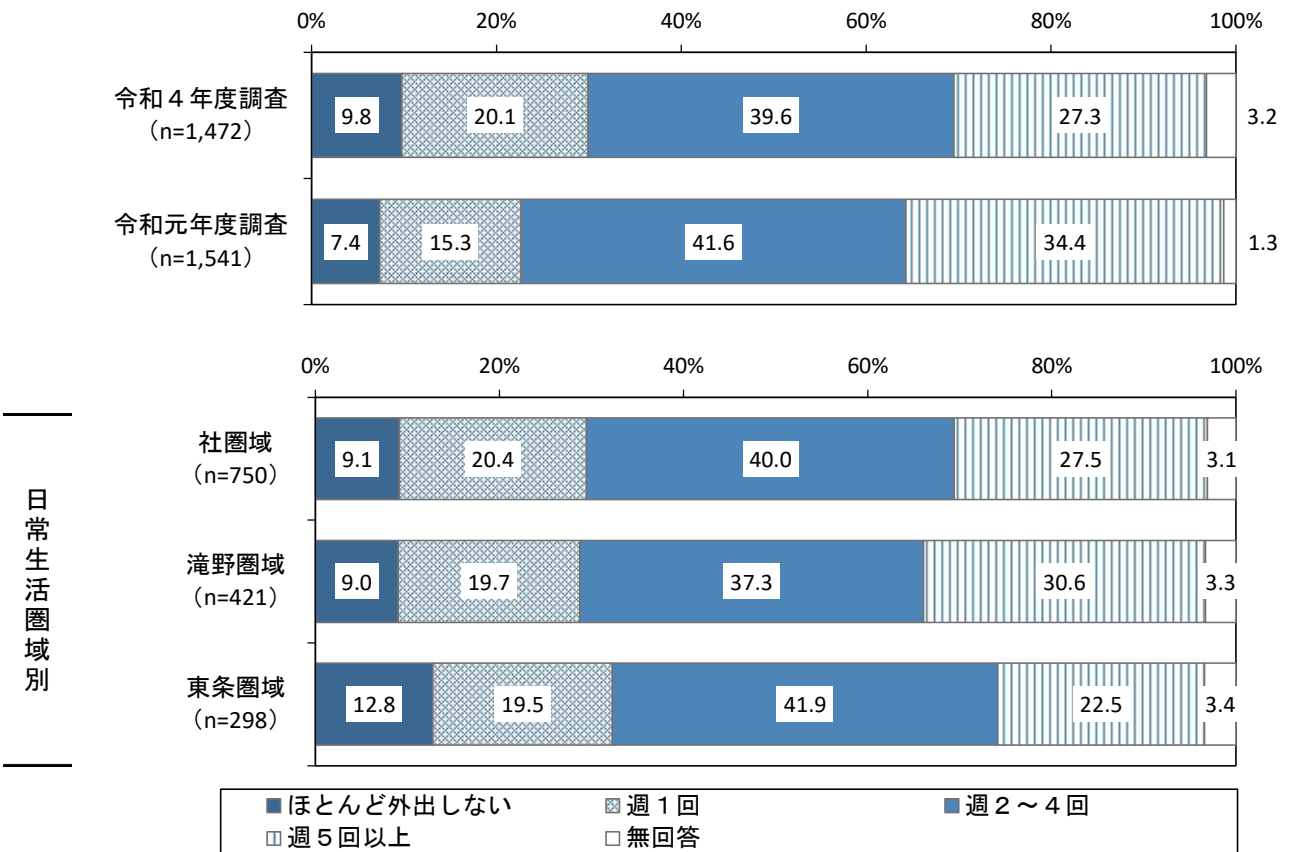
経済状況について、「ふつう」が 57.7%で最も多く、次いで「やや苦しい」が 23.6%、「大変苦しい」が 8.6%となっています。



4 からだを動かすことについて

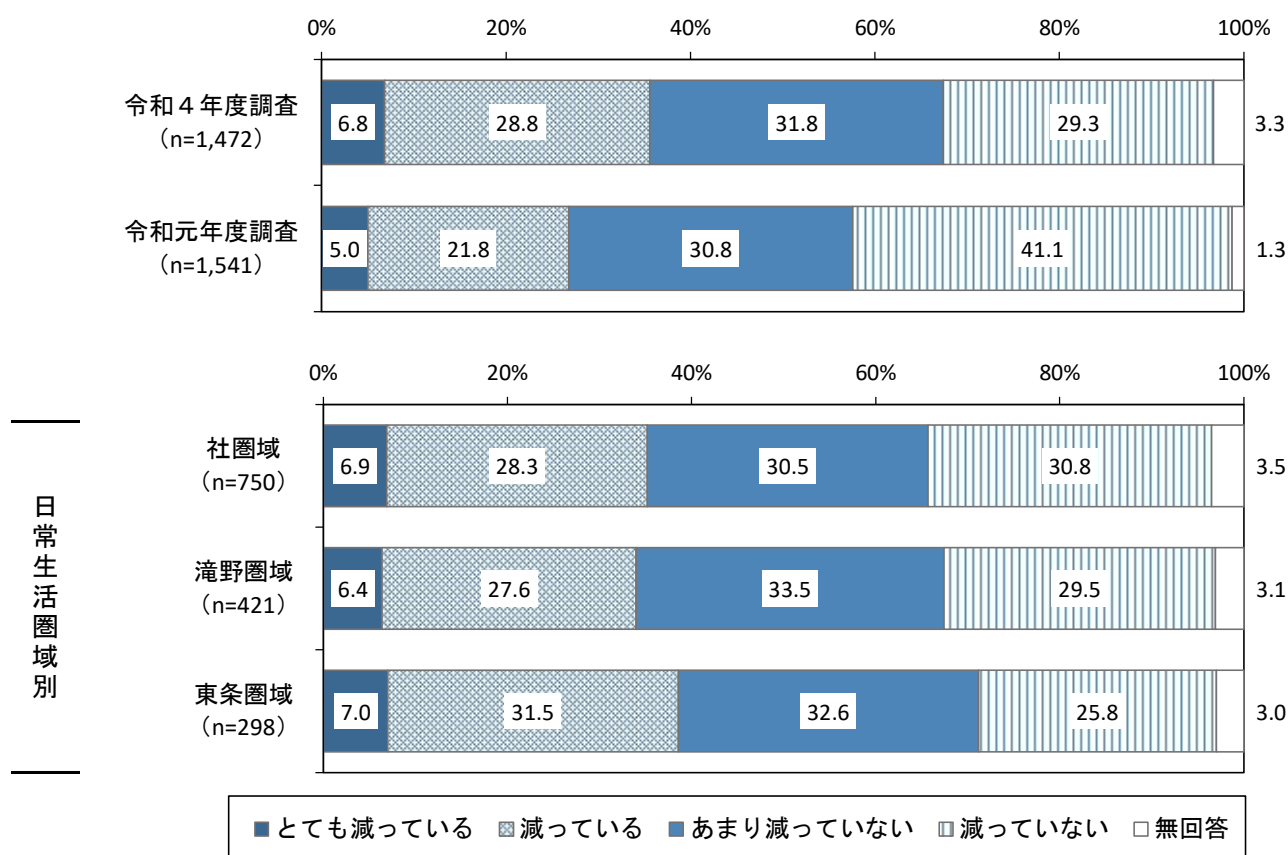
(1) 週に1回以上外出しているか

週に1回以上外出しているかについて、「週2～4回」が39.6%で最も高く、次いで「週5回以上」が27.3%、「週1回」が20.1%と続いています。



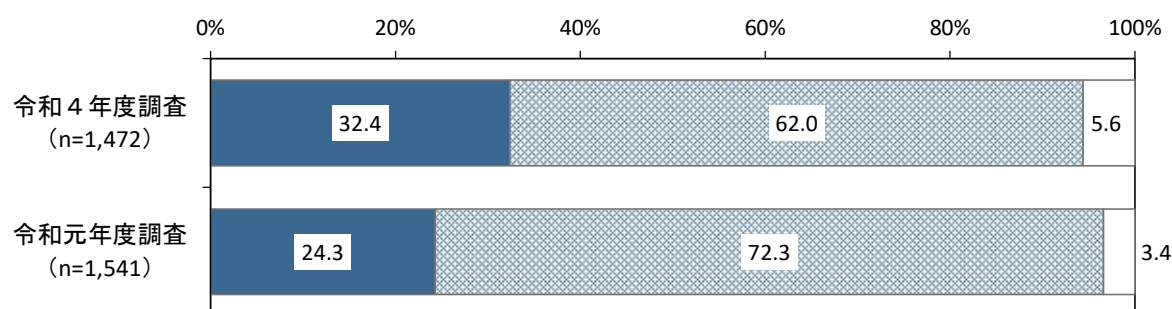
（２）昨年と比べて外出の回数が減っているか

昨年と比べて外出の回数が減っているかについて、「あまり減っていない」が 31.8%で最も高く、次いで「減っていない」が 29.3%、「減っている」が 28.8%と続いています。

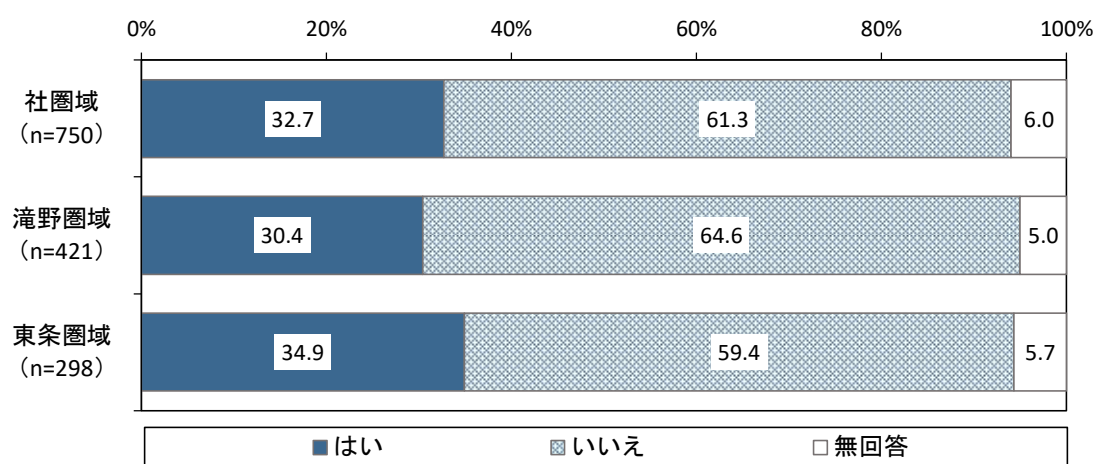


(3) 外出を控えているか

外出を控えているかについて、「はい」が 32.4%、「いいえ」が 62.0%となっています。



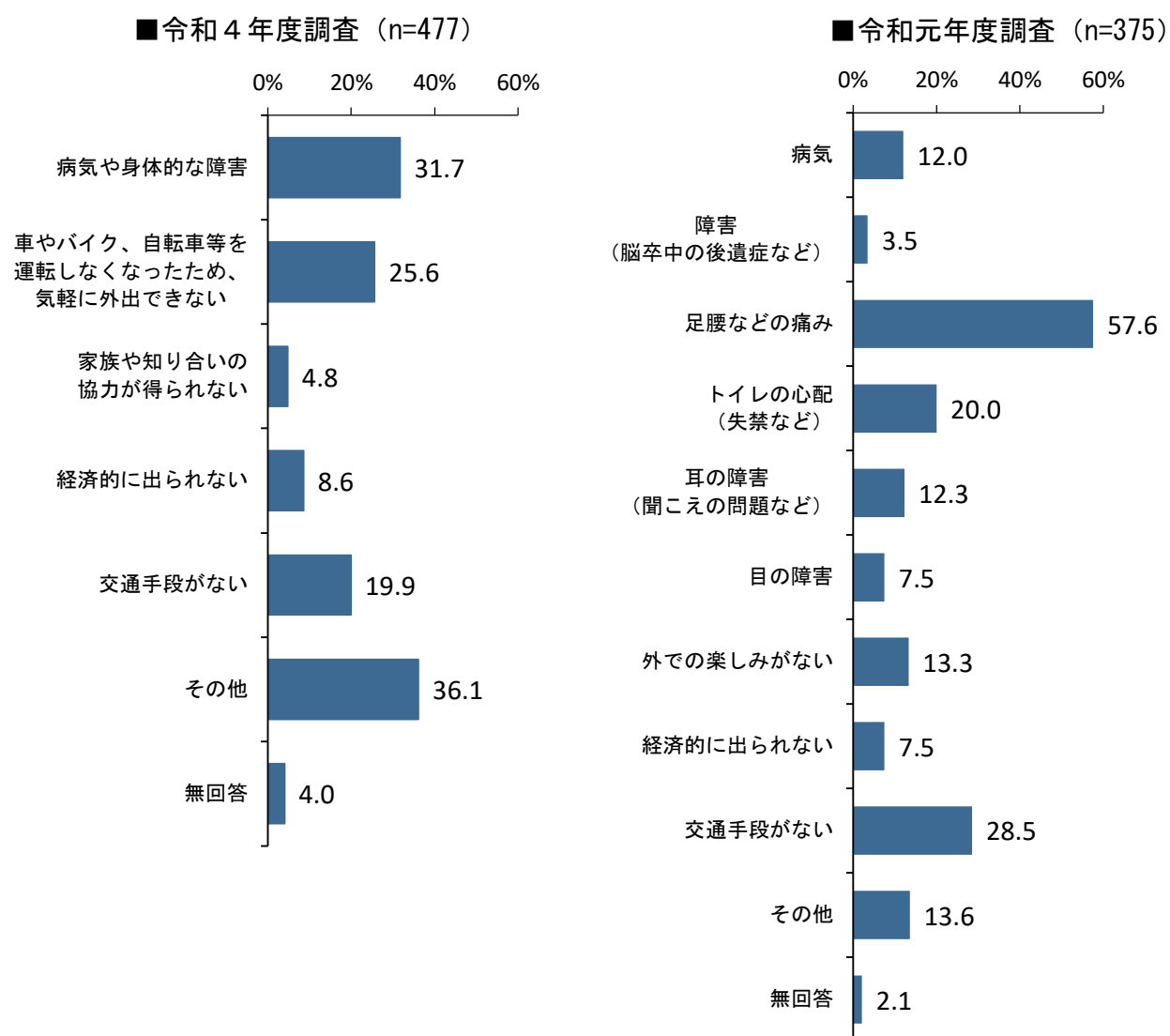
日常生活圏域別



（４）外出を控えている理由

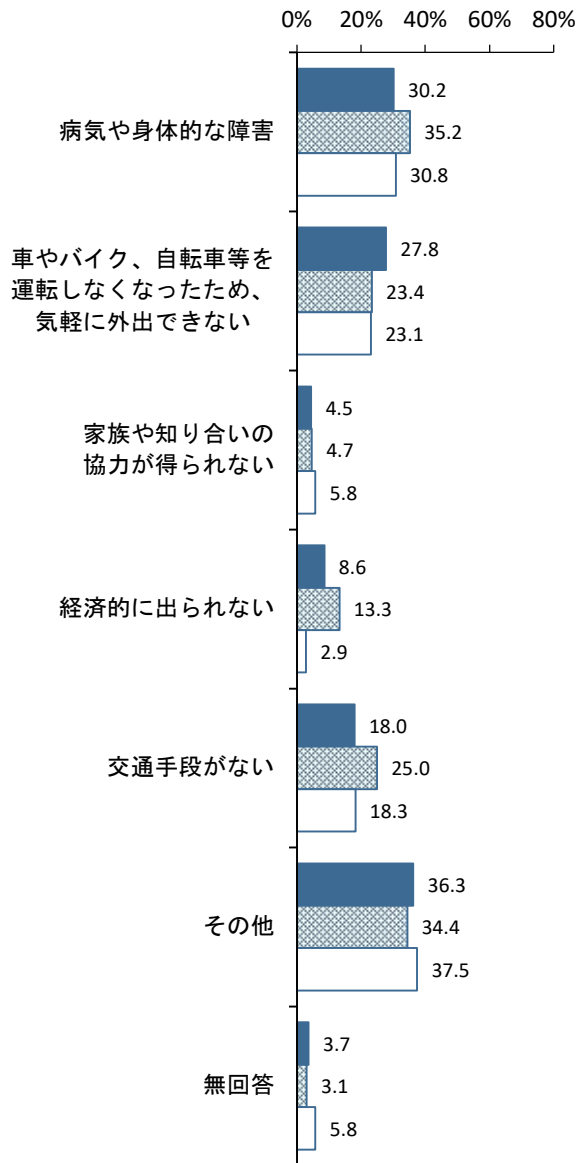
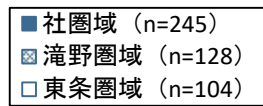
外出を控えている理由について、「病気や身体的な障害」が 31.7%で最も多く、次いで「車やバイク、自転車等を運転しなくなったため、気軽に外出できない」が 25.6%、「交通手段がない」が 19.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、滝野圏域は「病気や身体的な障害」「交通手段がない」が、他の圏域と比べて高くなっています。

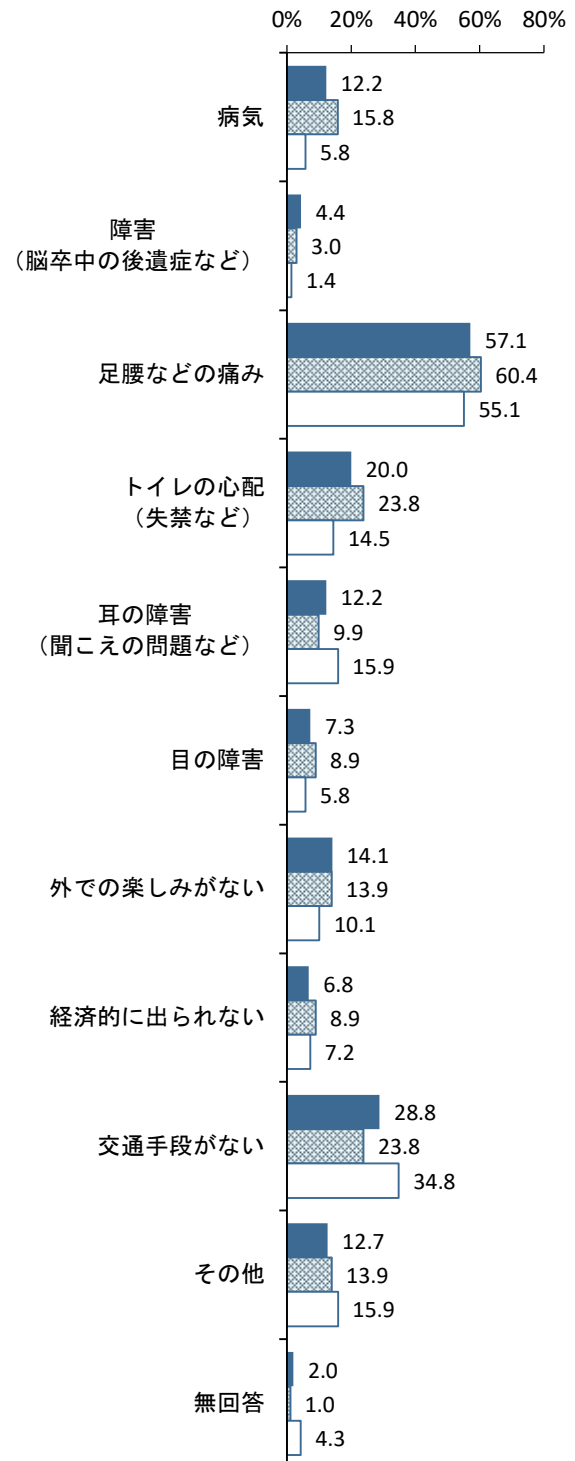
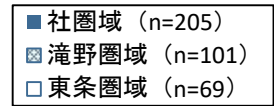


【日常生活圏域別】

■令和4年度調査

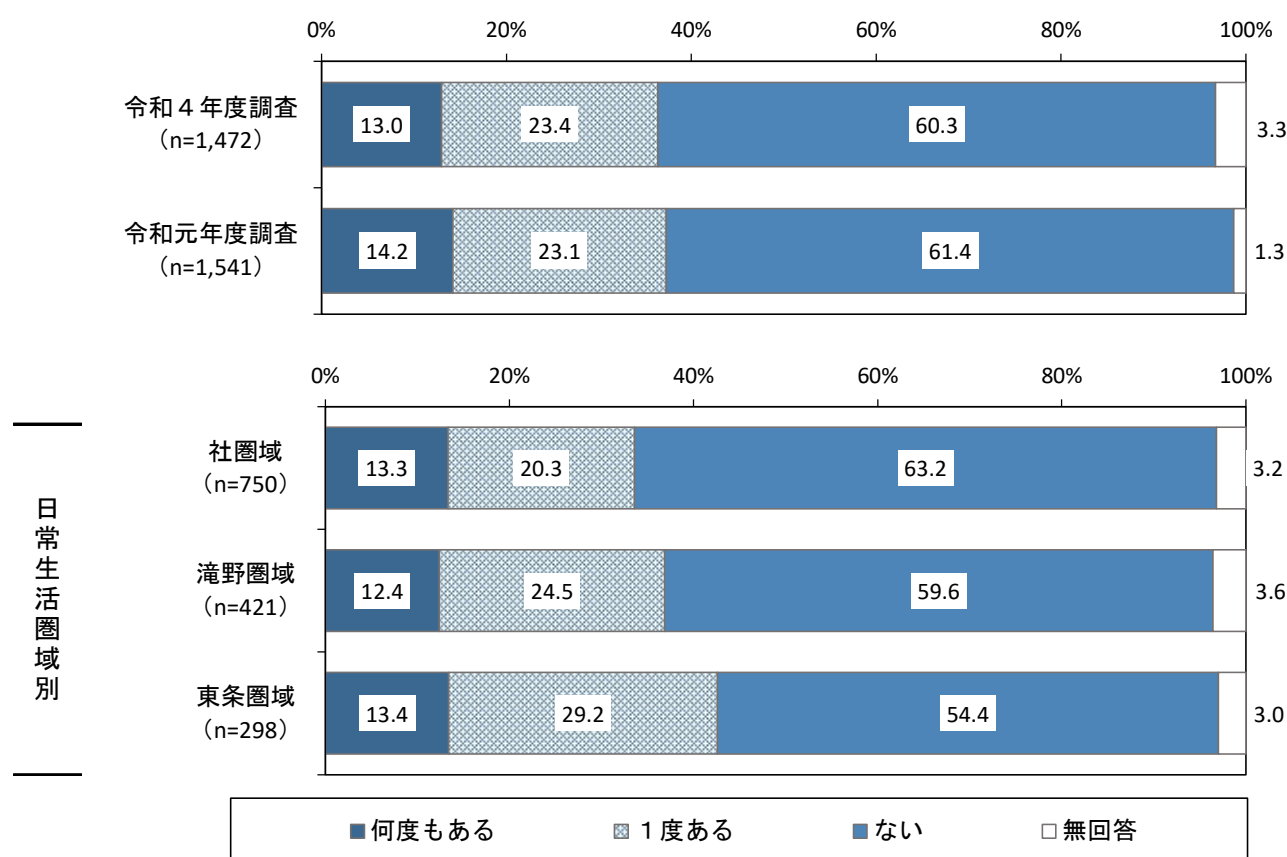


■令和元年度調査



（５）過去１年間に転んだ経験があるか

過去１年間に転んだ経験があるかについて、「ない」が60.3%で最も高く、次いで「１度ある」が23.4%、「何度もある」が13.0%と続いています。



【高齢者の外出タイプ別】

高齢者の外出タイプ別にみると、インドア派内向的では「何度もある」の割合が高く、アウトドア派外交的で「ない」の割合が高くなっています。

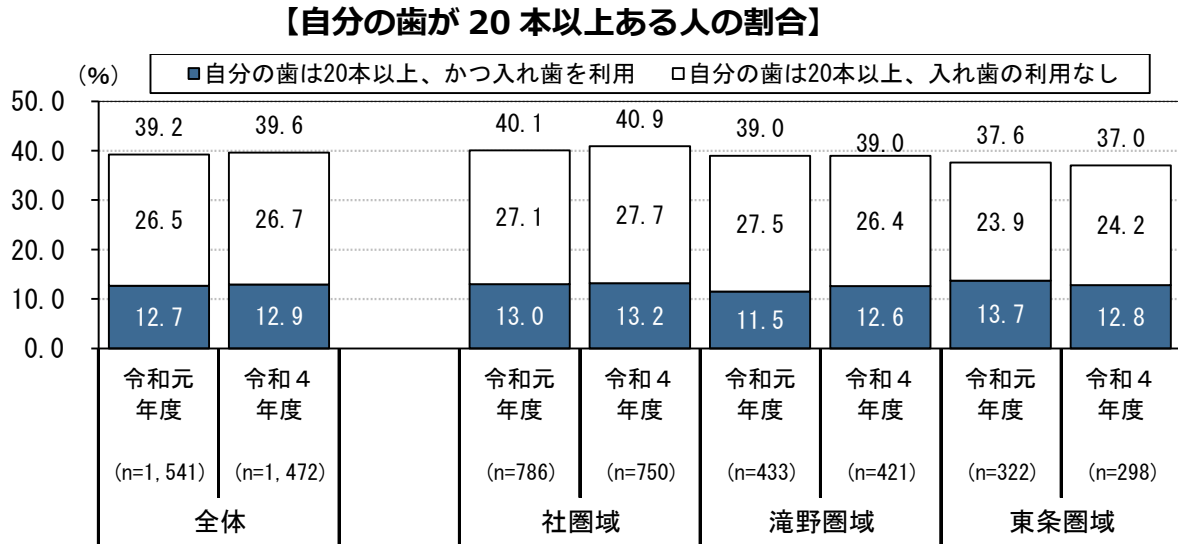
単位：％

区分	回答者数 (件)	何度もある	1度ある	ない	無回答
全 体	1472	13.0	23.4	60.3	3.3
インドア派 外交的	125	13.6	28.8	56.8	0.8
インドア派 内向的	230	25.7	27.8	45.2	1.3
アウトドア派 外交的	548	7.7	20.3	71.7	0.4
アウトドア派 内向的	345	11.9	22.3	65.2	0.6

5 食べることについて

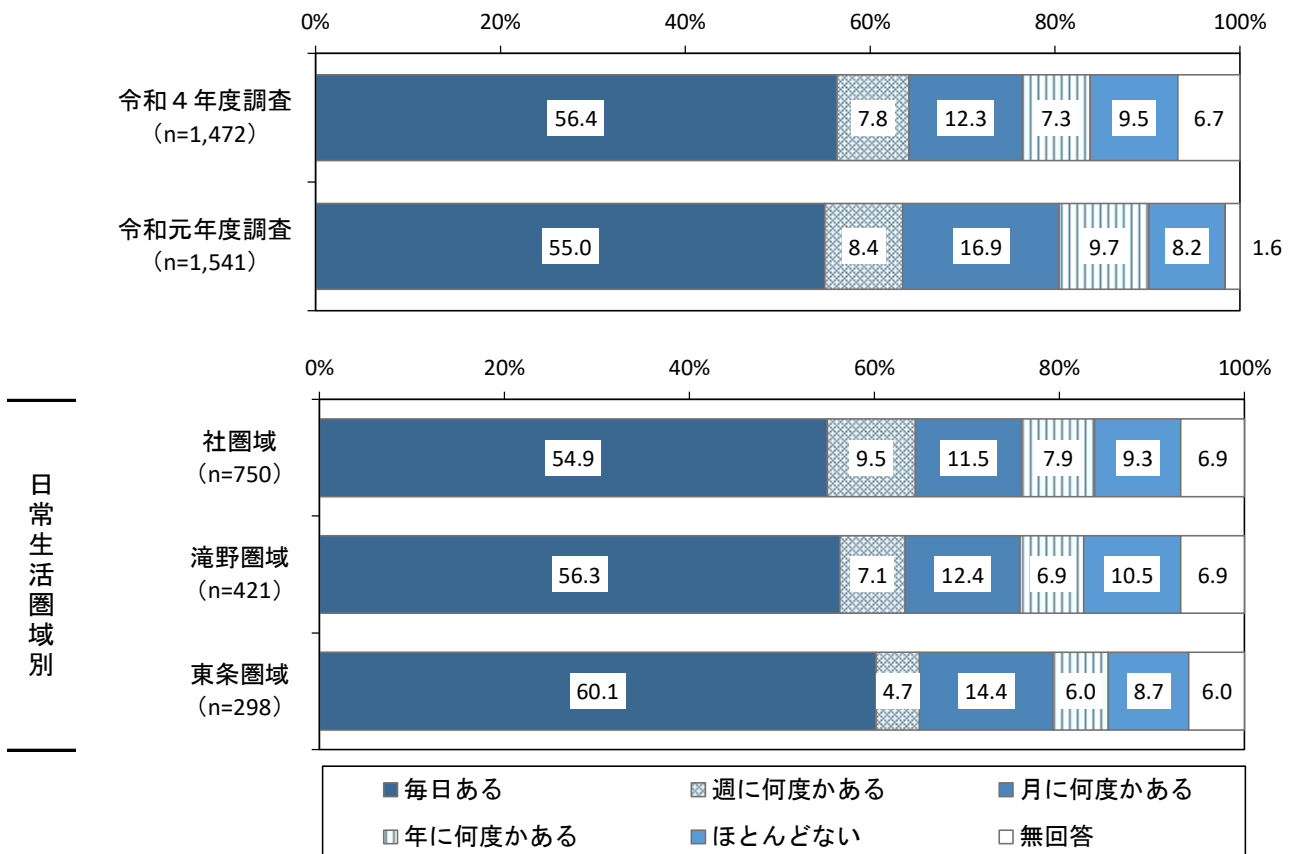
(1) 自分の歯が 20 本以上ある人の割合

自分の歯が 20 本以上ある人の割合は 39.6%となっています。



(2) 誰かと食事をとる機会

共食の有無について、「毎日ある」が 56.4%で最も多く、次いで「月に何度かある」が 12.3%、「ほとんどない」が 9.5%となっています。

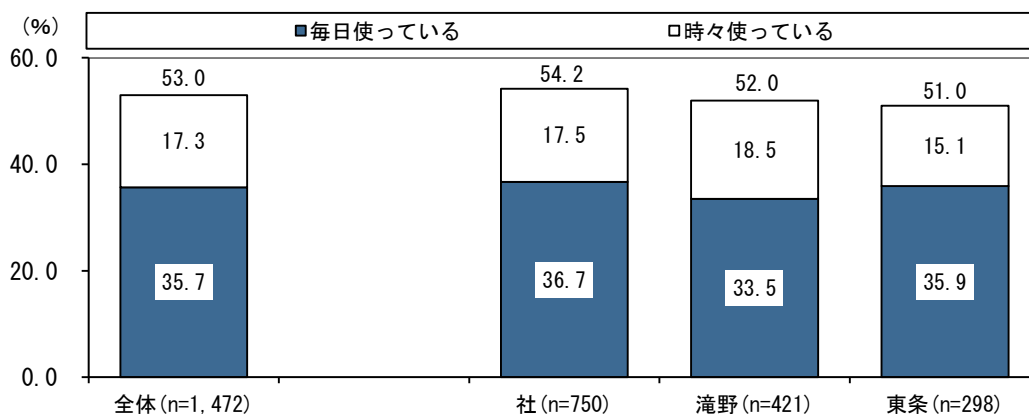


6 毎日の生活について

(1) パソコンやスマートフォンを使用している人の割合

パソコンやスマートフォンを使用している（「毎日使っている」と「時々使っている」の合計）人の割合は、53.0%となっています。

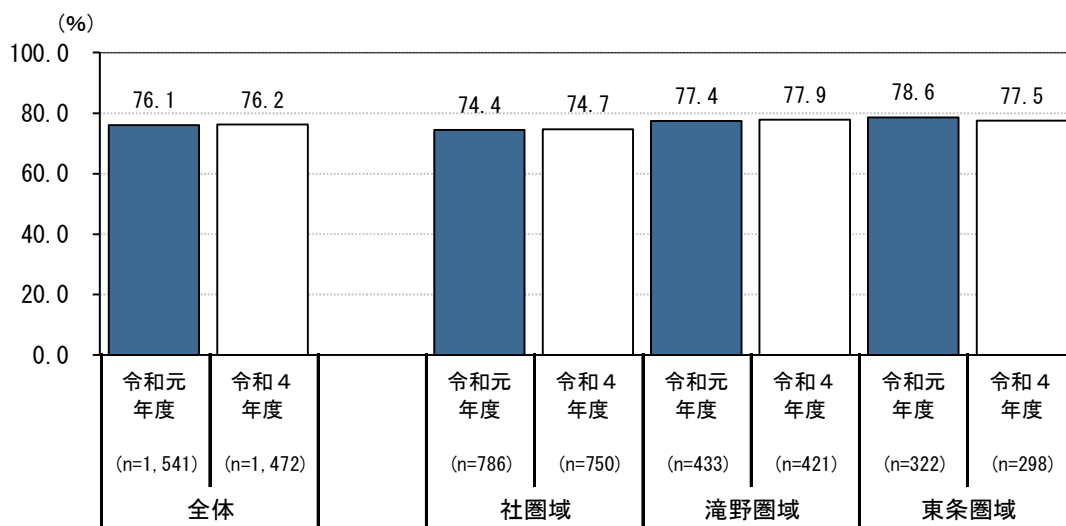
【パソコンやスマートフォンを使用している人の割合】



(2) 趣味がある人の割合

趣味がある人の割合は 76.2%となっています。

【趣味がある人の割合】

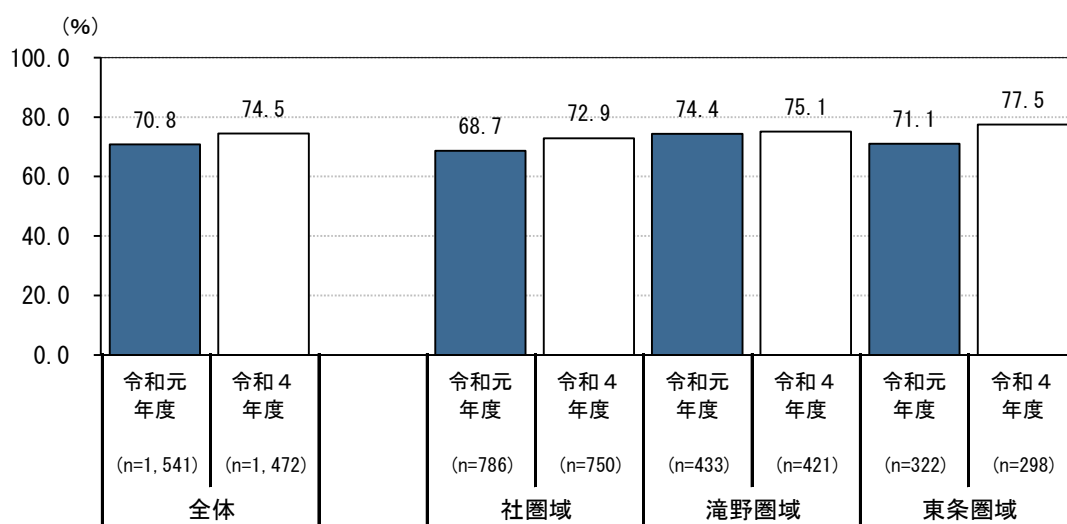


（３）生きがいがある人の割合

生きがいがある人の割合は 74.5%となっています。

令和元年度調査（70.8%）と比較すると、全体で 3.7 ポイント増加しており、日常生活圏域別でみると、東条圏域（77.5%）が令和元年度調査（71.1%）より 6.4 ポイント増加し、最も増加した圏域となっています。

【生きがいがある人の割合】



【高齢者の外出タイプ別】

高齢者の外出タイプ別にみると、他に比べ、インドア派内向的で「思いつかない」の割合が、アウトドア派外交的、インドア派外交的で「生きがいあり」の割合が高くなっています。

単位：％

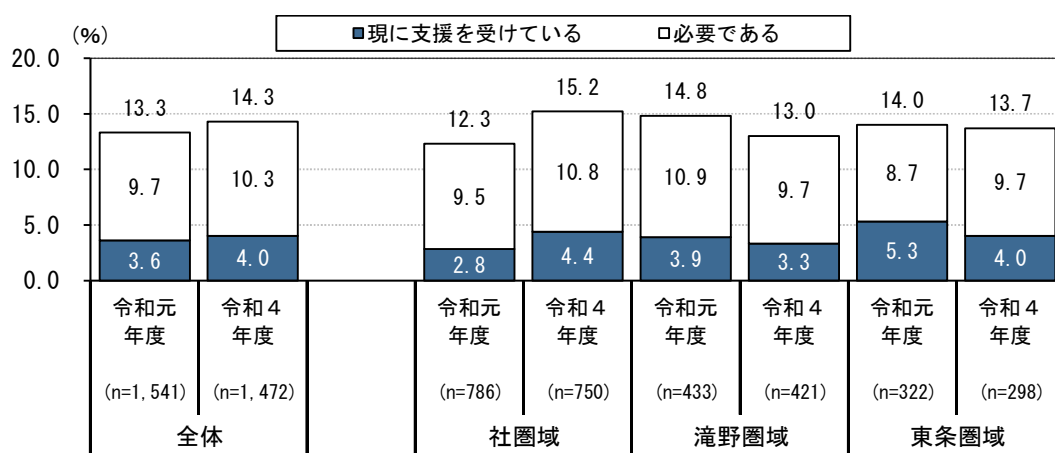
区分	回答者数 (件)	生きがいあり	思いつかない	無回答
全 体	1472	74.5	19.6	5.8
インドア派 外交的	125	80.0	19.2	0.8
インドア派 内向的	230	50.9	46.1	3.0
アウトドア派 外交的	548	88.3	10.8	0.9
アウトドア派 内向的	345	78.8	18.3	2.9

（４）必要だと思う外部の支援

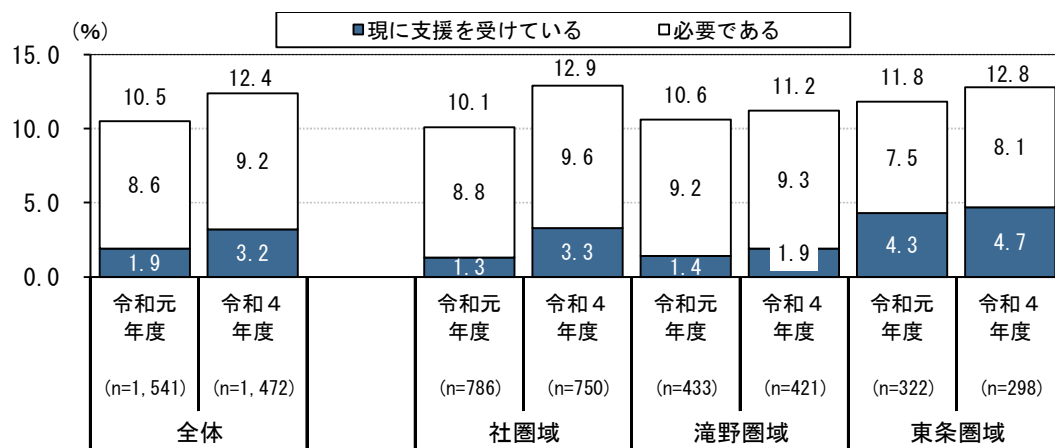
日常生活で必要だと思う外部の支援について、『必要だと感じる』（「現に支援を受けている」と「必要である」の合計）では、「⑥ 話し相手」が 15.5%で最も多く、次いで「① 買い物」が 14.3%、「② ごみ出し」が 12.4%となっています。

また、全ての項目について、令和元年度調査と比較して外部の支援が必要と感じる方が増加しています。

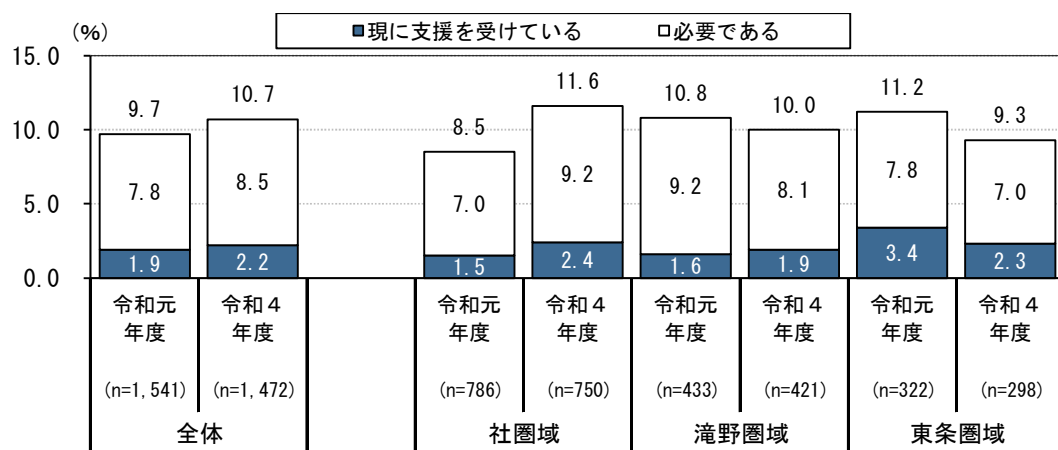
①買い物



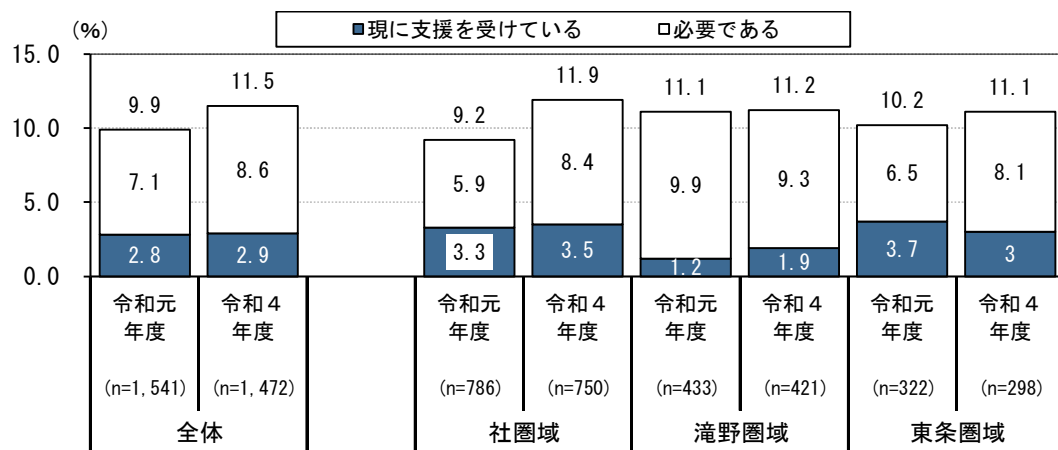
②ごみ出し



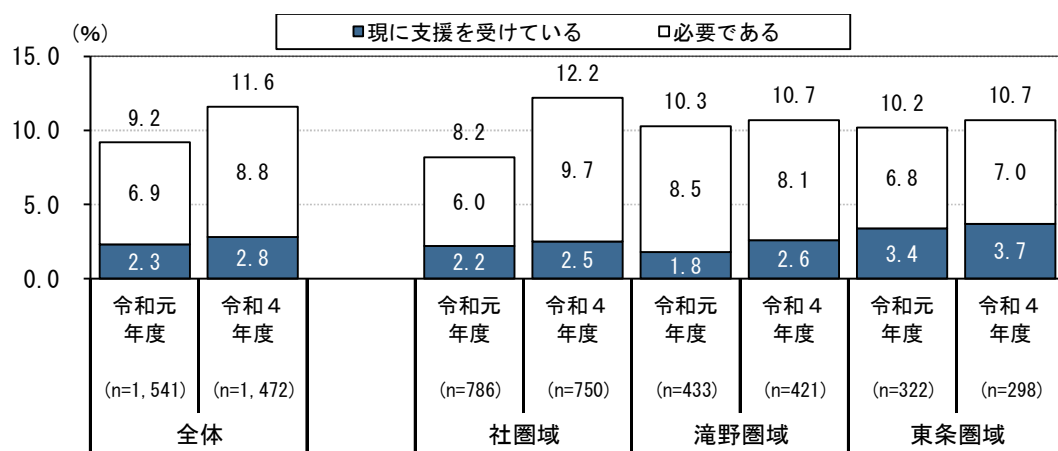
③食事を作ること



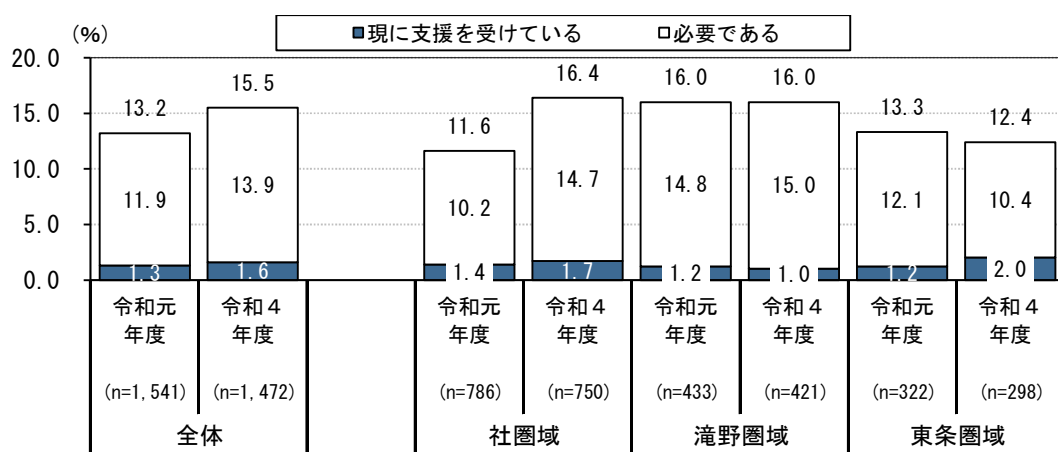
④居室の掃除



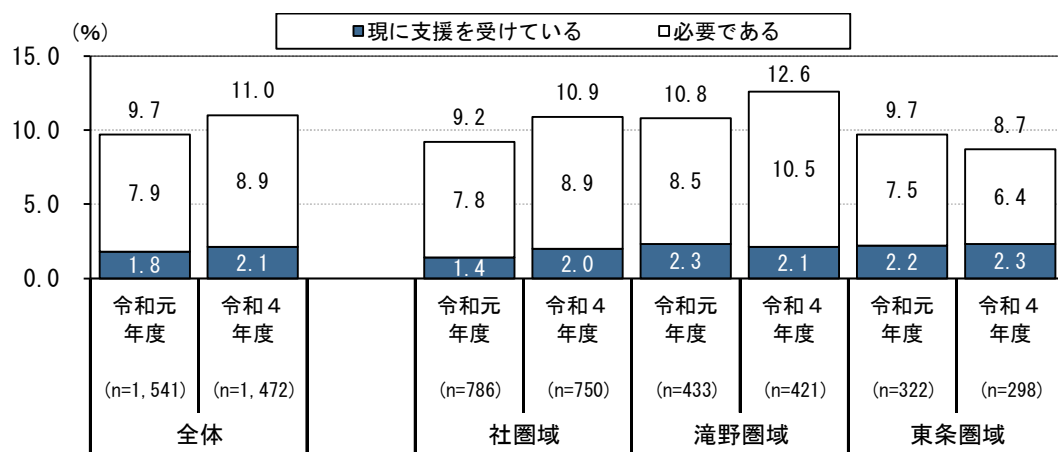
⑤外出支援



⑥話し相手



⑦移送支援



7 地域での活動について

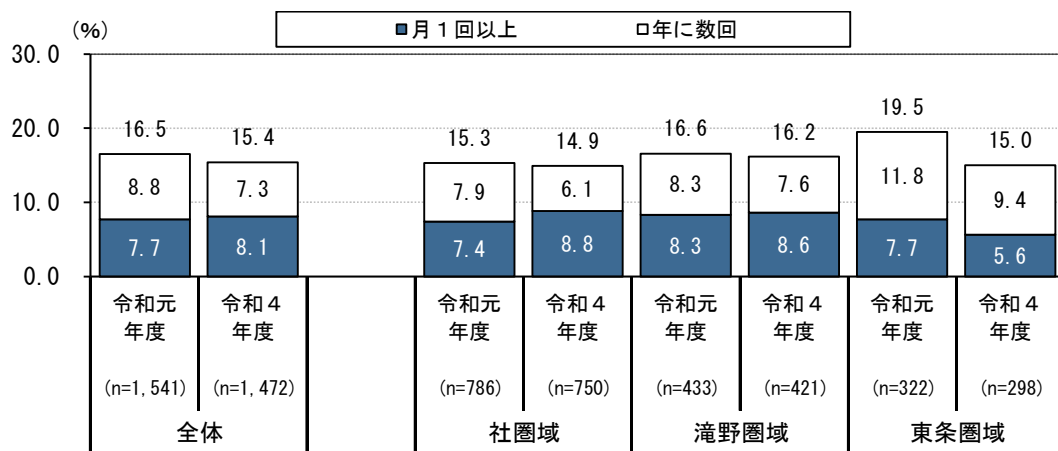
(1) 会・グループ等への参加頻度

地域での活動について、参加頻度を年に数回以上でみると、「⑦ 町内会・自治会活動」が33.2%で最も多く、次いで「⑥ 老人クラブ活動」が21.0%、「⑧収入のある仕事」が21.5%となっています。

また、日常生活圏域別にみると、社圏域では「⑦ 町内会・自治会活動」と「⑧ 収入のある仕事」が令和元年度調査から微増していますが、その他の項目の全ての圏域で、令和元年度調査から減少しています。

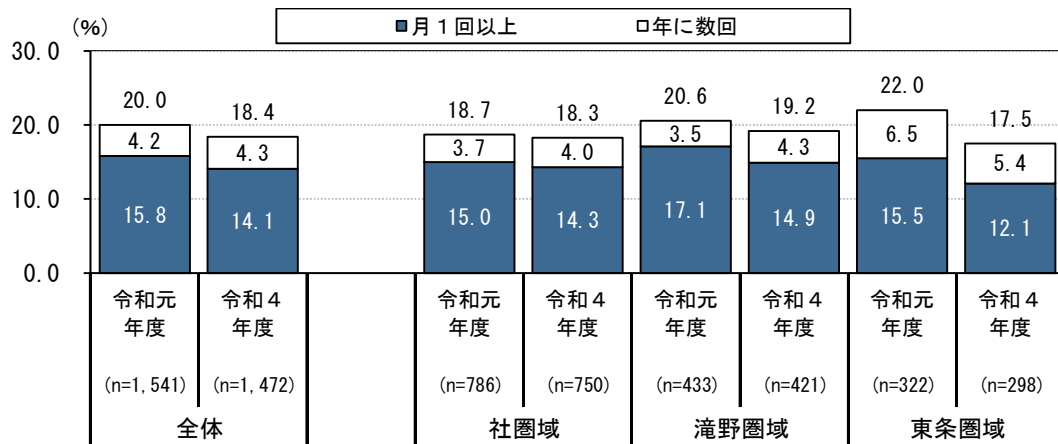
① ボランティアのグループ

【ボランティアのグループへの参加頻度 年に数回以上】



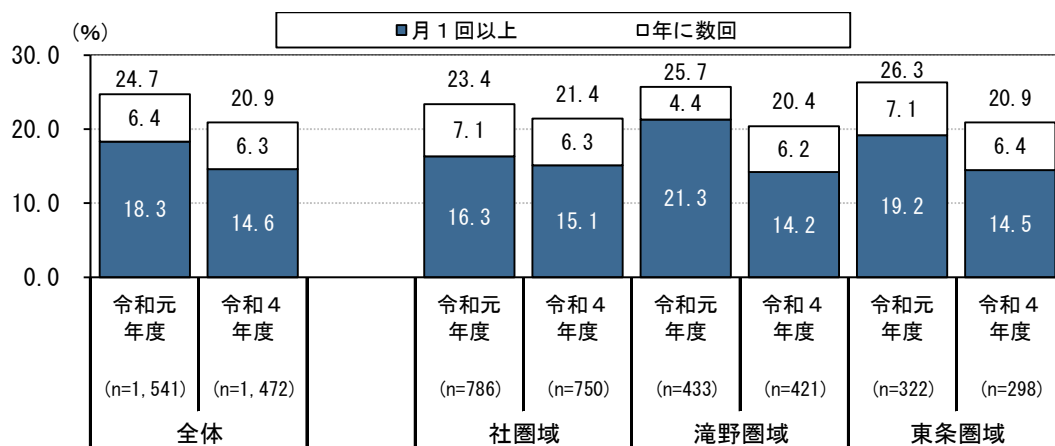
② スポーツ関係のグループやクラブ

【スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度 年に数回以上】



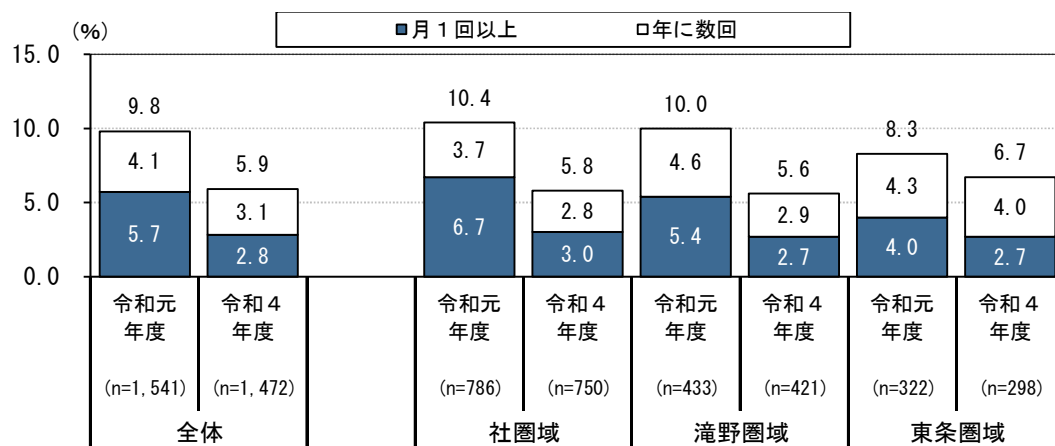
③趣味関係のグループ

【趣味関係のグループへの参加頻度 年に数回以上】



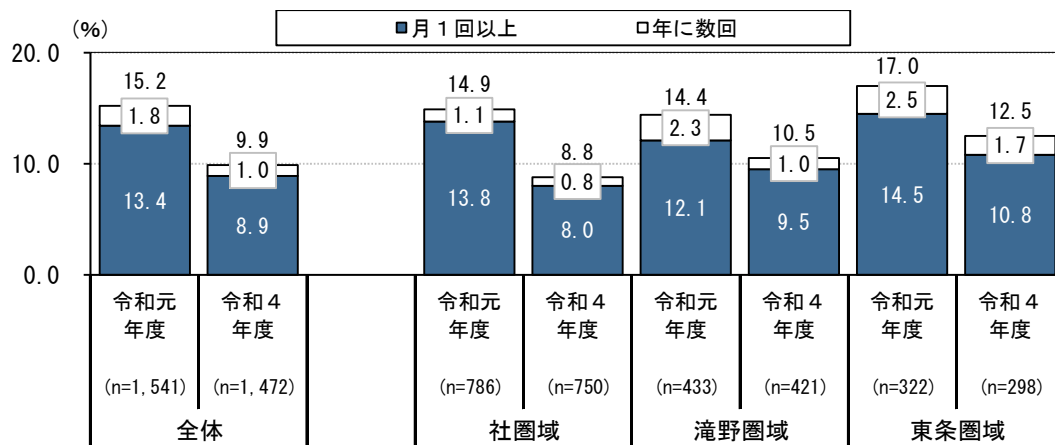
④学習・教養サークル

【学習・教養サークルへの参加頻度 年に数回以上】



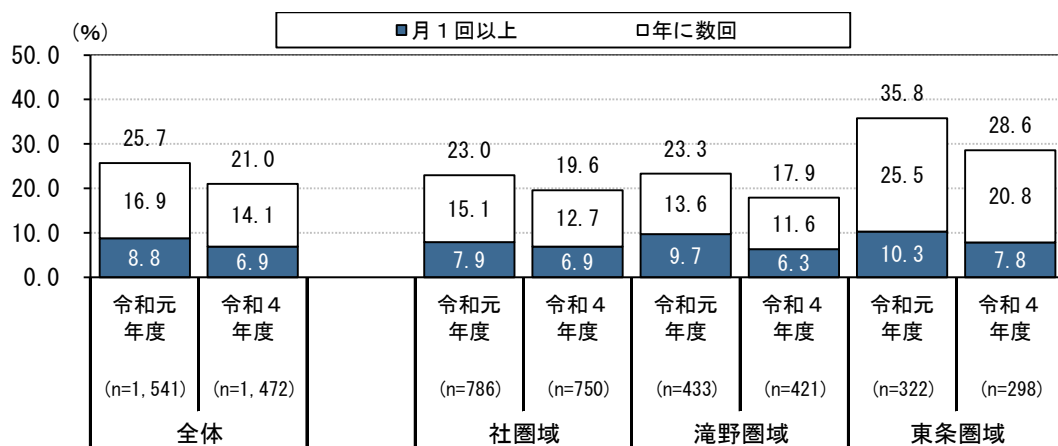
⑤（かとうまちかど体操教室、ふまねっと教室など）介護予防のための通いの場

【介護予防のための通いの場への参加頻度 年に数回以上】



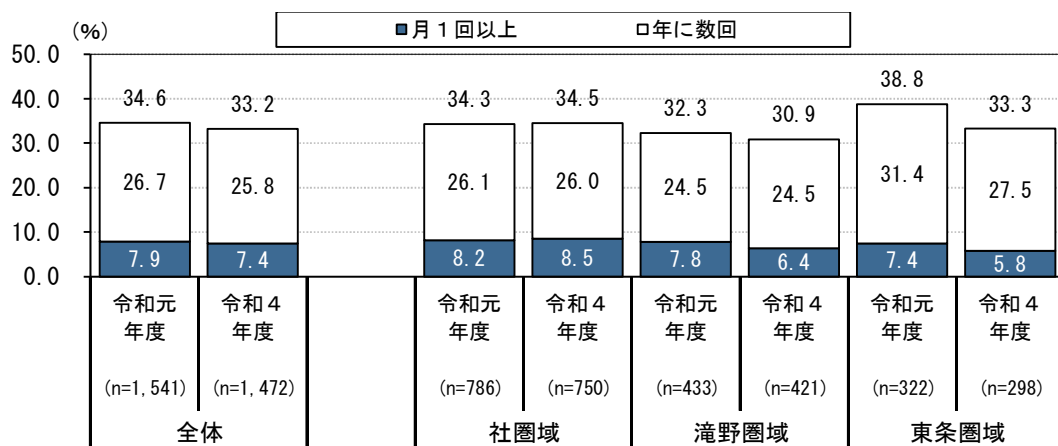
⑥老人クラブ活動

【老人クラブ活動への参加頻度 年に数回以上】



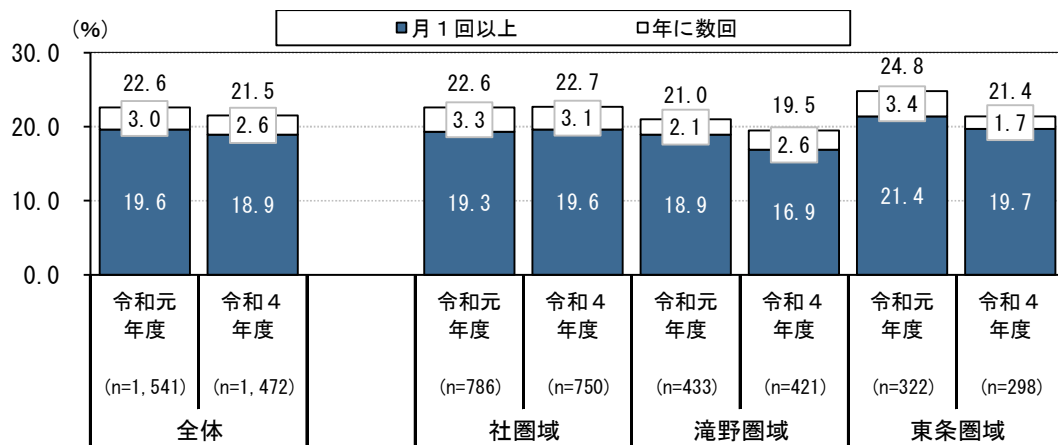
⑦町内会・自治会活動

【町内会・自治会活動への参加頻度 年に数回以上】



⑧収入のある仕事

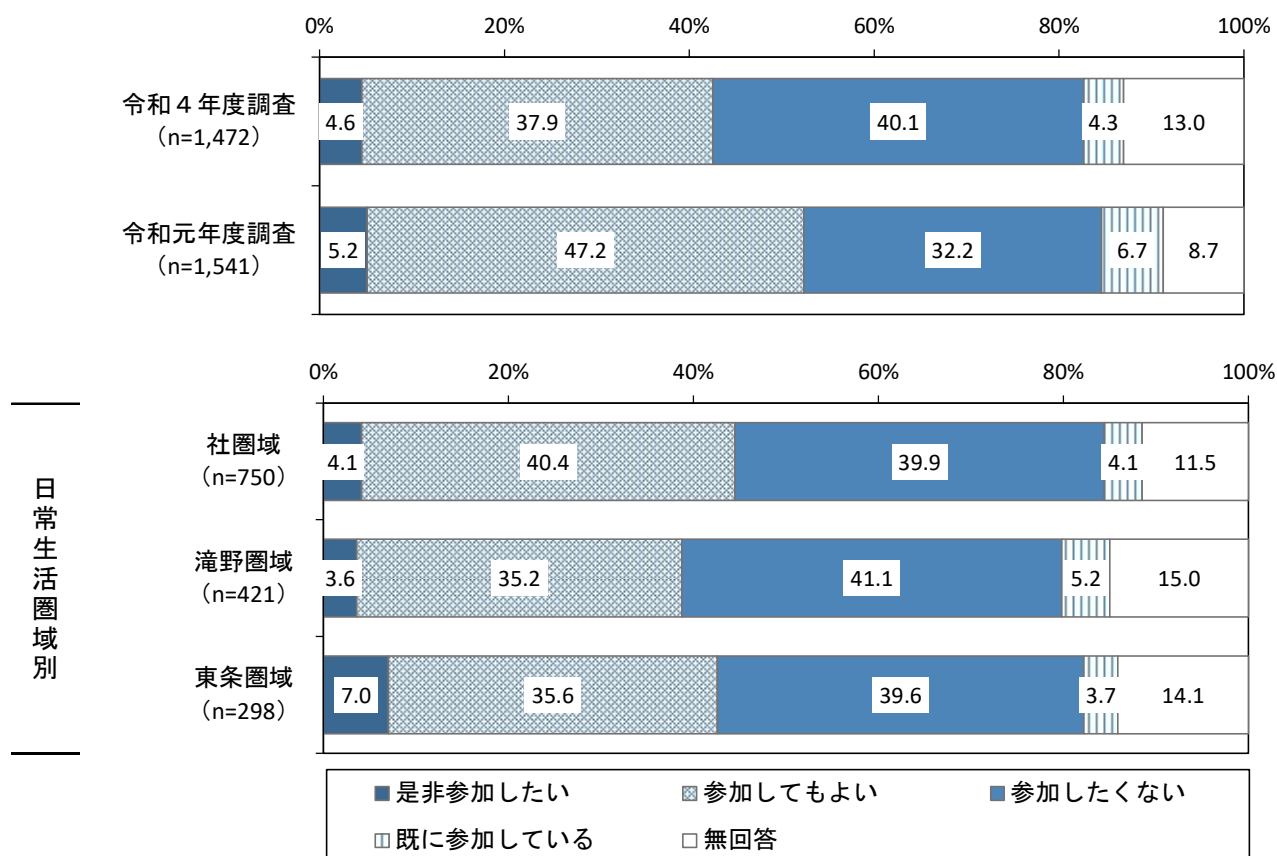
【収入のある仕事への参加頻度 年に数回以上】



（２）地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向（参加者として）

地域づくり活動に対する参加者としての参加意向について、「参加したくない」が40.1%で最も多く、次いで「参加してもよい」が37.9%、「既に参加している」が4.3%となっており、参加意向のある高齢者の割合（「是非参加したい」と「参加してもよい」と「既に参加している」の合計）は46.8%となっています。

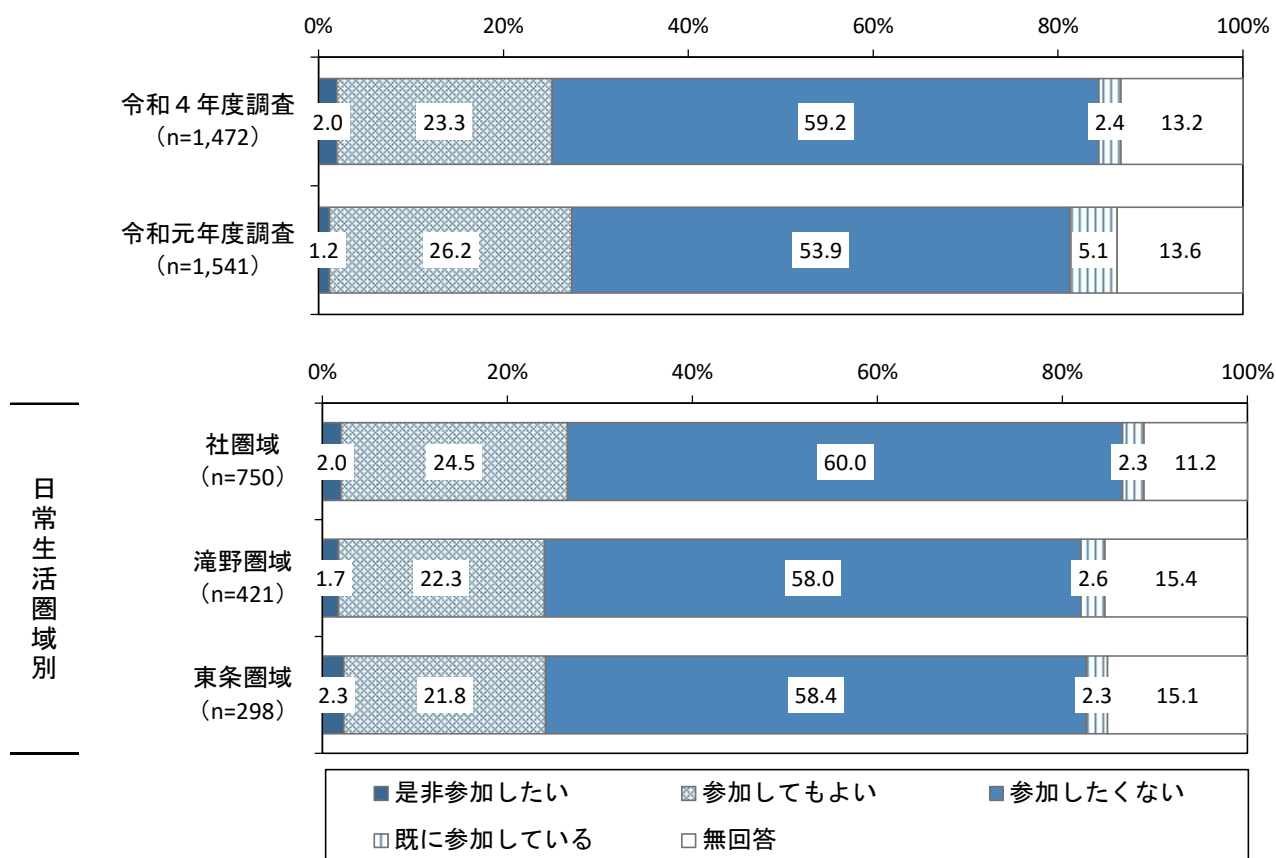
日常生活圏域別でみると、参加意向のある高齢者の割合は、社圏域が48.6%で最も高くなっています。



（３）地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向（企画・運営側として）

地域づくり活動に対するお世話役としての参加意向について、「参加したくない」が59.2%で最も多く、次いで「参加してもよい」が23.3%、「既に参加している」が2.4%となっており、参加意向のある高齢者の割合（「是非参加したい」と「参加してもよい」と「既に参加している」の合計）は27.7%となっています。

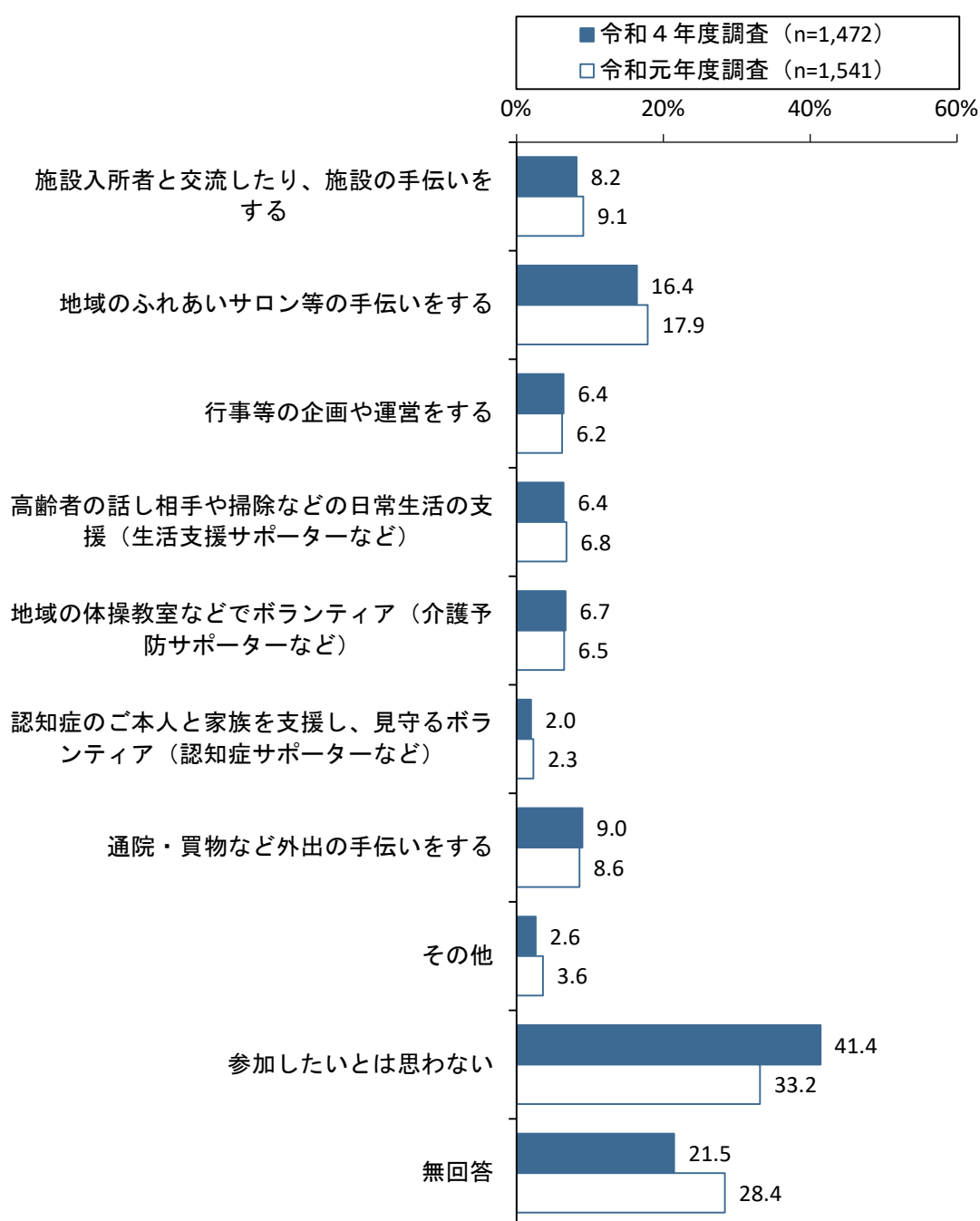
日常生活圏域別でみると、参加意向のある高齢者の割合は、社圏域が28.8%で最も高くなっています。



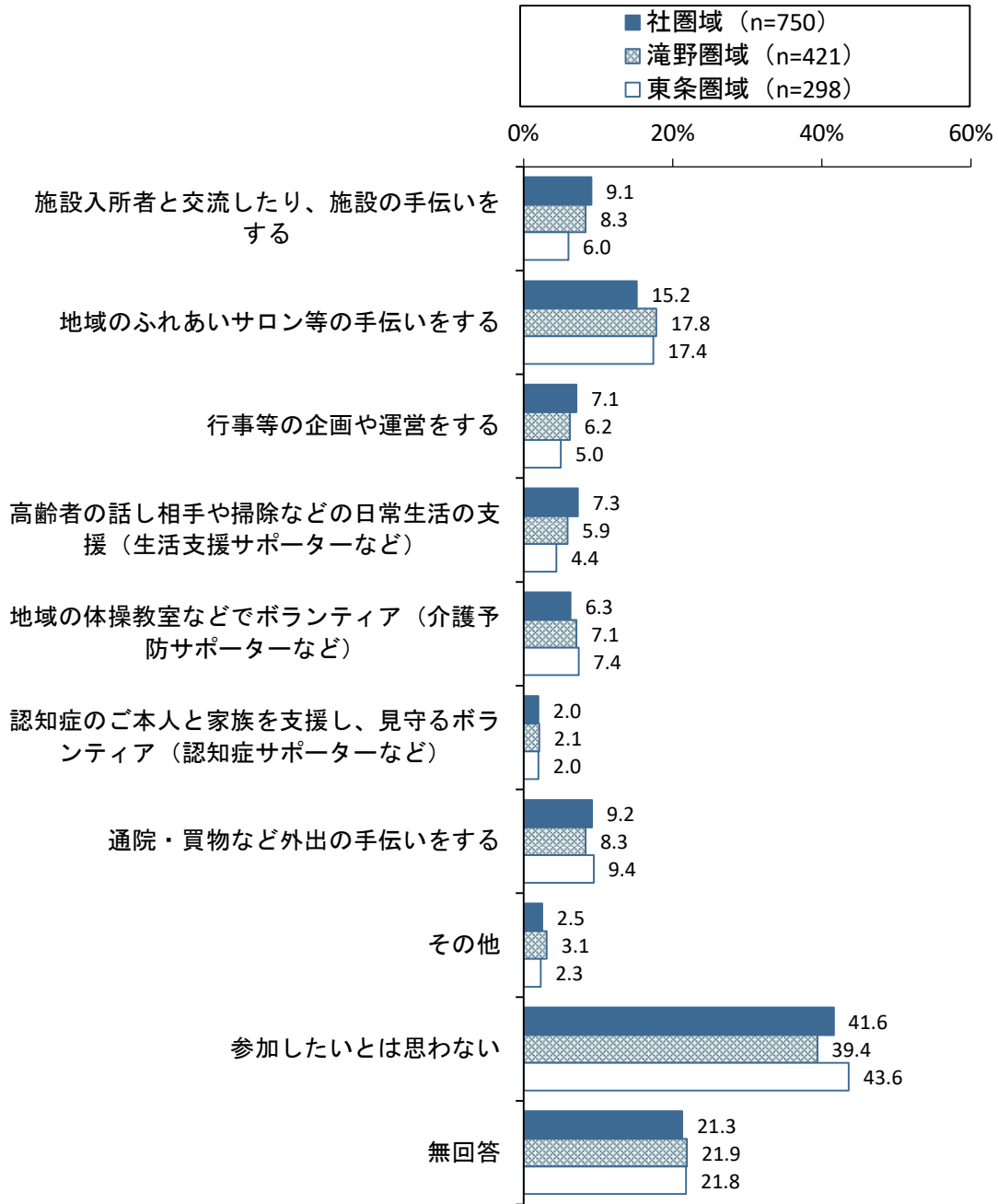
（４）参加したいボランティアの内容

参加したいボランティアの内容について、「参加したいとは思わない」が 41.4%で最も多く、次いで「地域のふれあいサロン等の手伝いをする」が 16.4%、「通院・買物など外出の手伝いをする」が 9.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「参加したいとは思わない」では、東条圏域が 43.6%で最も高くなっています。



【日常生活圏域別】

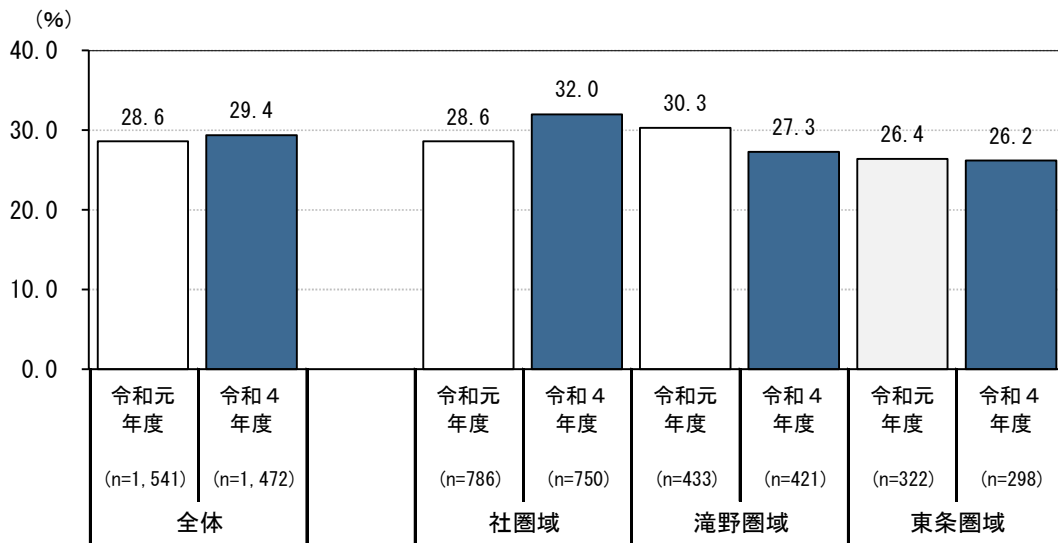


8 たすけあいについて

(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手がいない割合

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手がいない人の割合は 29.4%となっています。

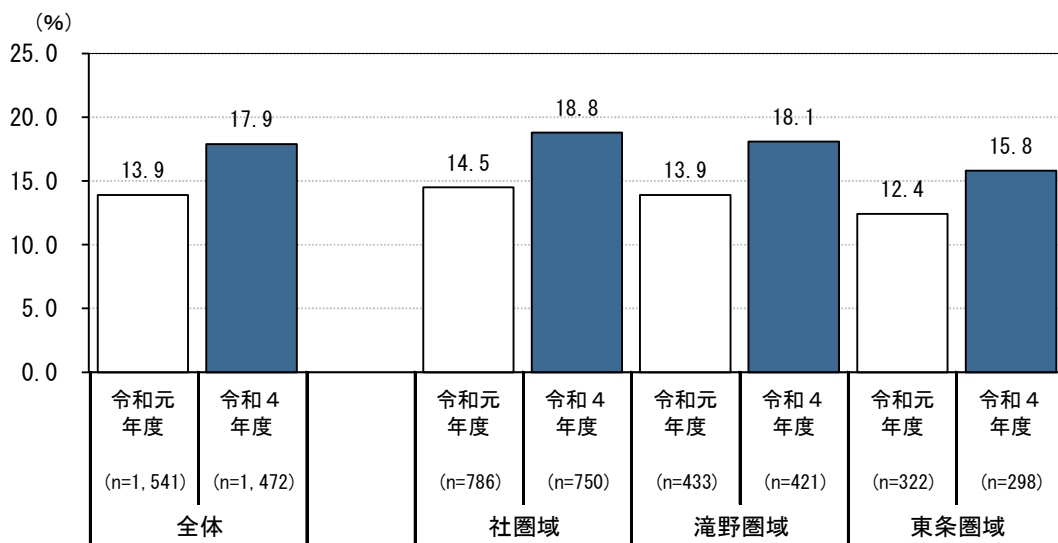
【家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手がいない人の割合】



(2) 友人・知人と会う頻度がほとんどない人の割合

友人・知人と会う頻度がほとんどない人の割合は 17.9%となっています。

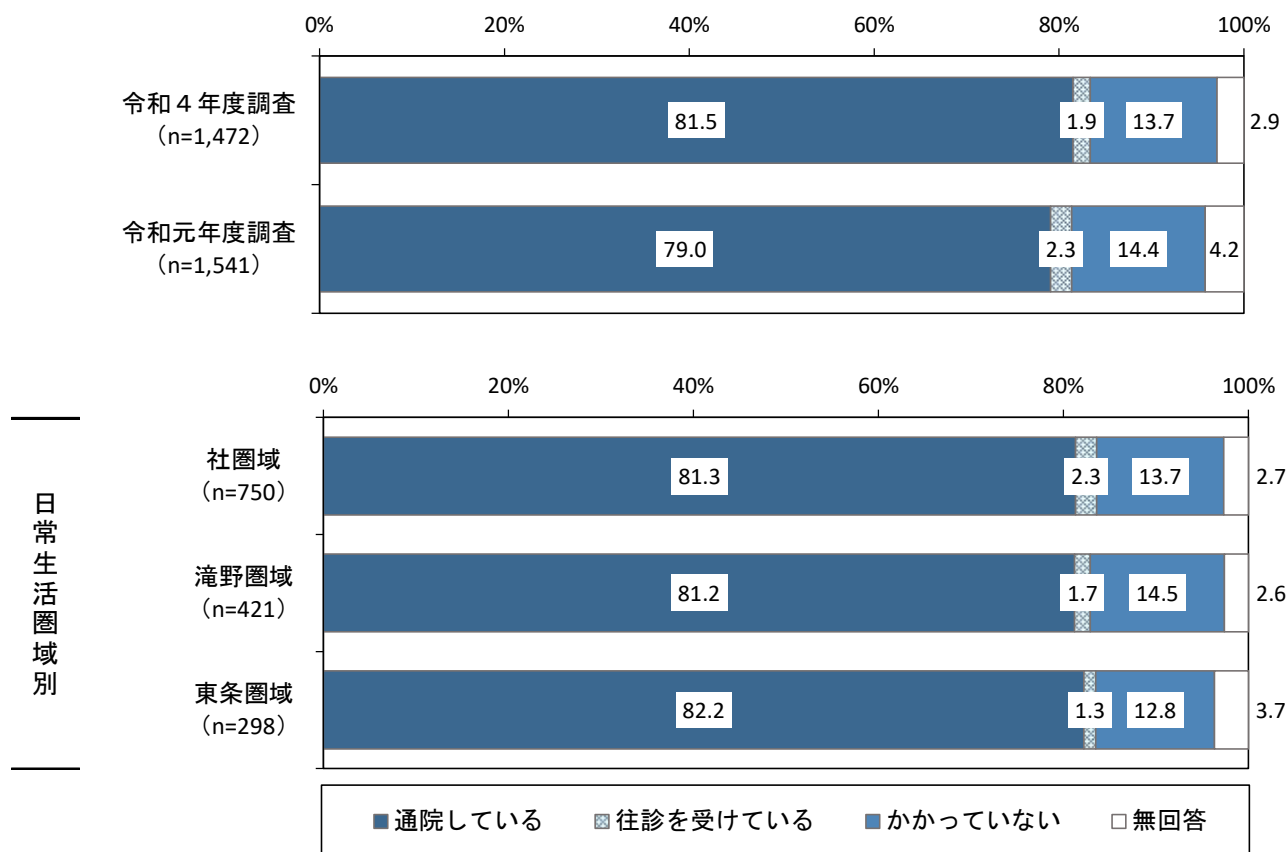
【友人・知人と会う頻度がほとんどない人の割合】



9 健康について

(1) 現在、病院・医院にかかっているか

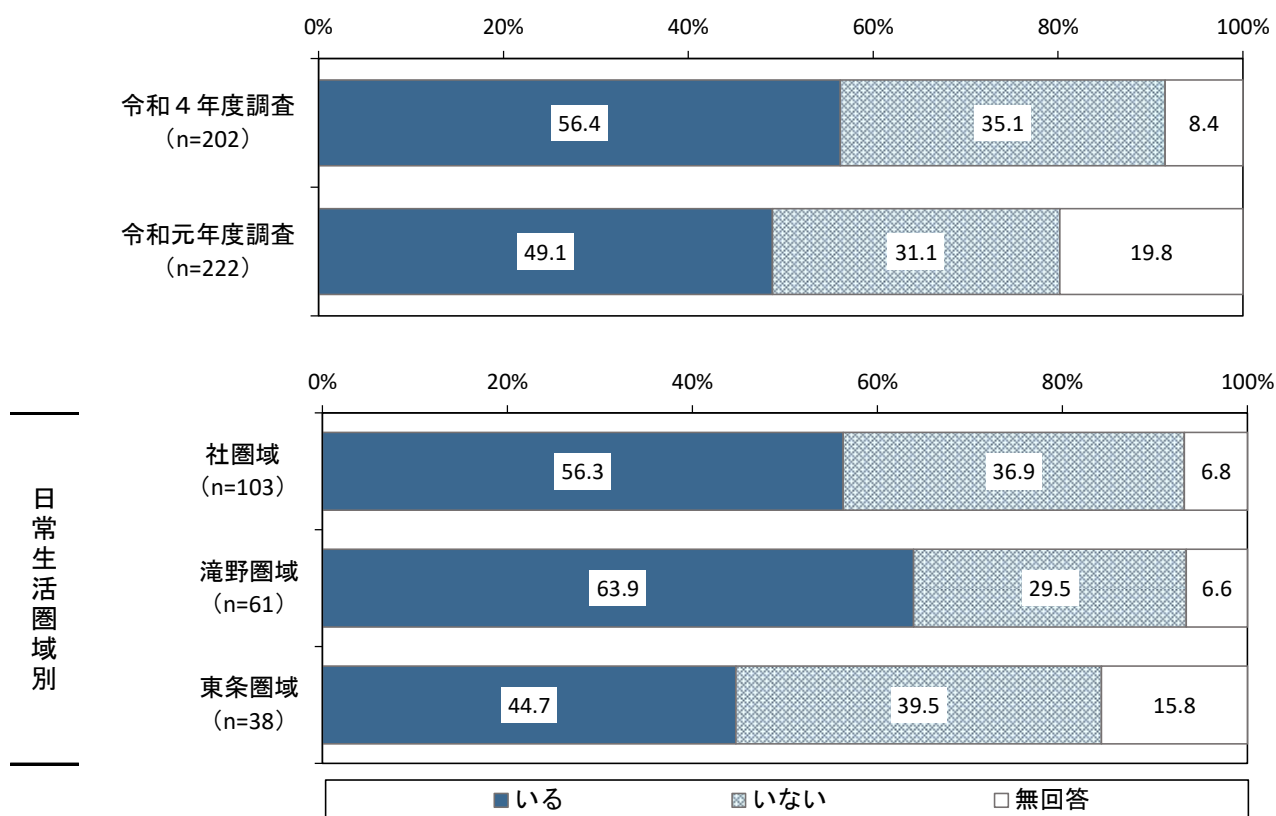
現在、病院・医院にかかっているかについて、「通院している」が 81.5%で最も多く、次いで「かかっていない」が 13.7%、「往診を受けている」が 1.9%となっています。



（２）かかりつけの医師の有無

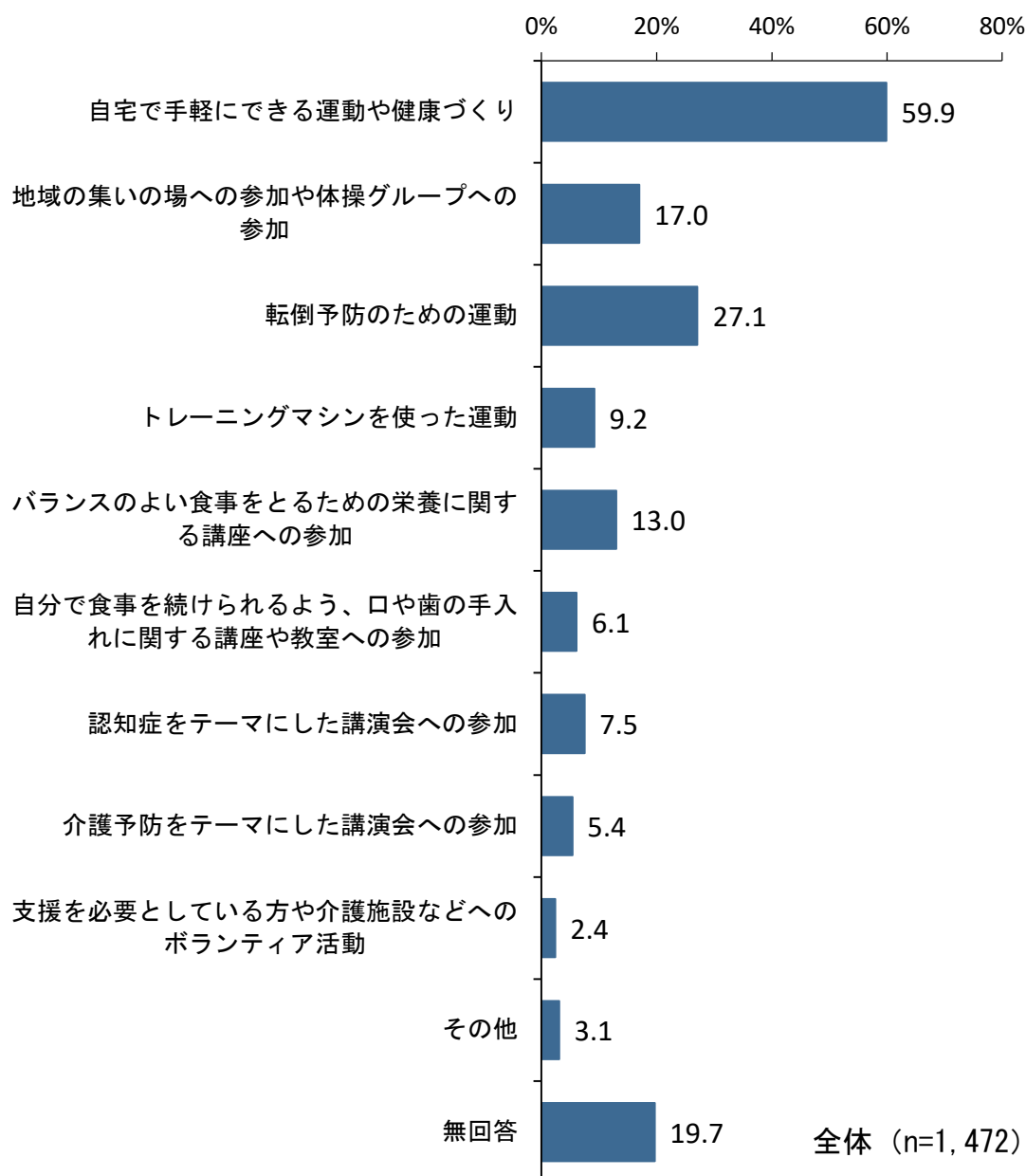
現在、病院・医院にかかっていない人のかかりつけの医師の有無について、「はい」が56.4%「いいえ」が35.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、現在、病院・医院にかかっていない人のかかりつけの医師がいる人の割合は、滝野圏域が63.9%で最も高く、東条圏域が44.7%で最も低くなっています。

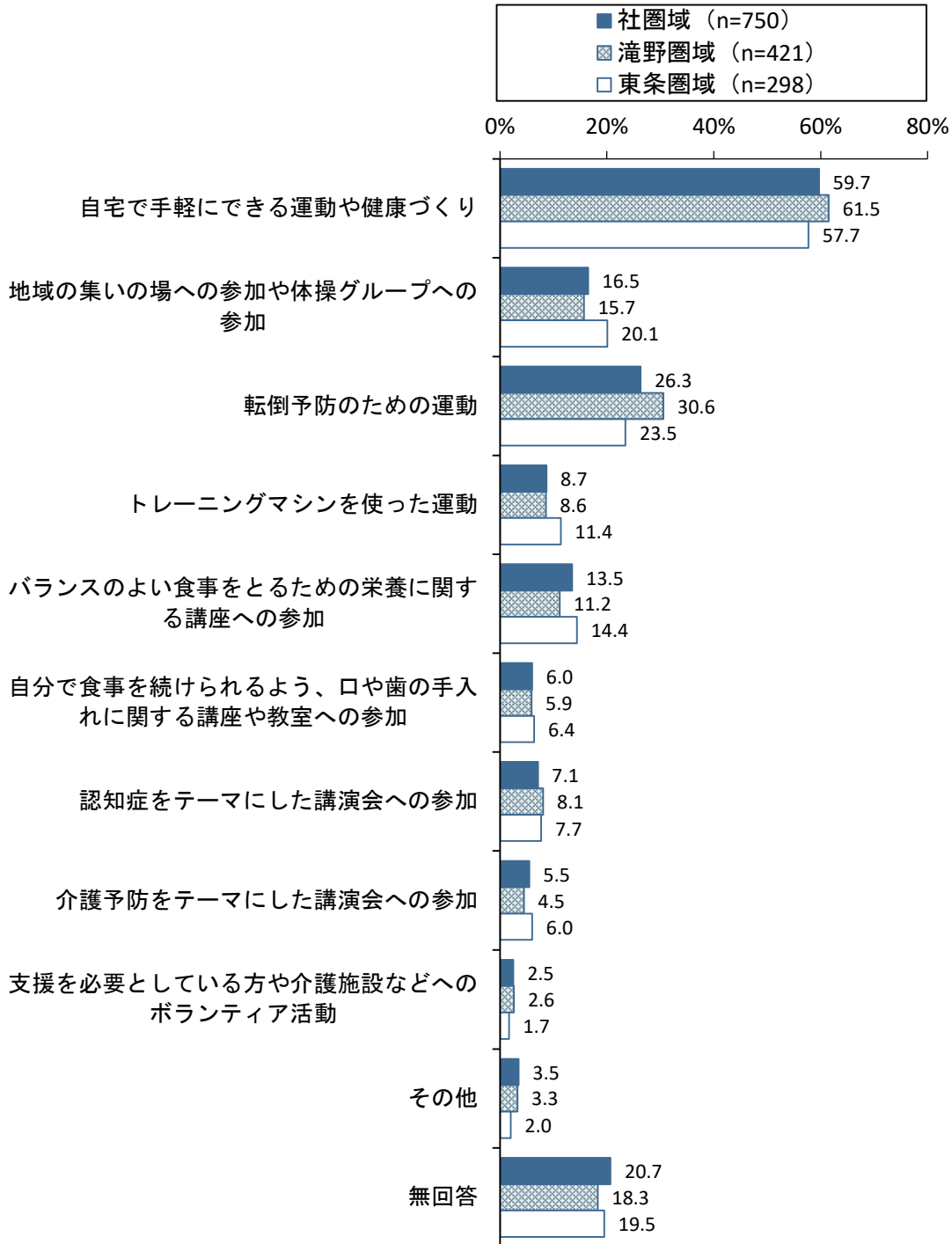


（３）今後の介護予防の取り組みに関して興味のあること

今後の介護予防の取り組みに関して興味のあることについて、「自宅で手軽にできる運動や健康づくり」が 59.9%で最も高く、次いで「転倒予防のための運動」が 27.1%、「地域の集いの場への参加や体操グループへの参加」が 17.0 と続いています。

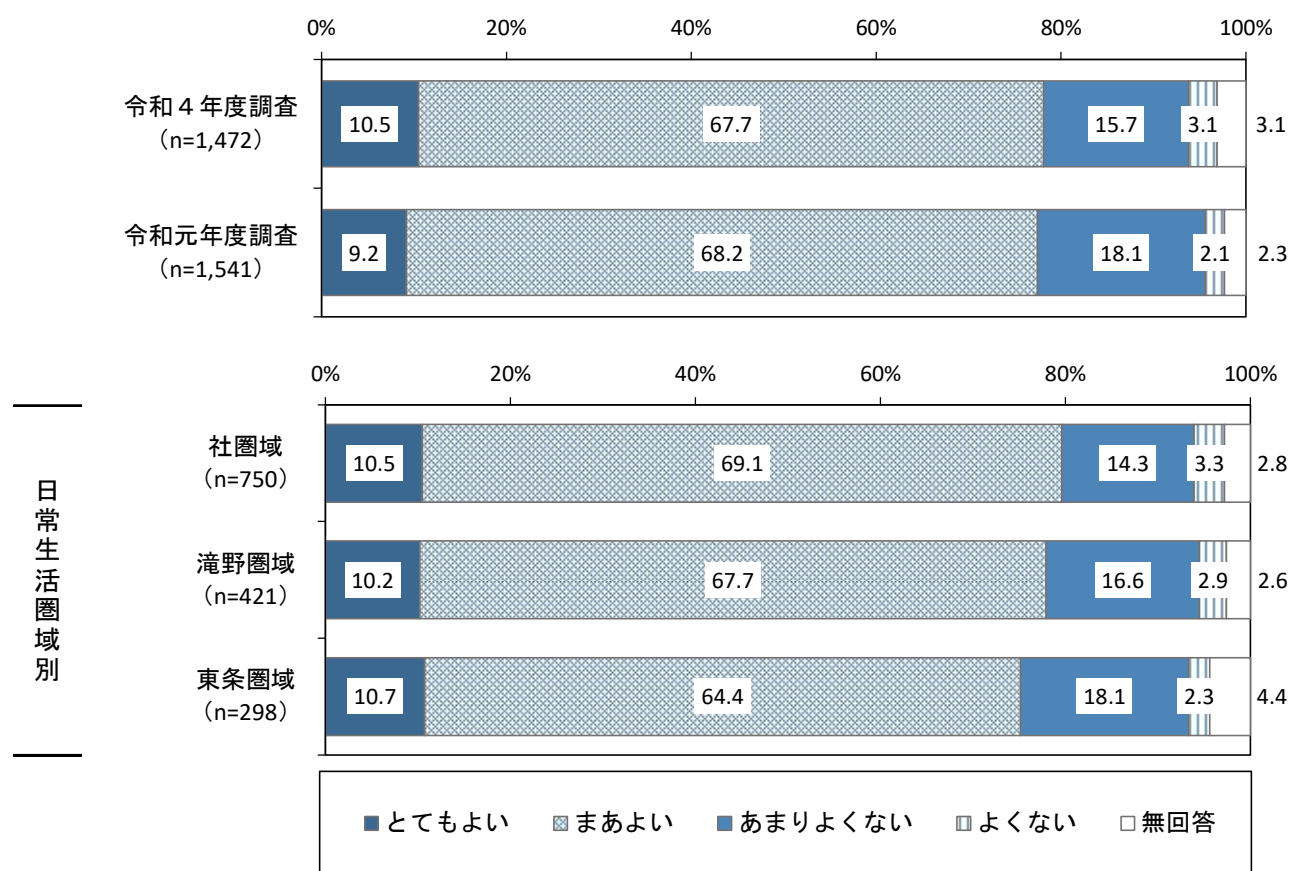


【日常生活圏域別】



（４）主観的な健康感

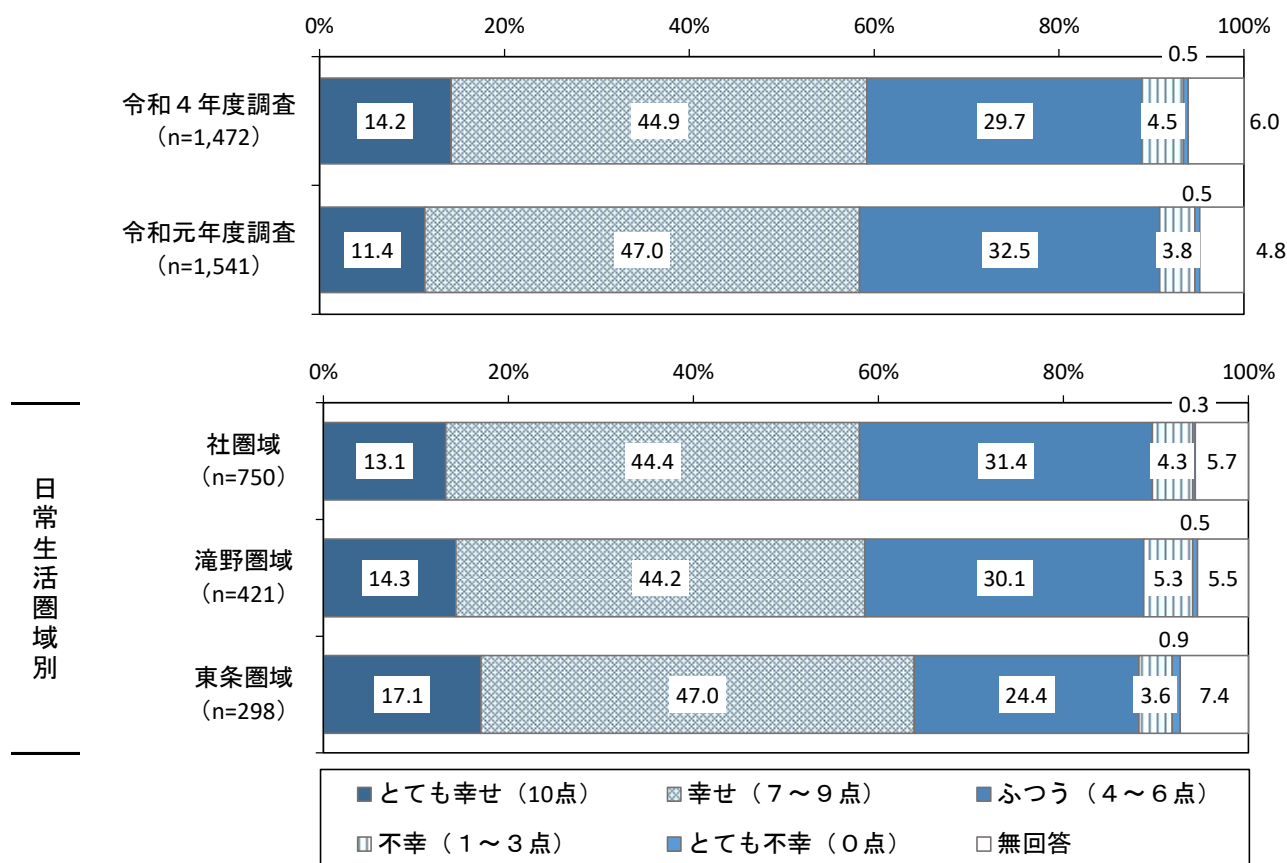
主観的健康感について、「まあよい」が 67.7%で最も多く、次いで「あまりよくない」が 15.7%、「とてもよい」が 10.5%となっています。



(5) 幸福感

幸福感について、「幸せ（7～9点）」が44.9%で最も多く、次いで「ふつう（4～6点）」が29.7%、「とても幸せ（10点）」が14.2%となっています。

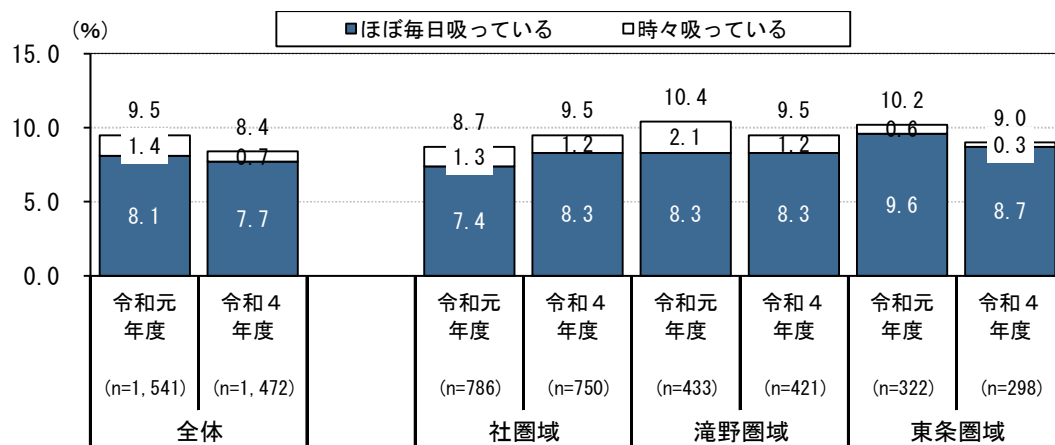
日常生活圏域別でみると、『幸せ（「とても幸せ（10点）」と「幸せ（7～9点）」の合計）』では、東条圏域が64.1%で最も高くなっています。



(6) 喫煙率

喫煙率については8.4%となっています。

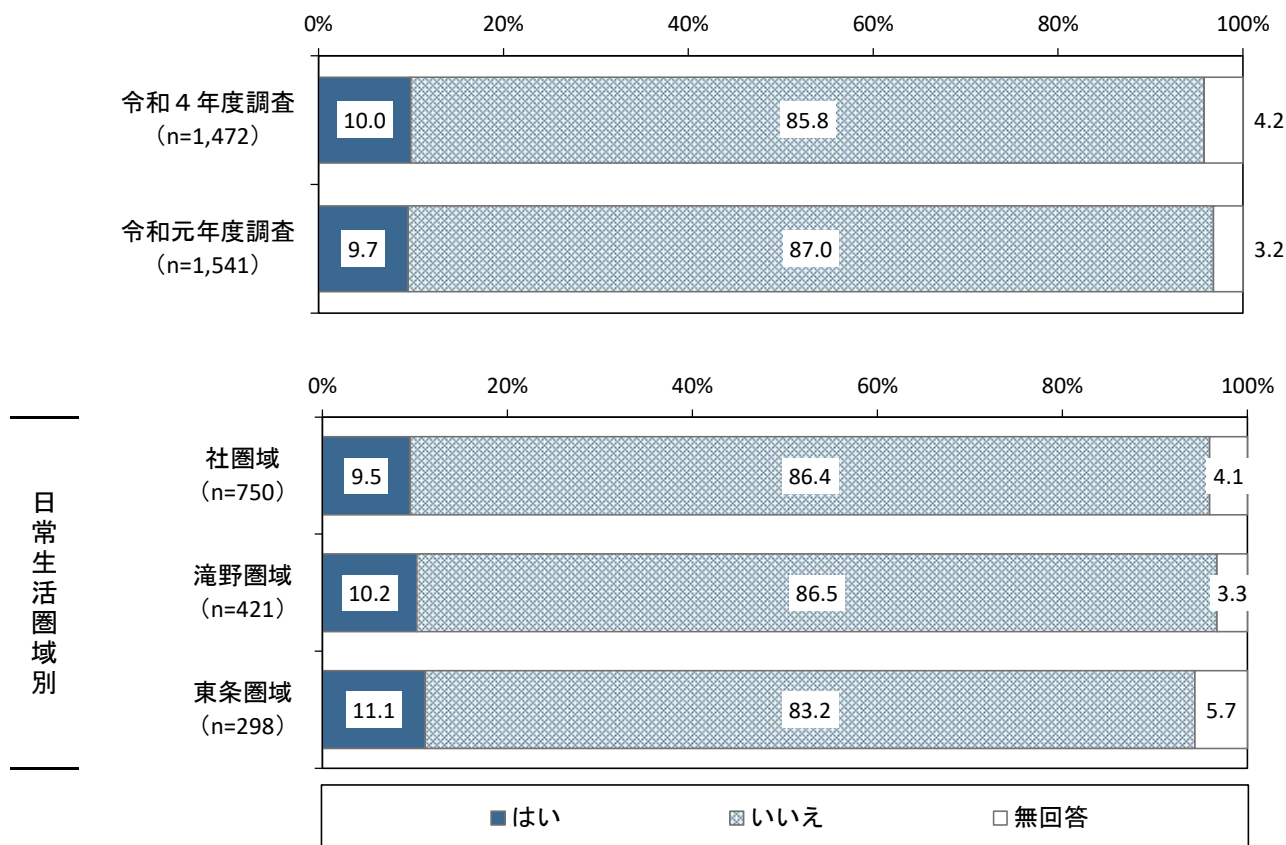
【喫煙者の割合】



10 認知症について

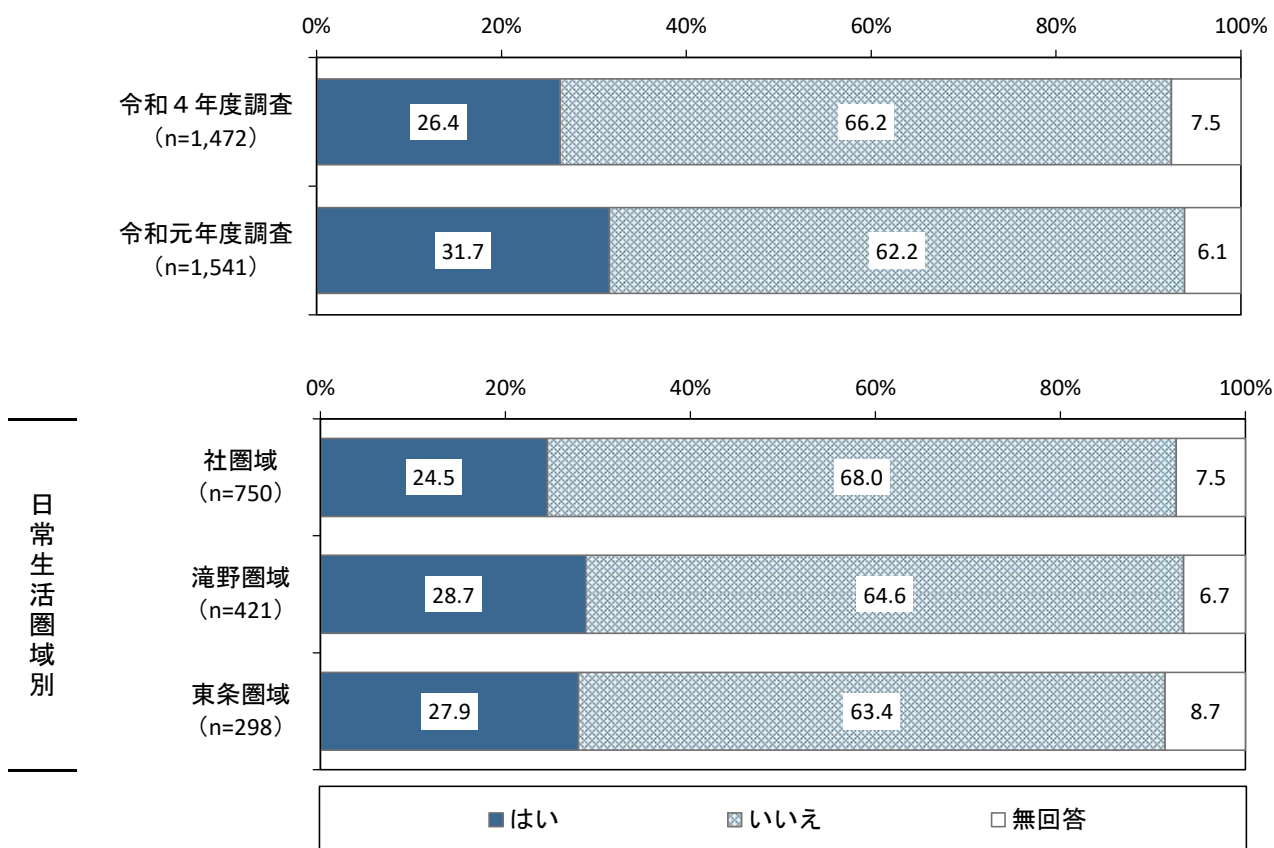
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が10.0%、「いいえ」が85.8%となっています。



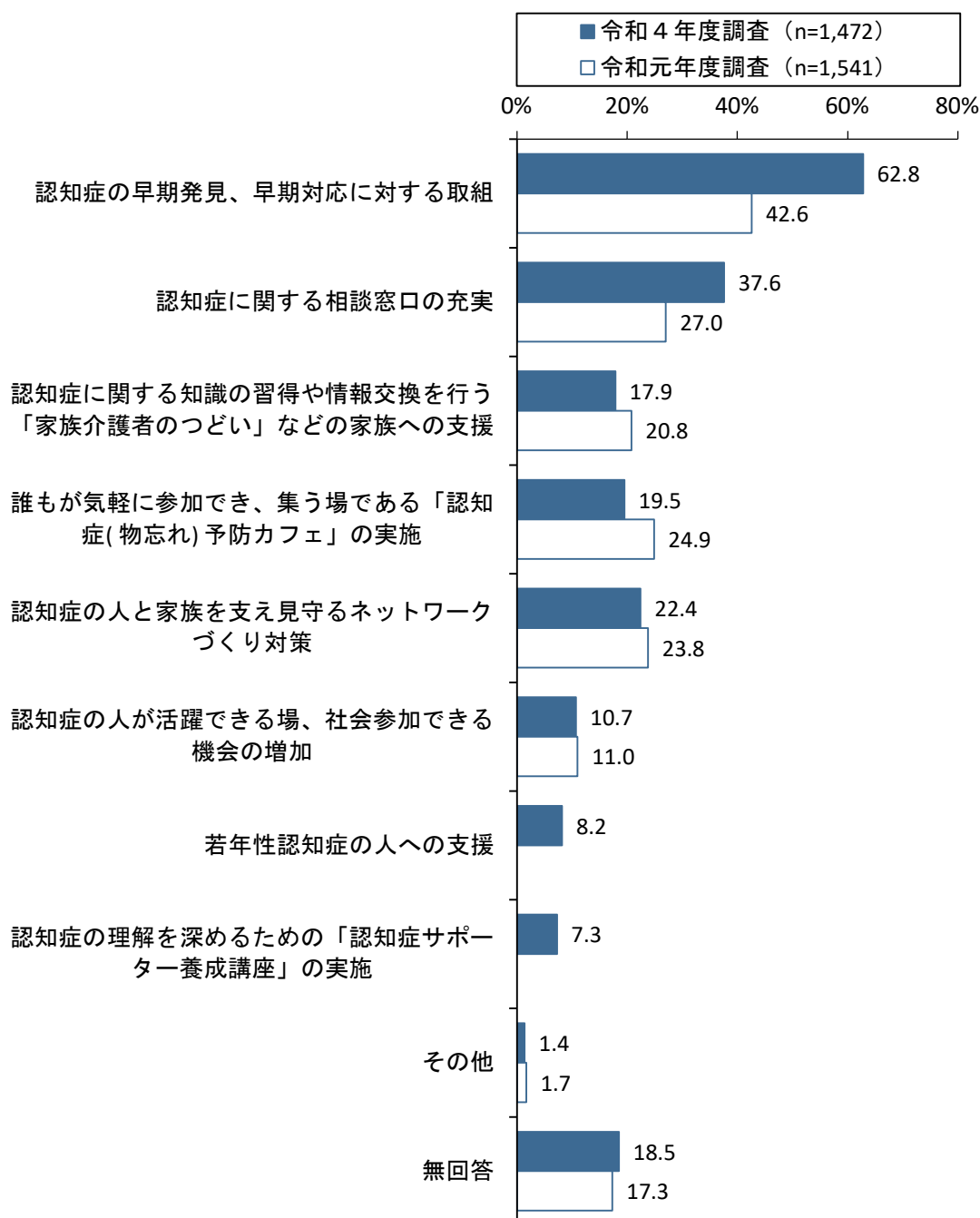
（２）認知症の相談窓口の周知状況

認知症に関する相談窓口を知っているかについて、「はい」が 26.4%、「いいえ」が 66.2% となっています。



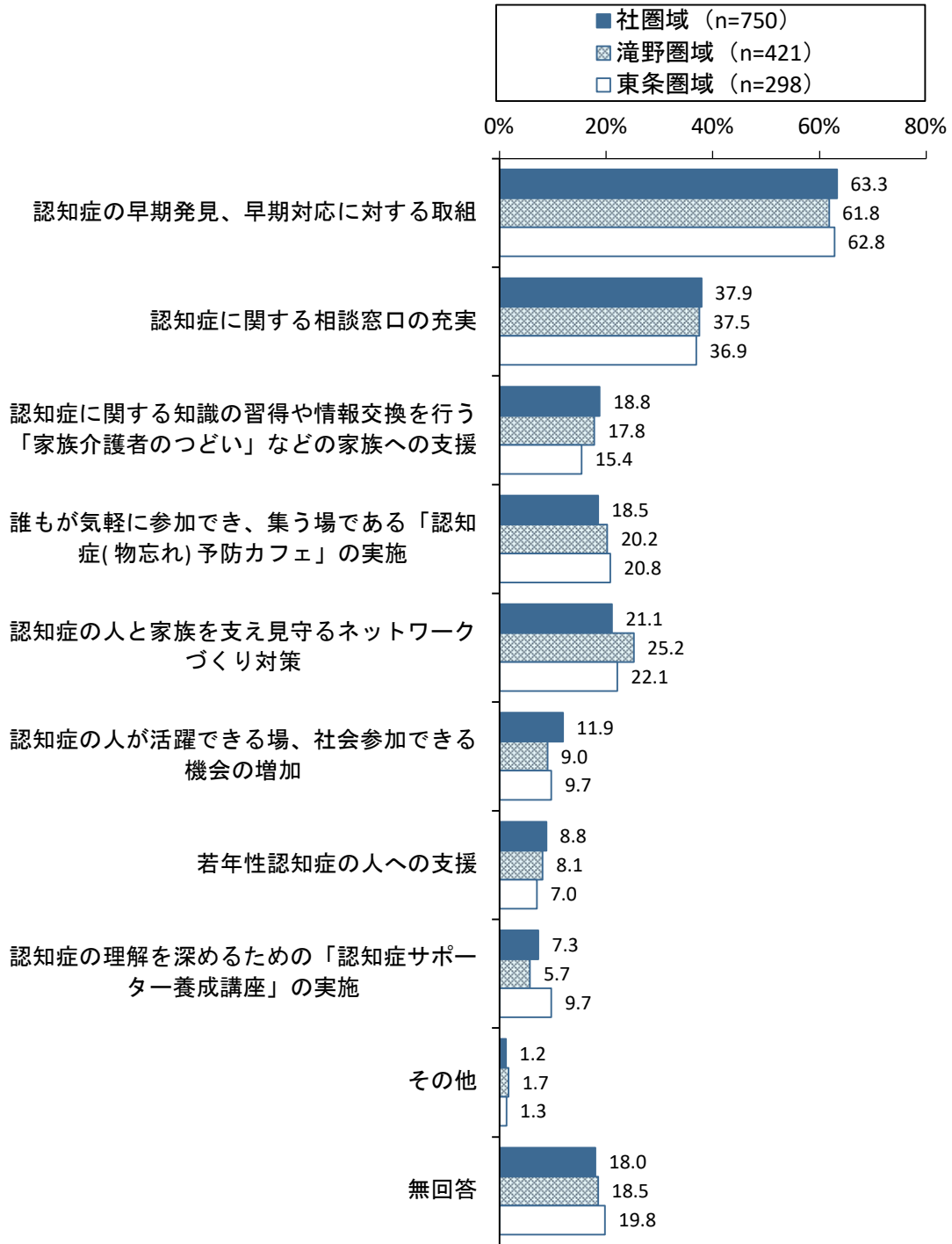
（３）認知症について加東市が優先的に取り組む必要がある施策

認知症について加東市が優先的に取り組む必要がある施策について、「認知症の早期発見、早期対応に対する取り組み」が 62.8%で最も多く、次いで「認知症に関する相談窓口の充実」が 37.6%、「認知症の人と家族を支え見守るネットワークづくり対策」が 22.4%となっています。



※「若年性認知症の人への支援」、「認知症の理解を深めるための「認知症サポーター養成講座」の実施」については、令和4年度調査から追加された選択肢

【日常生活圏域別】



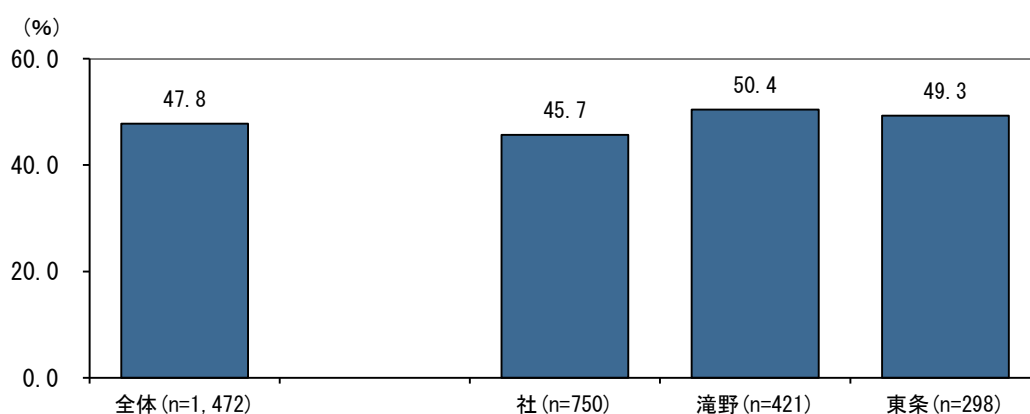
11 市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて

(1) 介護予防・生活支援サービスの認知度状況

介護予防・生活支援サービスの認知度状況について、「① かとうまちかど体操教室」が47.8%で最も多く、次いで「③ かとう介護ファミリーサポートセンター」が13.2%、「② 物忘れ予防カフェ」が11.1%と続いています。

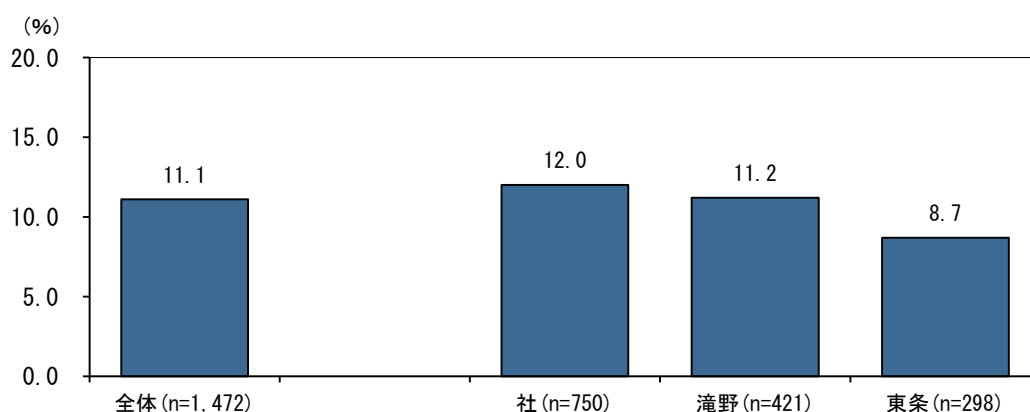
①かとうまちかど体操教室

【かとうまちかど体操教室 認知度】



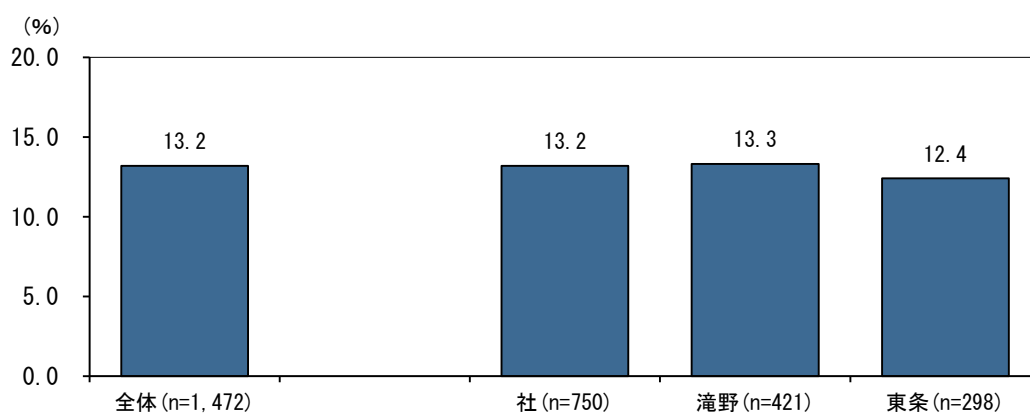
②物忘れ予防カフェ

【物忘れ予防カフェ 認知度】



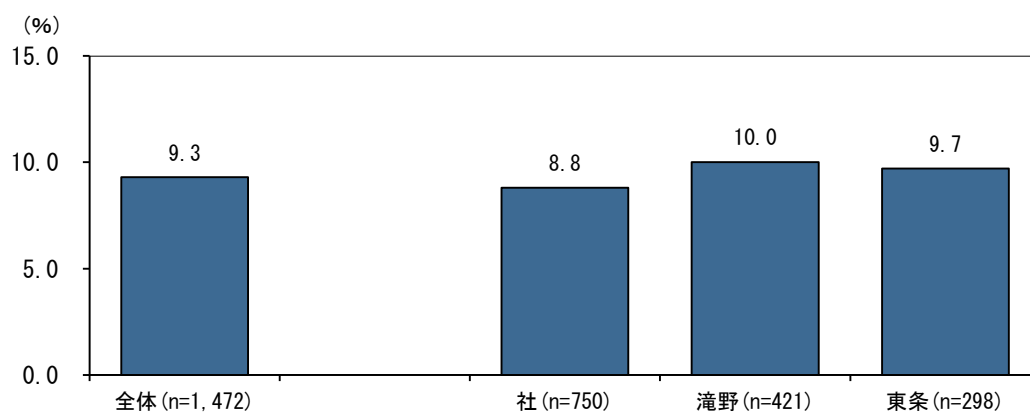
③かとう介護ファミリーサポートセンター

【かとう介護ファミリーサポートセンター 認知度】



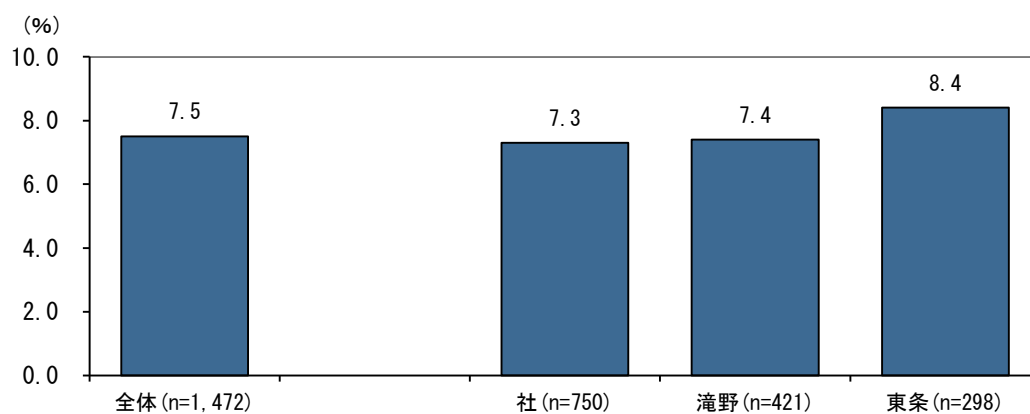
④物忘れチェック

【物忘れチェック 認知度】



⑤ふまねっと教室

【ふまねっと教室 認知度】

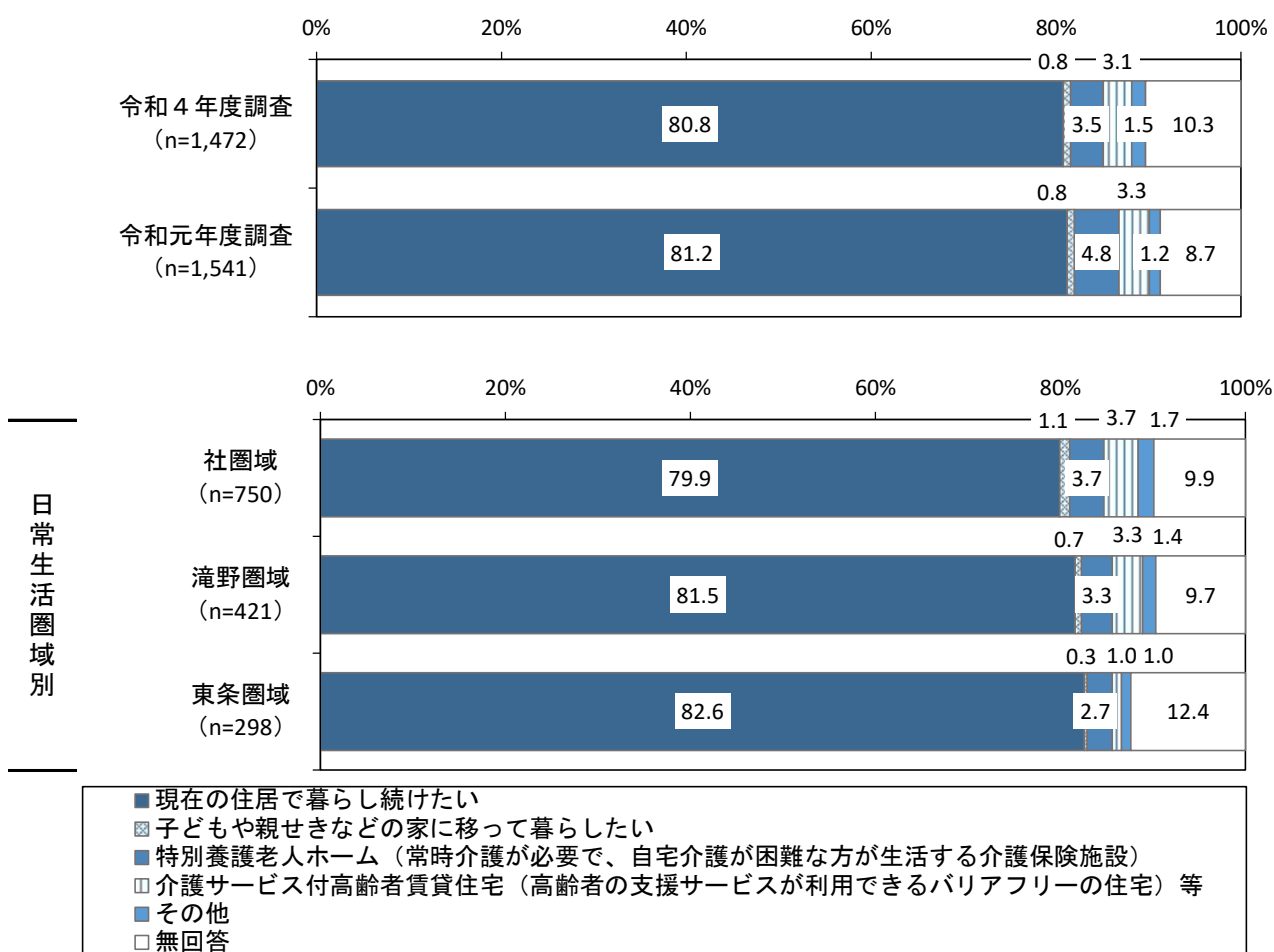


12 今後の生活と福祉や介護保険制度について

(1) 今後の住まいの希望

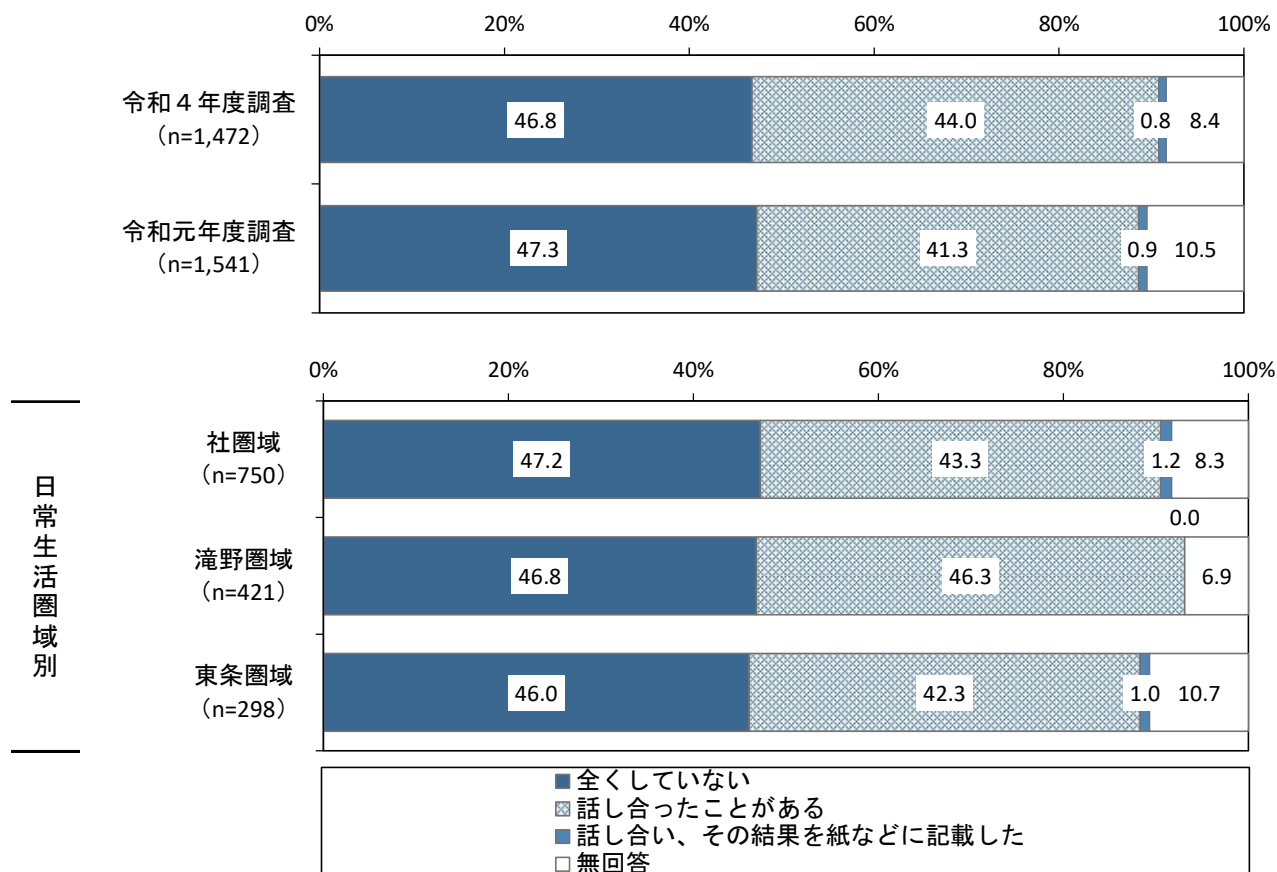
今後の住まいについて考えていることについて、「現在の住居で暮らし続けたい」が80.8%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム（常時介護が必要で、自宅介護が困難な方が生活する介護保険施設）」が3.5%、「介護サービス付高齢者賃貸住宅（高齢者の支援サービスが利用できるバリアフリーの住宅）等」が3.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、全ての圏域で「現在の住居で暮らし続けたい」の割合が概ね8割となっています。



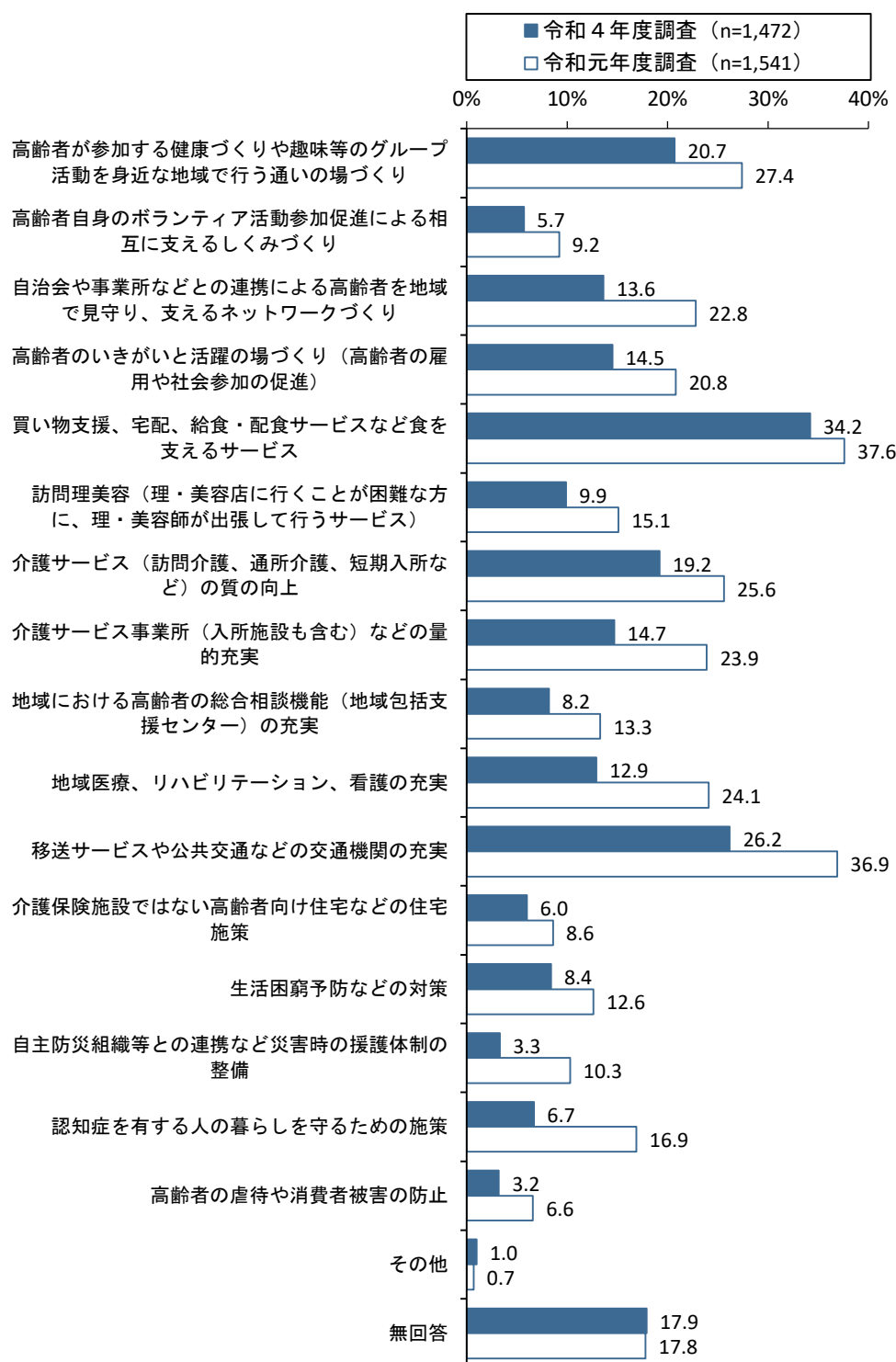
（２）今後の住まいへの考えについての話し合い

今後の住まいについての話し合いについて、「全くしていない」が 46.8%で最も多く、次いで「話し合ったことがある」が 44.0%、「話し合い、その結果を紙などに記載した」が 0.8%となっています。

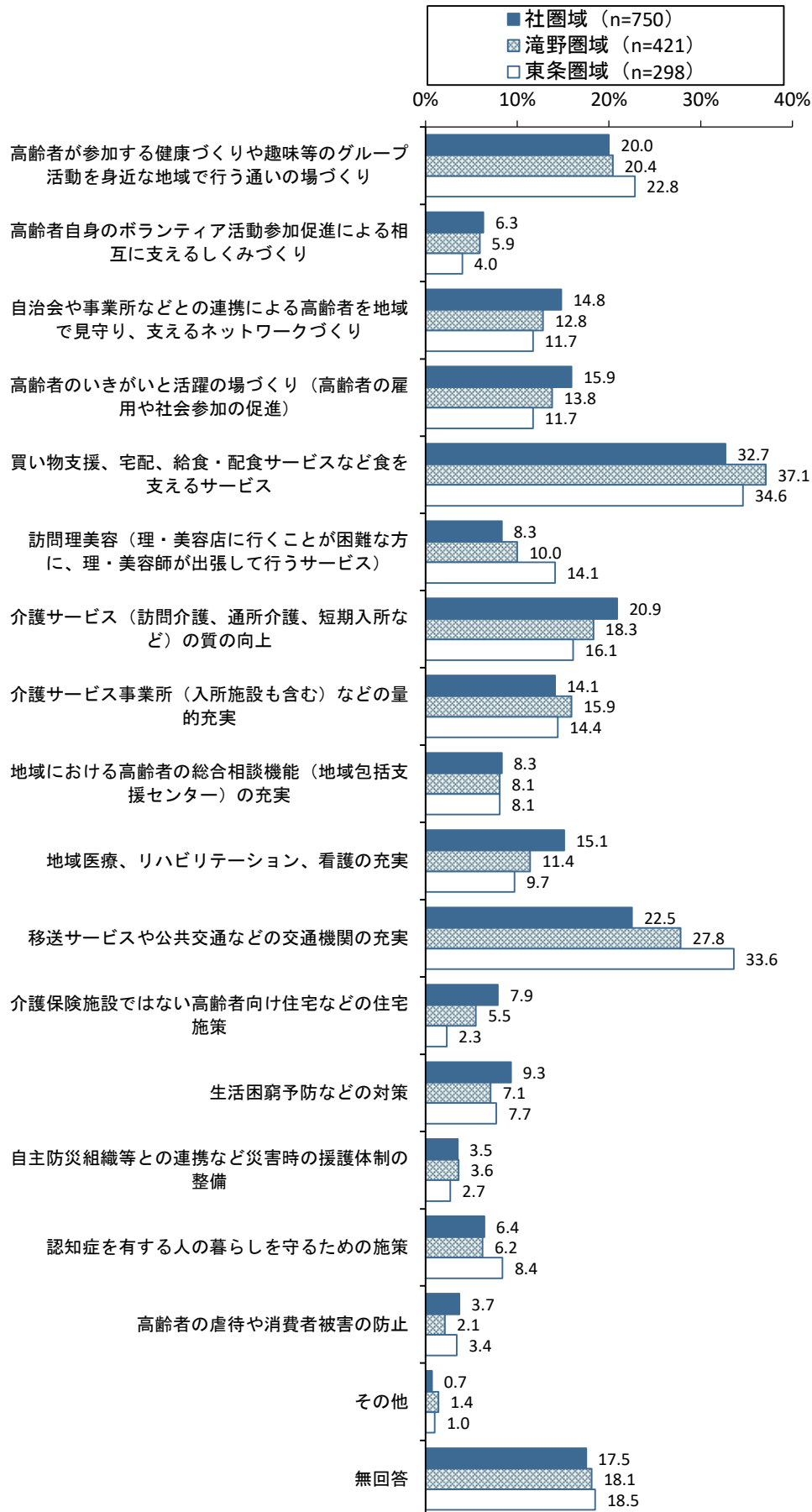


（３）加東市において、特に重要になると思う施策

これからの加東市において特に重要になる施策について、「買い物支援、宅配、給食・配食サービスなど食を支えるサービス」が 34.2%で最も多く、次いで「移送サービスや公共交通などの交通機関の充実」が 26.2%、「高齢者が参加する健康づくりや趣味等のグループ活動を身近な地域で行う通いの場づくり」が 20.7%となっています。



【日常生活圏域別】



13 日常生活圏域ごとの状況

(1) 社圏域

- 1人暮らしの世帯の割合が18.7%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 家族や友人・知人以外で相談する相手がいない人の割合が32.0%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 友人・知人と会う頻度がほとんどない人の割合が18.8%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 地域活動への参加状況では、「趣味関係のグループ」(21.4%)、「町内会・自治会活動」(34.5%)、「収入のある仕事」(22.7%)の3項目が3圏域の中で最も多くなっています。
- 地域活動への参加意向(48.6%)、お世話役での参加意向(28.8%)について、ともに3圏域の中で最も多くなっています。
- 介護予防・生活支援サービスについて、「物忘れ予防カフェ」(12.0%)が3圏域の中で最も多くなっています。
- 主観的な健康状態の「よい」の割合が79.6%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 認知症の相談窓口の周知状況では「知っている」が24.5%で、3圏域の中で最も少なくなっています。

■家族や生活状況について

(単位：%)

	家族構成		介護・介助を受けている方・必要な方	経済状況が「苦しい」	共食の機会が「年に数回・ほとんどない」	たすけあいについて	
	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)				家族や友人・知人以外で相談する相手がいない	友人・知人と会う頻度がほとんどない
社圏域	18.7	32.9	21.4	31.9	17.2	32.0	18.8
滝野圏域	17.8	33.5	21.1	35.2	17.4	27.3	18.1
東条圏域	13.1	32.2	20.8	28.5	14.7	26.2	15.8

■地域活動への参加状況と参加意向

(単位：%)

	参加状況								参加意向	
	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	シニア(老人クラブ)活動	町内会・自治会活動	収入のある仕事	地域活動への参加意向あり	地域活動のお世話役としての参加意向あり
社圏域	14.9	18.3	21.4	5.8	8.8	19.6	34.5	22.7	48.6	28.8
滝野圏域	16.2	19.2	20.4	5.6	10.5	17.9	30.9	19.5	44.0	26.6
東条圏域	15.0	17.5	20.9	6.7	12.5	28.6	33.3	21.4	46.3	26.4

■介護予防・生活支援・福祉サービスの認知度

(単位：％)

	介護予防・生活支援サービスの認知度				
	かとうまちかど体操教室	物忘れ予防カフェ	【会】 かとう介護ファミリースポーツセンター【社会福祉協議会】	物忘れチェック	ふまねっと教室
社圏域	45.7	12.0	13.2	8.8	7.3
滝野圏域	50.4	11.2	13.3	10.0	7.4
東条圏域	49.3	8.7	12.4	9.7	8.4

■主観的な健康状態と認知症の相談窓口の周知状況

(単位：％)

	主観的な健康状態		認知症の相談窓口の周知状況	
	よい	よくない	知っている	知らない
社圏域	79.6	17.6	24.5	68.0
滝野圏域	77.9	19.5	28.7	64.6
東条圏域	75.1	20.4	27.9	63.4

(2) 滝野圏域

- 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）世帯が33.5%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 経済状況が苦しい人の割合が35.2%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 共食の機会が「年に数回・ほとんどない」人の割合が17.4%で、3圏域の中で最も多くなっています。
- 地域活動への参加状況では、「ボランティアのグループ」（16.2%）、「スポーツ関係のグループやクラブ」（19.2%）について、ともに3圏域の中で最も多くなっています。
- 地域活動への参加意向（44.0%）について3圏域の中で最も少なくなっています。
- 介護予防・生活支援サービスの認知度について、「かとうまちかど体操教室」（50.4%）、「かとう介護ファミリーサポートセンター【社会福祉協議会】」（13.3%）、「物忘れチェック」（10.0%）の3項目が3圏域の中で最も多くなっています。
- 認知症の相談窓口の周知状況について、知っている人の割合が28.7%で、3圏域の中で最も多くなっています。

■家族や生活状況について

（単位：％）

	家族構成		介護・介助を受けている方・必要な方	経済状況が「苦しい」	共食の機会が「年に数回・ほとんどない」	たすけあいについて	
	1人暮らし	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）				家族や友人・知人以外で相談する相手がいない	友人・知人と会う頻度がほとんどない
社圏域	18.7	32.9	21.4	31.9	17.2	32.0	18.8
滝野圏域	17.8	33.5	21.1	35.2	17.4	27.3	18.1
東条圏域	13.1	32.2	20.8	28.5	14.7	26.2	15.8

■地域活動への参加状況と参加意向

（単位：％）

	参加状況								参加意向	
	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	シニア（老人クラブ）活動	町内会・自治会活動	収入のある仕事	地域活動への参加意向あり	地域活動のお世話役としての参加意向あり
社圏域	14.9	18.3	21.4	5.8	8.8	19.6	34.5	22.7	48.6	28.8
滝野圏域	16.2	19.2	20.4	5.6	10.5	17.9	30.9	19.5	44.0	26.6
東条圏域	15.0	17.5	20.9	6.7	12.5	28.6	33.3	21.4	46.3	26.4

■介護予防・生活支援・福祉サービスの認知度

(単位：％)

	介護予防・生活支援サービスの認知度				
	かとうまちかど体操教室	物忘れ予防カフェ	【会】 かとう介護ファミリースポーツセンター【社会福祉協議会】	物忘れチェック	ふまねっと教室
社圏域	45.7	12.0	13.2	8.8	7.3
滝野圏域	50.4	11.2	13.3	10.0	7.4
東条圏域	49.3	8.7	12.4	9.7	8.4

■主観的な健康状態と認知症の相談窓口の周知状況

(単位：％)

	主観的な健康状態		認知症の相談窓口の周知状況	
	よい	よくない	知っている	知らない
社圏域	79.6	17.6	24.5	68.0
滝野圏域	77.9	19.5	28.7	64.6
東条圏域	75.1	20.4	27.9	63.4

(3) 東条圏域

- 一人暮らし（13.1%）、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）（32.2%）の割合が、ともに3圏域の中で最も少なくなっています。
- 経済状況が苦しい人の割合が28.5%で、3圏域の中で最も少なくなっています。
- 共食の機会が「年に数回・ほとんどない」人の割合が14.7%で、3圏域の中で最も少なくなっています。
- 家族や友人・知人以外で相談する相手がいない人の割合が26.2%で、3圏域の中で最も少なくなっています。
- 友人・知人と会う頻度がほとんどない人の割合が15.8%で、3圏域の中で最も少なくなっています。
- 地域活動への参加状況では、「学習・教養サークル」（6.7%）、「介護予防のための通いの場」（12.5%）、「シニア（老人クラブ）活動」（28.6%）の3項目が3圏域の中で最も多くなっています。
- 地域活動のお世話役としての参加意向がある人の割合が26.4%で、3圏域の中で最も少なくなっています。
- 介護予防・生活支援サービスの認知度について、「ふまねっと教室」が8.4%で、3圏域の中で最も高くなっています。
- 主観的な健康状態の「よくない」人の割合が20.4%で、3圏域の中で最も多くなっています。

■家族や生活状況について

(単位：%)

	家族構成		介護・介助を受けている方・必要な方	経済状況が「苦しい」	共食の機会が「年に数回・ほとんどない」	たすけあいについて	
	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)				家族や友人・知人以外で相談する相手がいない	友人・知人と会う頻度がほとんどない
社圏域	18.7	32.9	21.4	31.9	17.2	32.0	18.8
滝野圏域	17.8	33.5	21.1	35.2	17.4	27.3	18.1
東条圏域	13.1	32.2	20.8	28.5	14.7	26.2	15.8

■地域活動への参加状況と参加意向

(単位：%)

	参加状況								参加意向	
	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	シニア（老人クラブ）活動	町内会・自治会活動	収入のある仕事	地域活動への参加意向あり	地域活動のお世話役としての参加意向あり
社圏域	14.9	18.3	21.4	5.8	8.8	19.6	34.5	22.7	48.6	28.8
滝野圏域	16.2	19.2	20.4	5.6	10.5	17.9	30.9	19.5	44.0	26.6
東条圏域	15.0	17.5	20.9	6.7	12.5	28.6	33.3	21.4	46.3	26.4

■介護予防・生活支援・福祉サービスの認知度

(単位：％)

	介護予防・生活支援サービスの認知度				
	かとうまちかど体操教室	物忘れ予防カフェ	【会】 かとう介護ファミリースポーツセンター【社会福祉協議会】	物忘れチェック	ふまねっと教室
社圏域	45.7	12.0	13.2	8.8	7.3
滝野圏域	50.4	11.2	13.3	10.0	7.4
東条圏域	49.3	8.7	12.4	9.7	8.4

■主観的な健康状態と認知症の相談窓口の周知状況

(単位：％)

	主観的な健康状態		認知症の相談窓口の周知状況	
	よい	よくない	知っている	知らない
社圏域	79.6	17.6	24.5	68.0
滝野圏域	77.9	19.5	28.7	64.6
東条圏域	75.1	20.4	27.9	63.4

Ⅲ 要介護認定者 調査結果

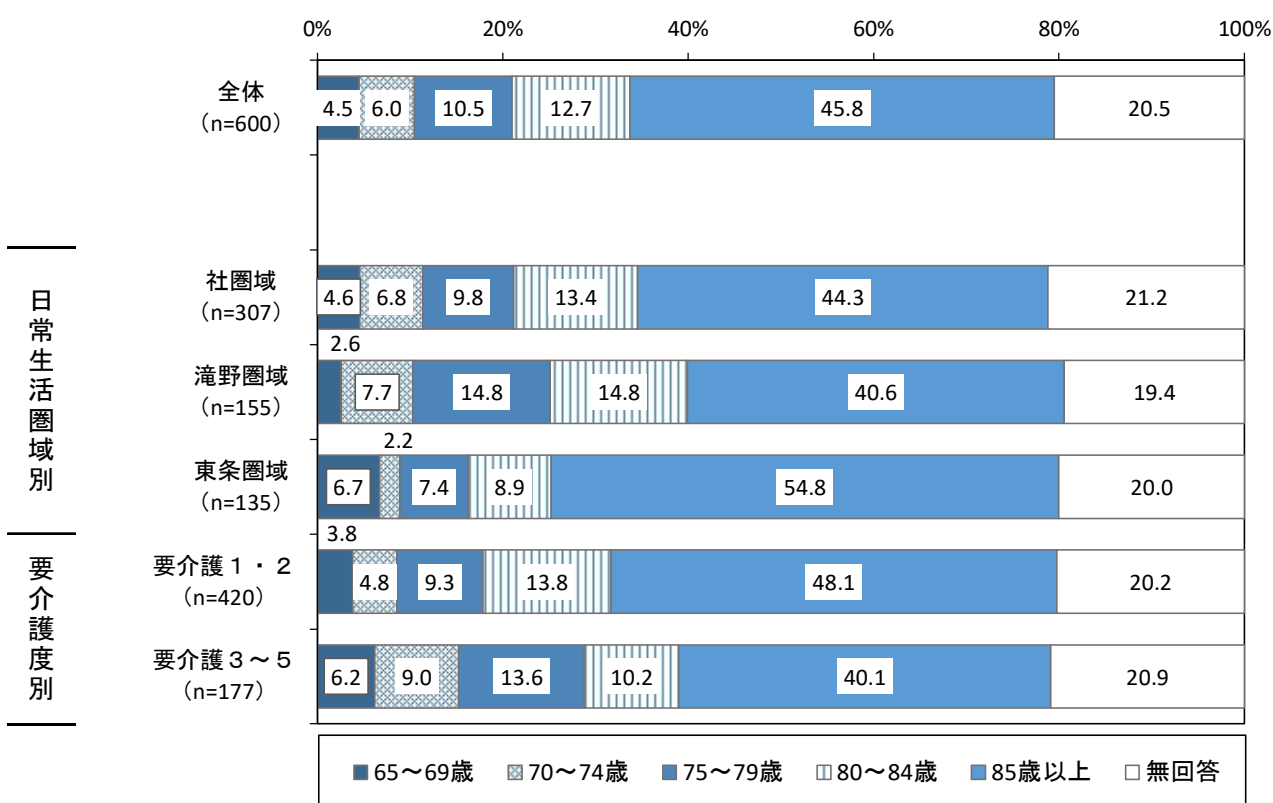
1 回答者属性

(1) 年齢

年齢について、「85 歳以上」が 45.8%で最も多く、次いで「80～84 歳」が 12.7%、「75～79 歳」が 10.5%と続いています。

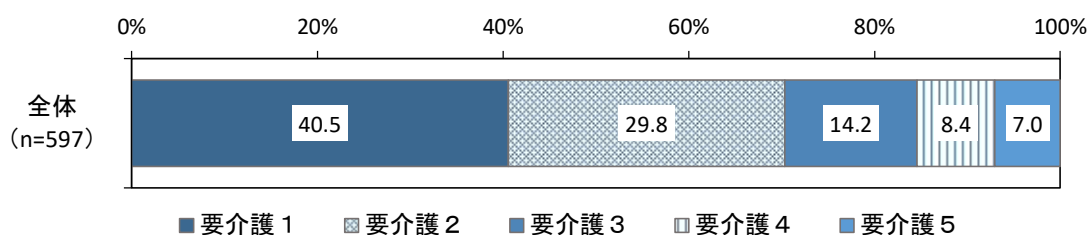
日常生活圏域別でみると、「85 歳以上」では東条圏域が 54.8%で最も多くなっています。

要介護度別でみると、「85 歳以上」では要介護 1・2 が 48.1%となっています。



(2) 認定該当状況

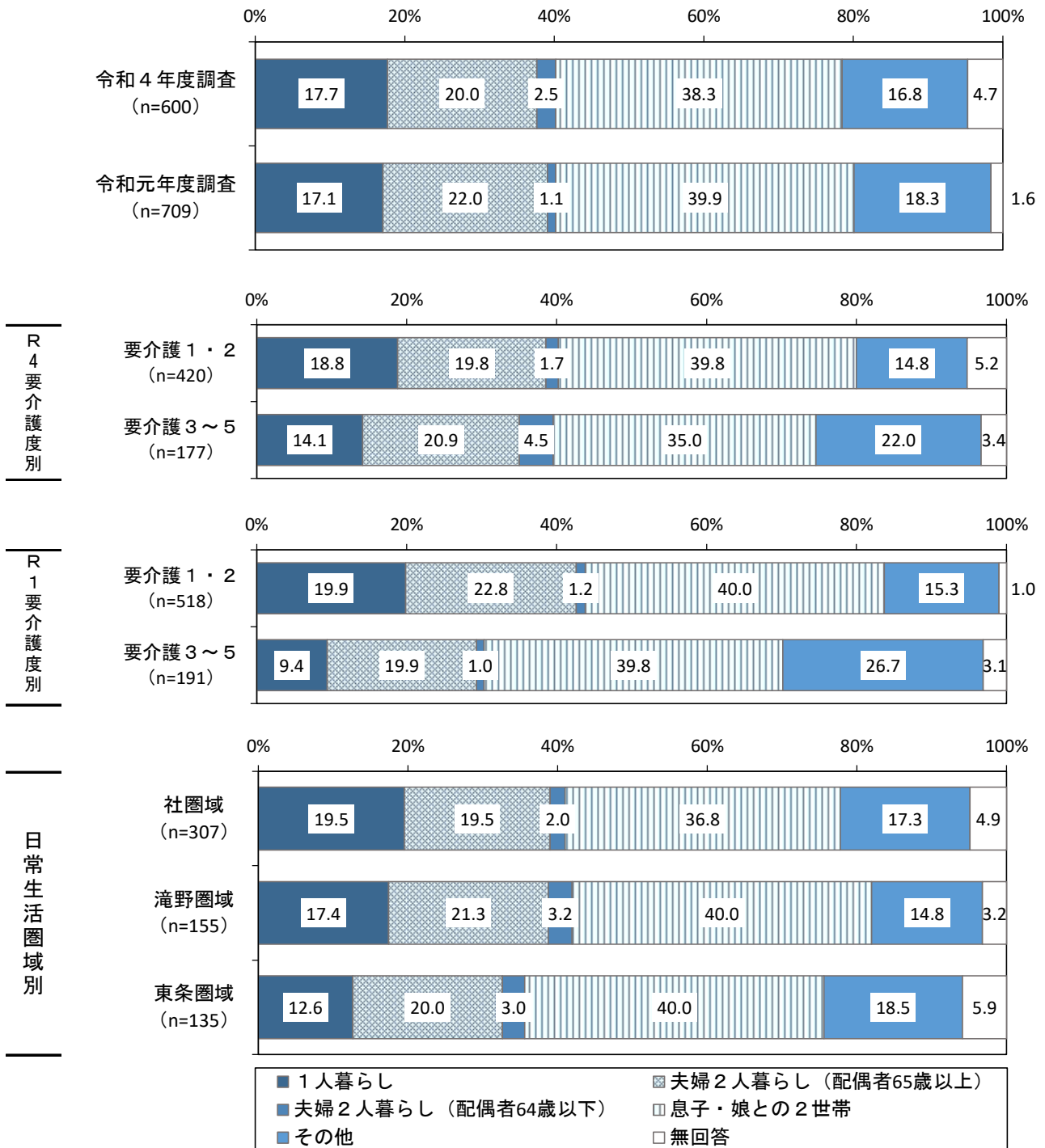
認定該当状況では、「要介護 1」が 40.5%で最も高く、次いで「要介護 2」が 29.8%、「要介護 3」が 14.2%と続いています。



2 家族や生活状況について

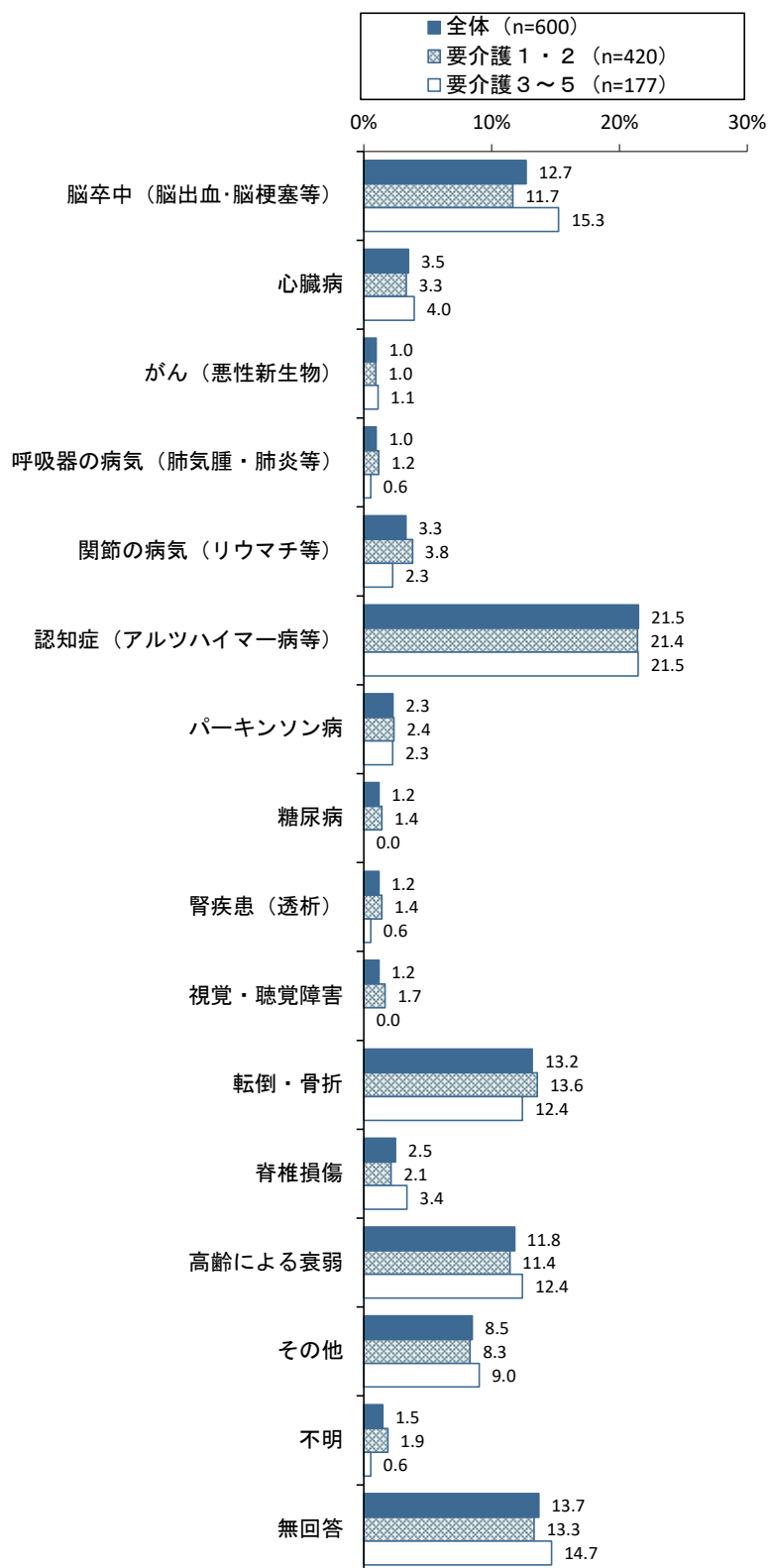
(1) 家族構成

家族構成について、「息子・娘との2世帯」が38.3%で最も多く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が20.0%、「1人暮らし」が17.7%と続いています。



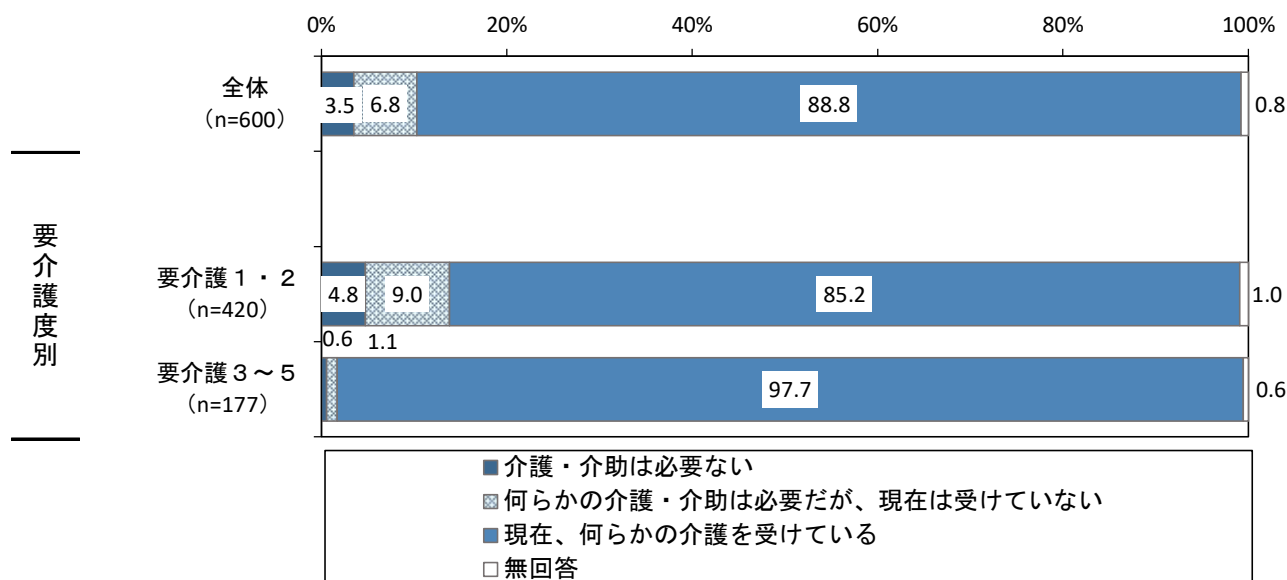
（２）認定を受けることになった主な原因

認定を受けることになった主な原因について、「認知症（アルツハイマー病等）」が 21.5%で最も多く、次いで「転倒・骨折」が 13.2%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が 12.7%、となっています。



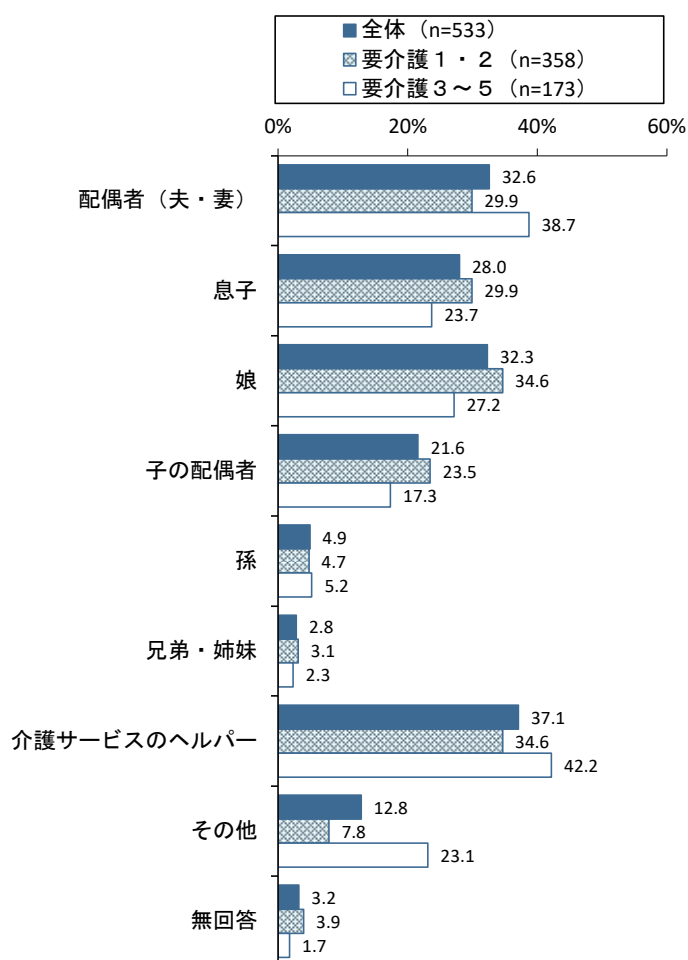
（３）介護・介助の必要性

介護・介助の必要性について、「現在、何らかの介護を受けている」が 88.8%で最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.8%、「介護・介助は必要ない」が 3.5%となっています。

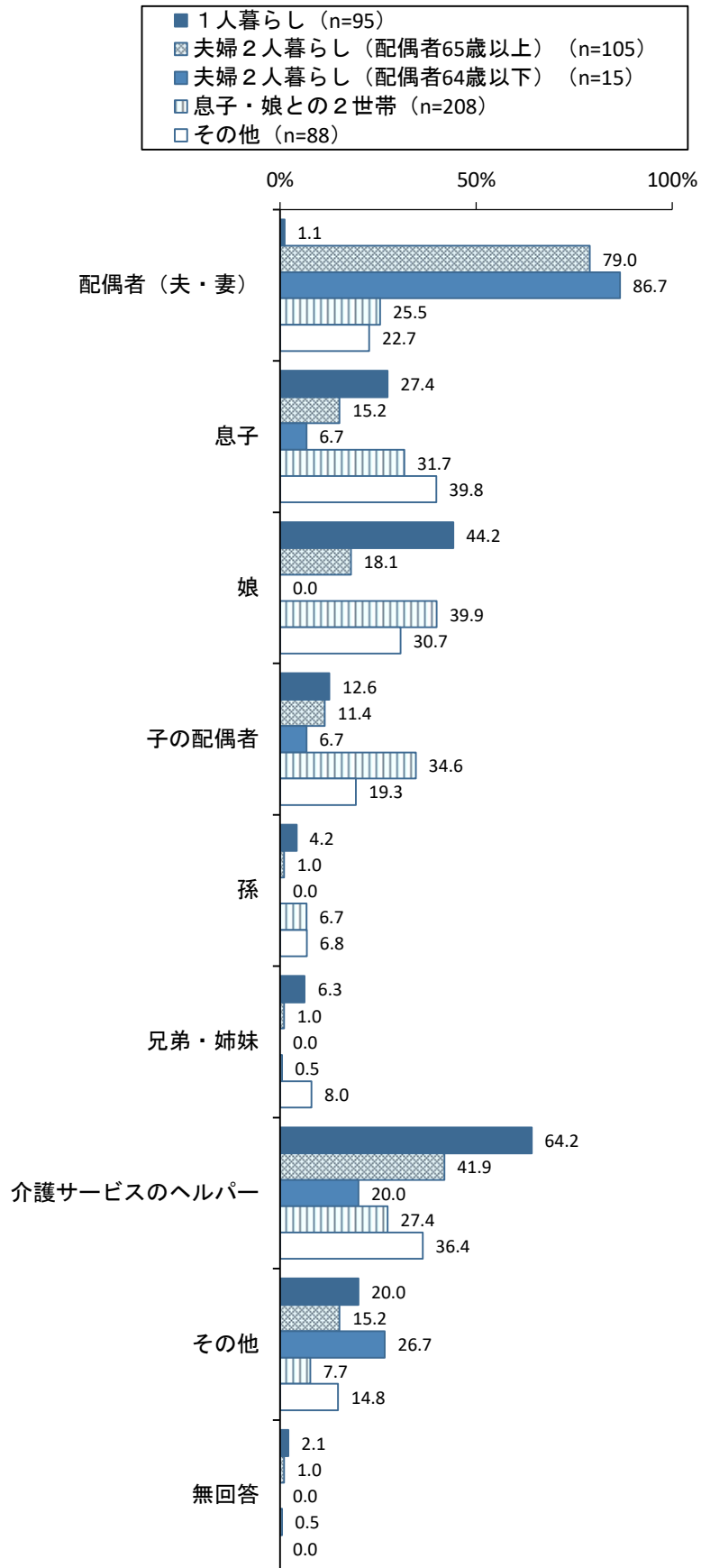


（４）主な介護者

主な介護者について、「介護サービスのヘルパー」が 37.1%で最も多く、次いで「配偶者（夫・妻）」が 32.6%、「娘」が 32.3%となっています。

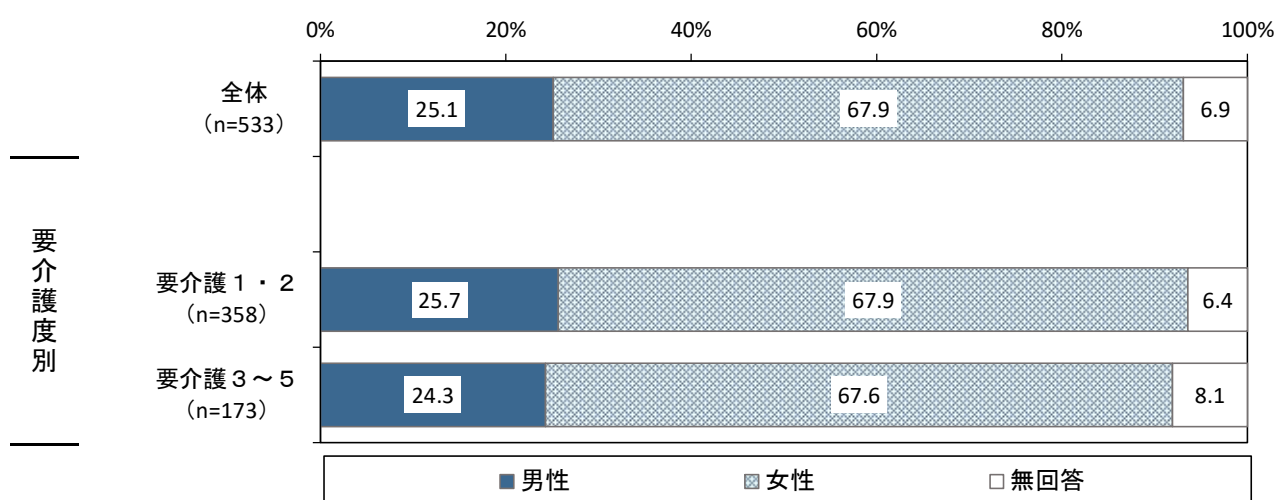


【家族構成別】



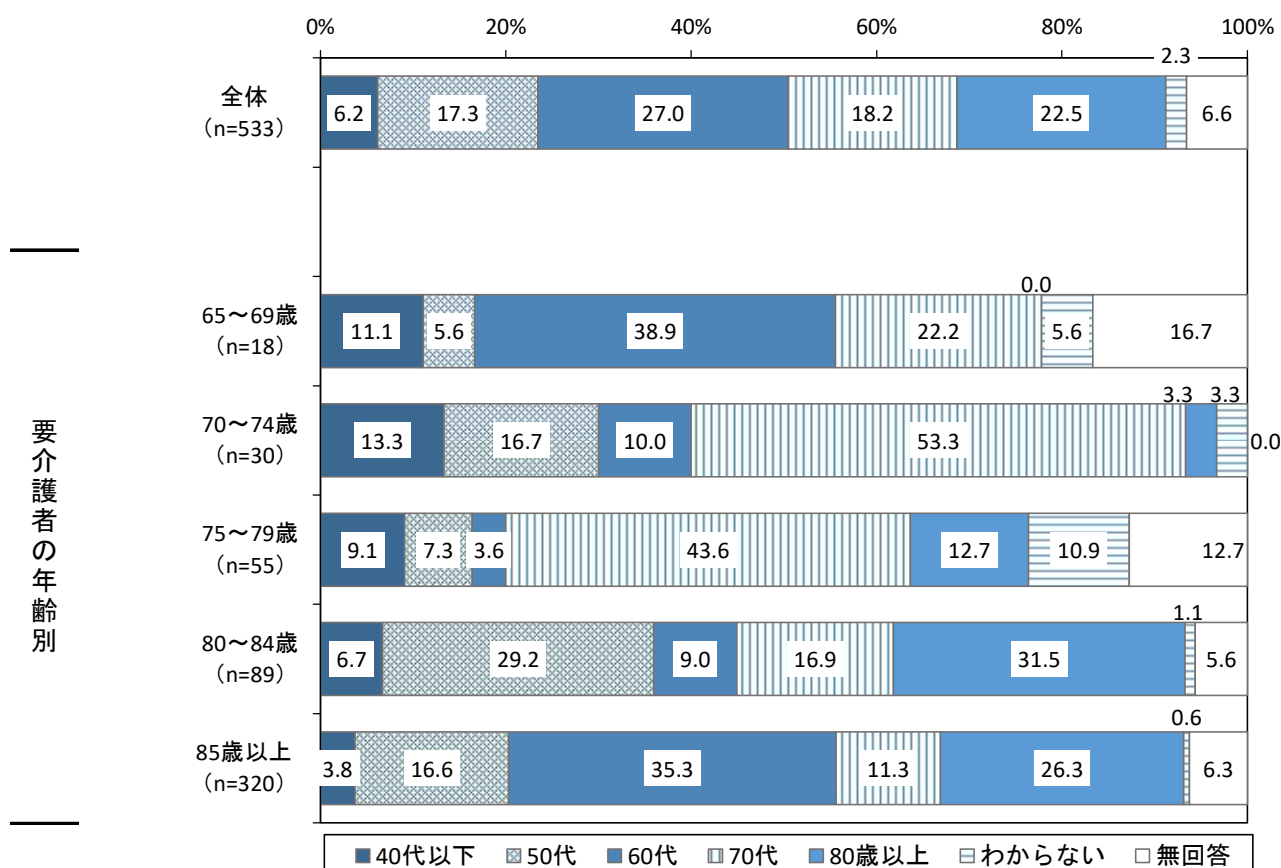
（５）主な介護者の性別

主な介護者の性別について、「男性」が 25.1%、「女性」が 67.9%となっています。



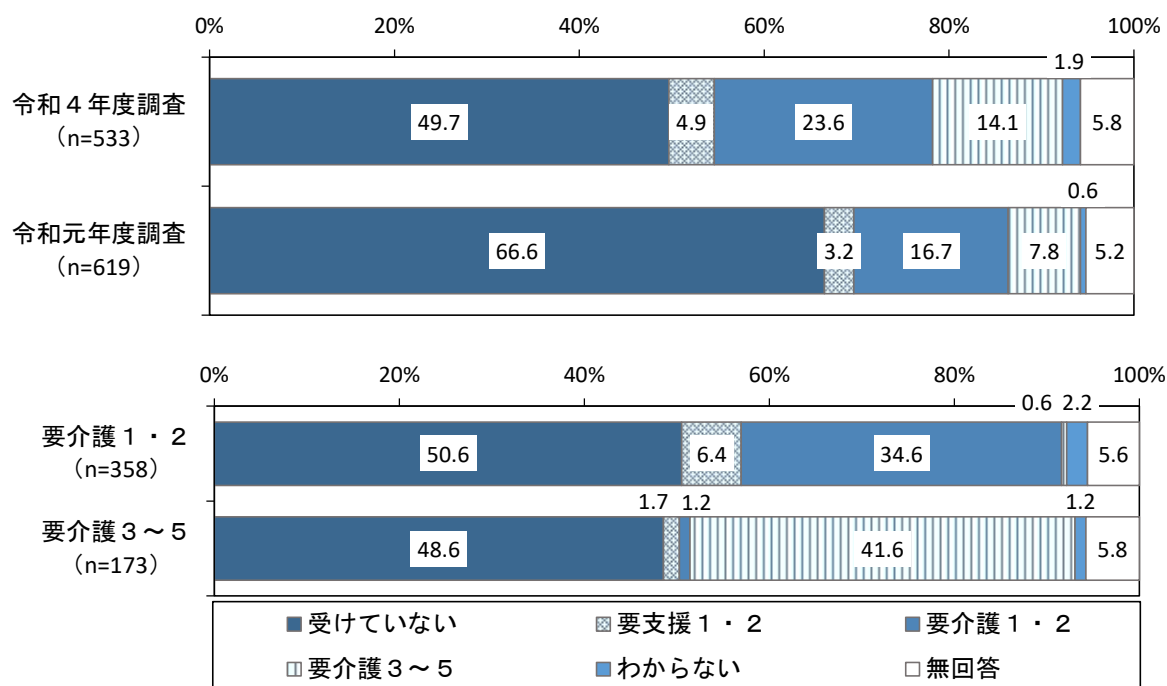
（６）主な介護者の年齢

主な介護者の年齢について、「60代」が 27.0%で最も多く、次いで「80代」が 22.5%、「70代」が 18.2%となっています。



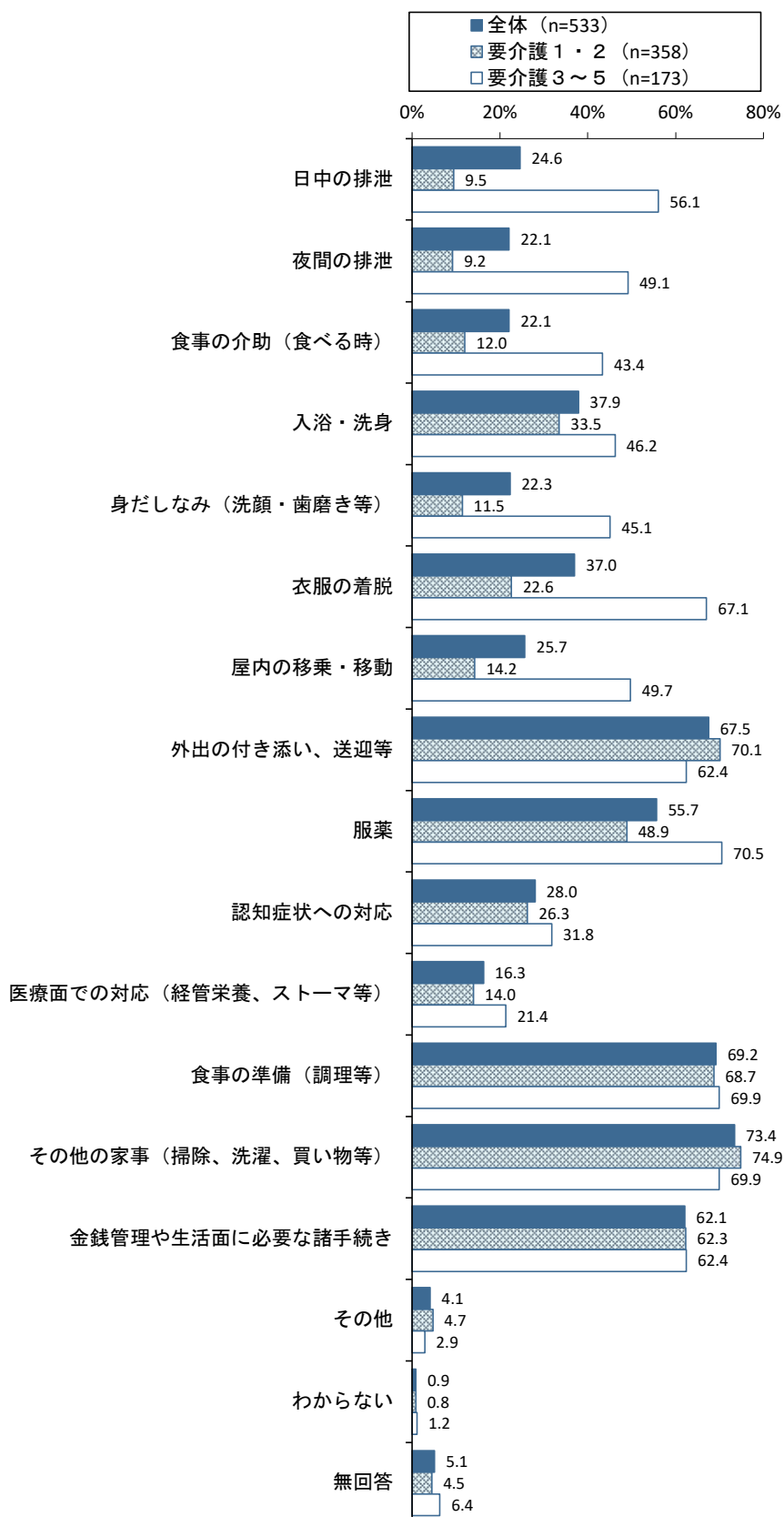
(7) 主な介護者の要介護度

主な介護者の要介護度について、「受けていない」が49.7%で最も多く、次いで「要介護1・2」が23.6%、「要介護3～5」が14.1%となっています。



（８）主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.4%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が69.2%、「外出の付き添い、送迎等」が67.5%となっています。

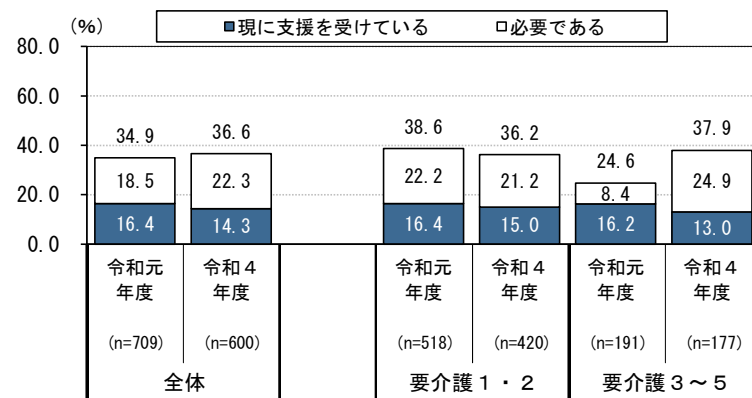


3 日常生活について

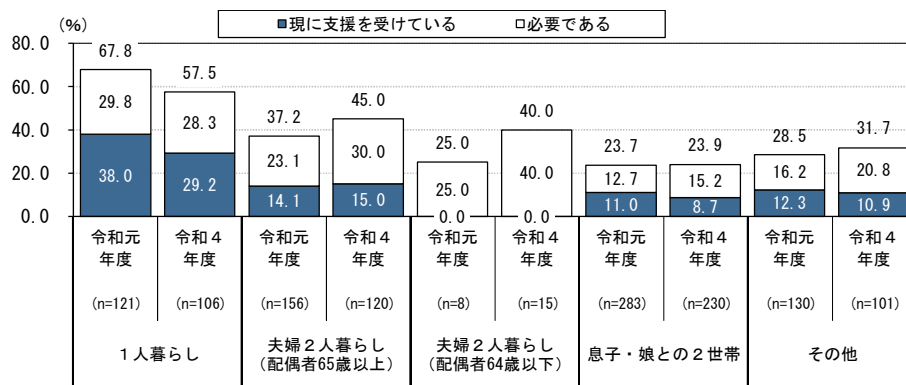
(1) 外部の支援が必要だと感じること

日常生活で必要だと思う外部の支援について、『必要だと感じる』（「現に支援を受けている」と「必要である」の合計）では、「⑥ 話し相手」が 50.0%で最も多く、次いで「⑦ 移送支援（送迎や車いす対応車の貸し出し）」が 48.3%、「⑤ 外出支援」が 44.8%となっています。

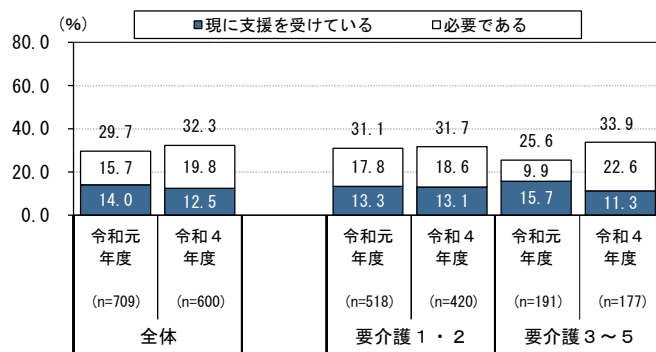
①買い物



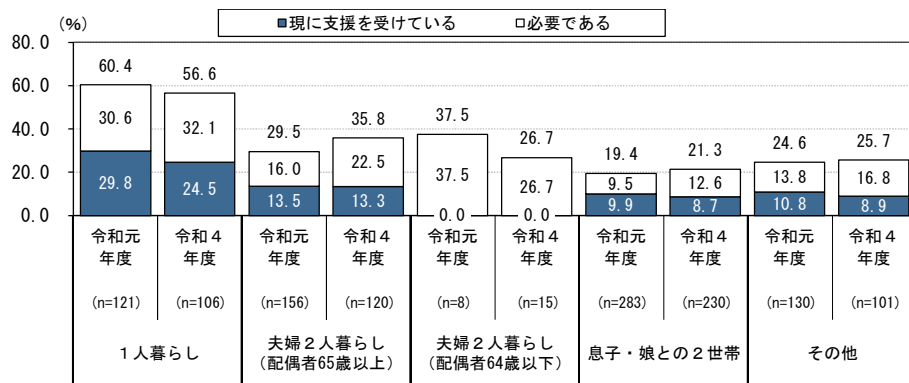
【家族構成別】



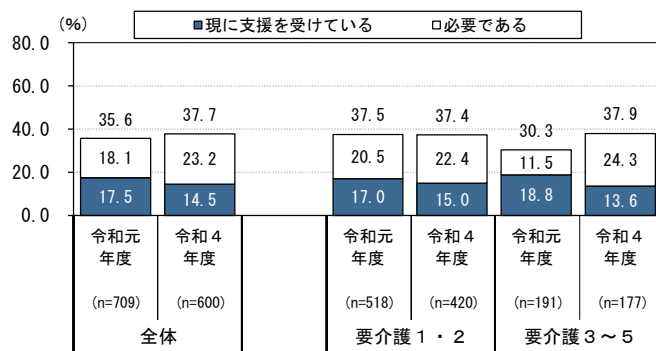
②ごみ出し



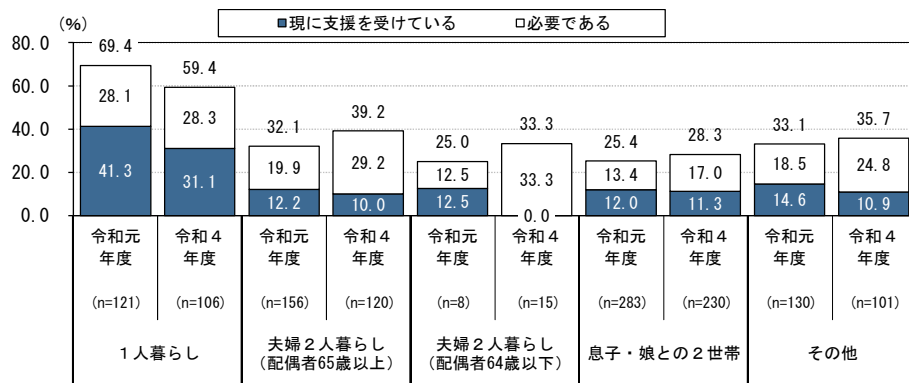
【家族構成別】



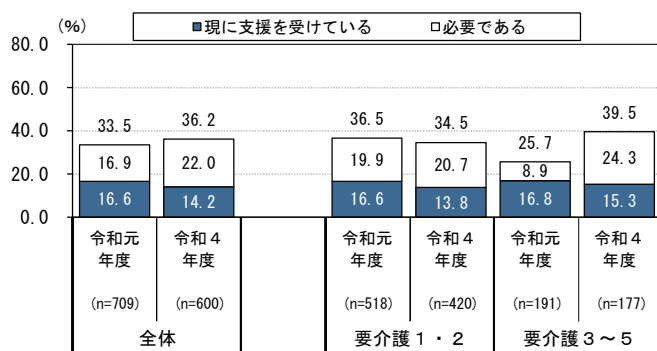
③食事を作ること



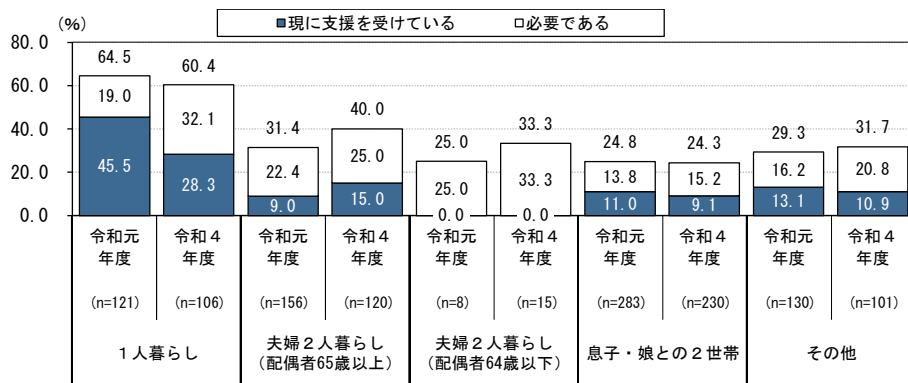
【家族構成別】



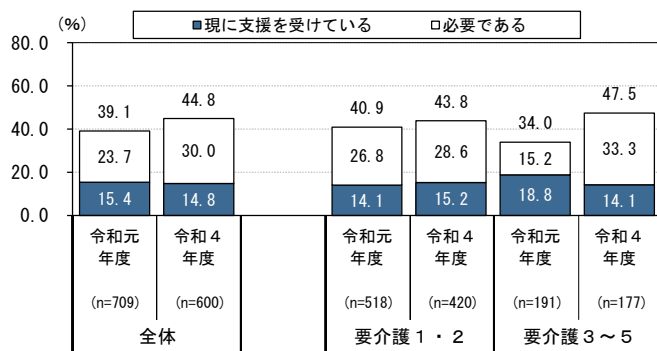
④居室の掃除



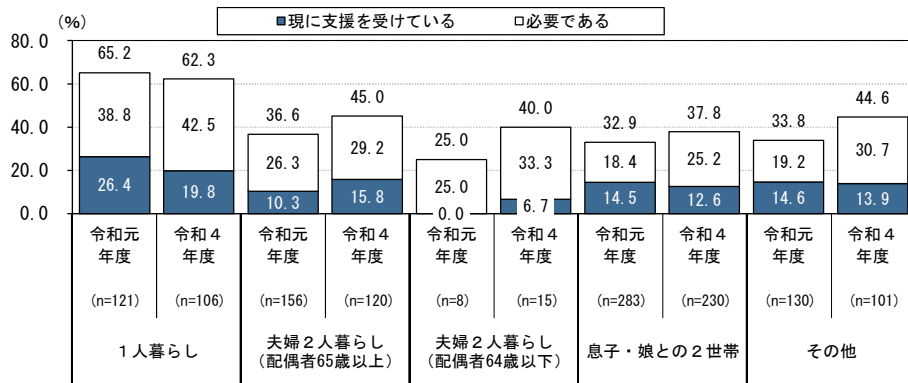
【家族構成別】



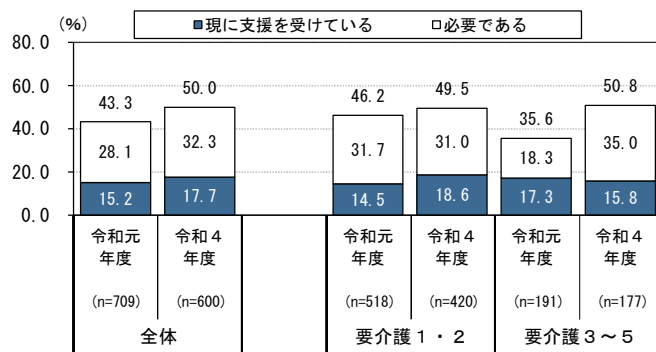
⑤外出支援



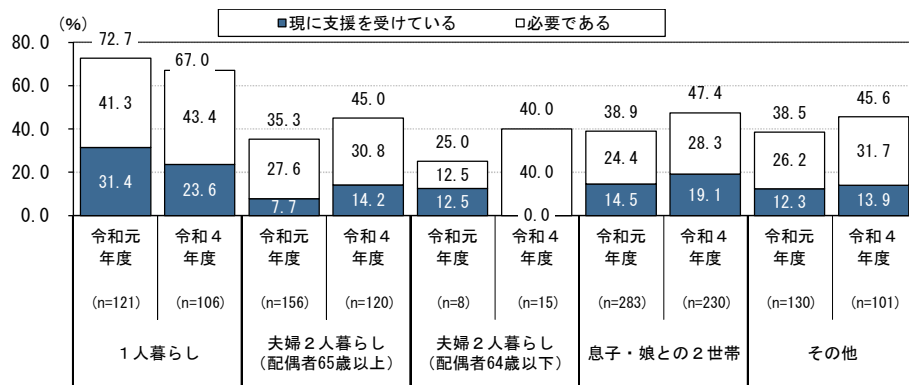
【家族構成別】



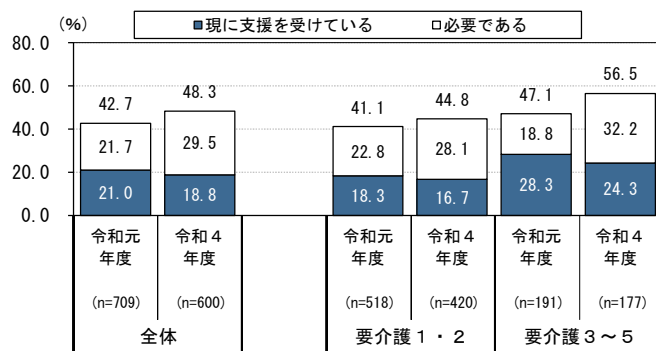
⑥話し相手



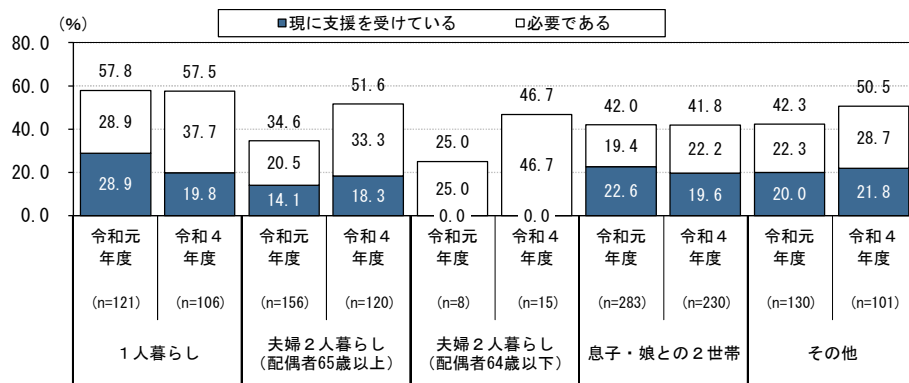
【家族構成別】



⑦移送支援 (送迎や車いす対応車の貸し出し)



【家族構成別】

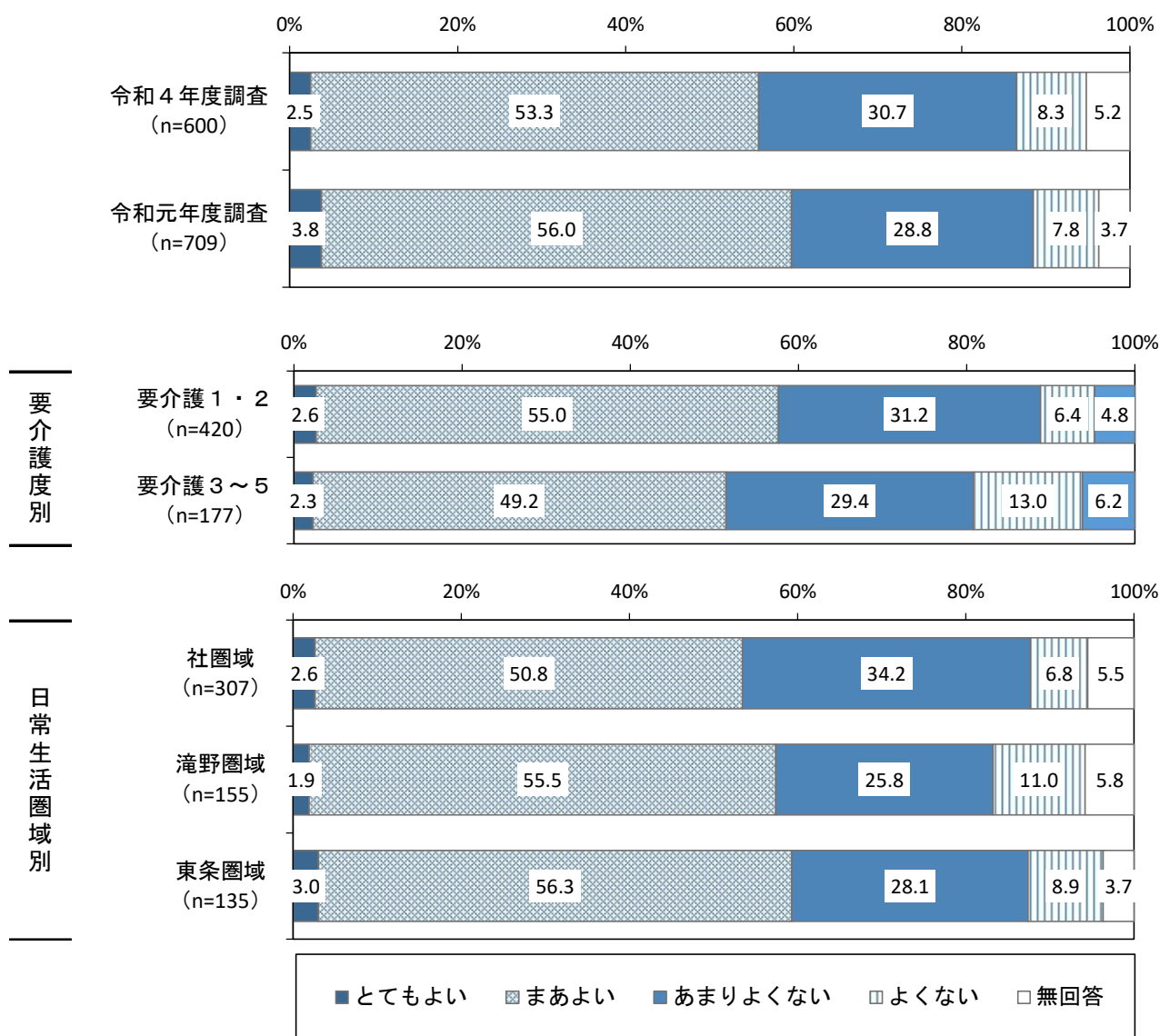


4 健康について

(1) 主観的な健康状態について

主観的な健康状態について、「まあよい」が 53.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 30.7%、「よくない」が 8.3%と続いています。

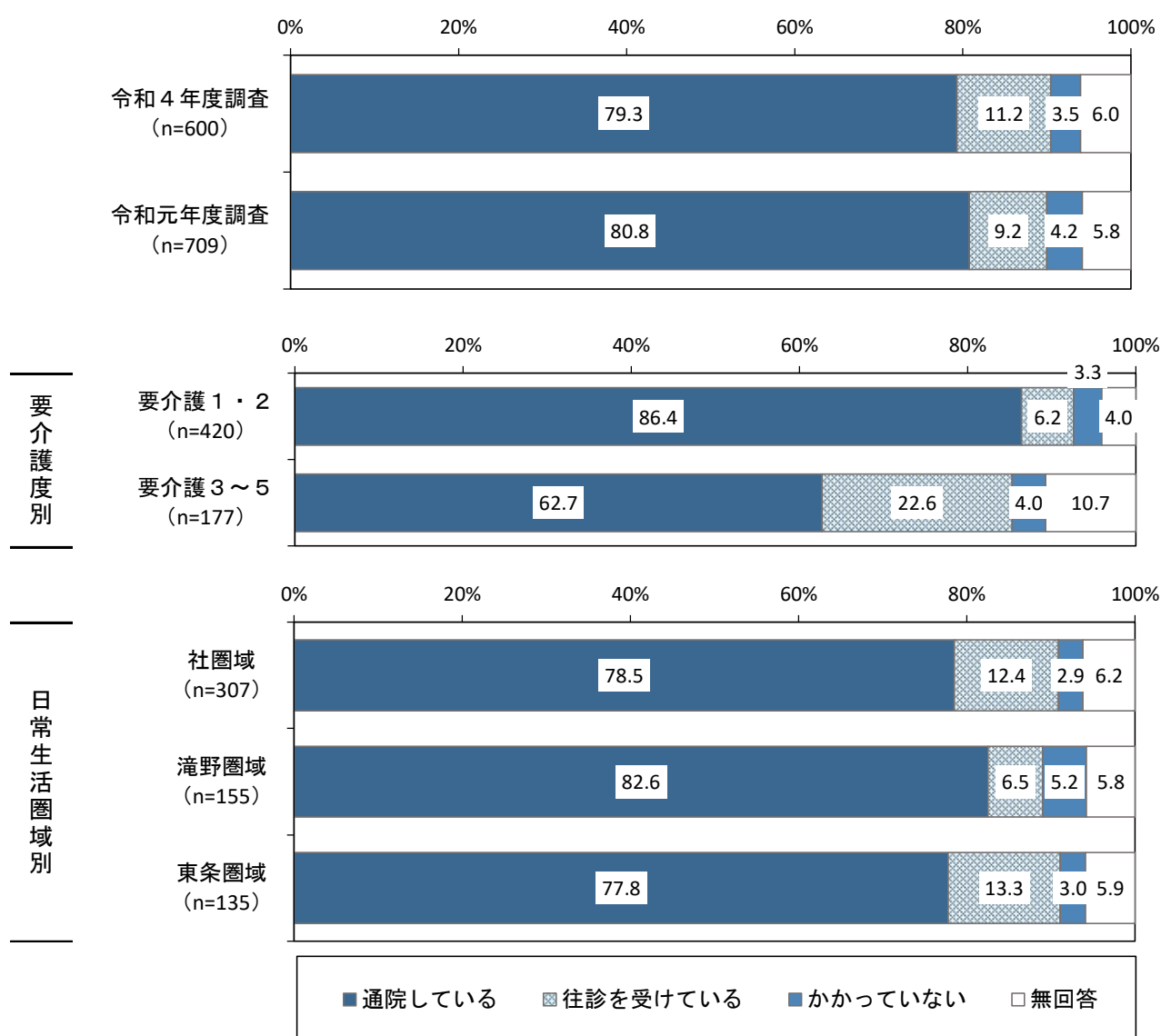
日常生活圏域別でみると、『よい（「とてもよい」と「まあよい」の合計）』では、東条圏域が 59.3%で最も高くなっています。



（２）病院・医院（診療所やクリニック）にかかっているか

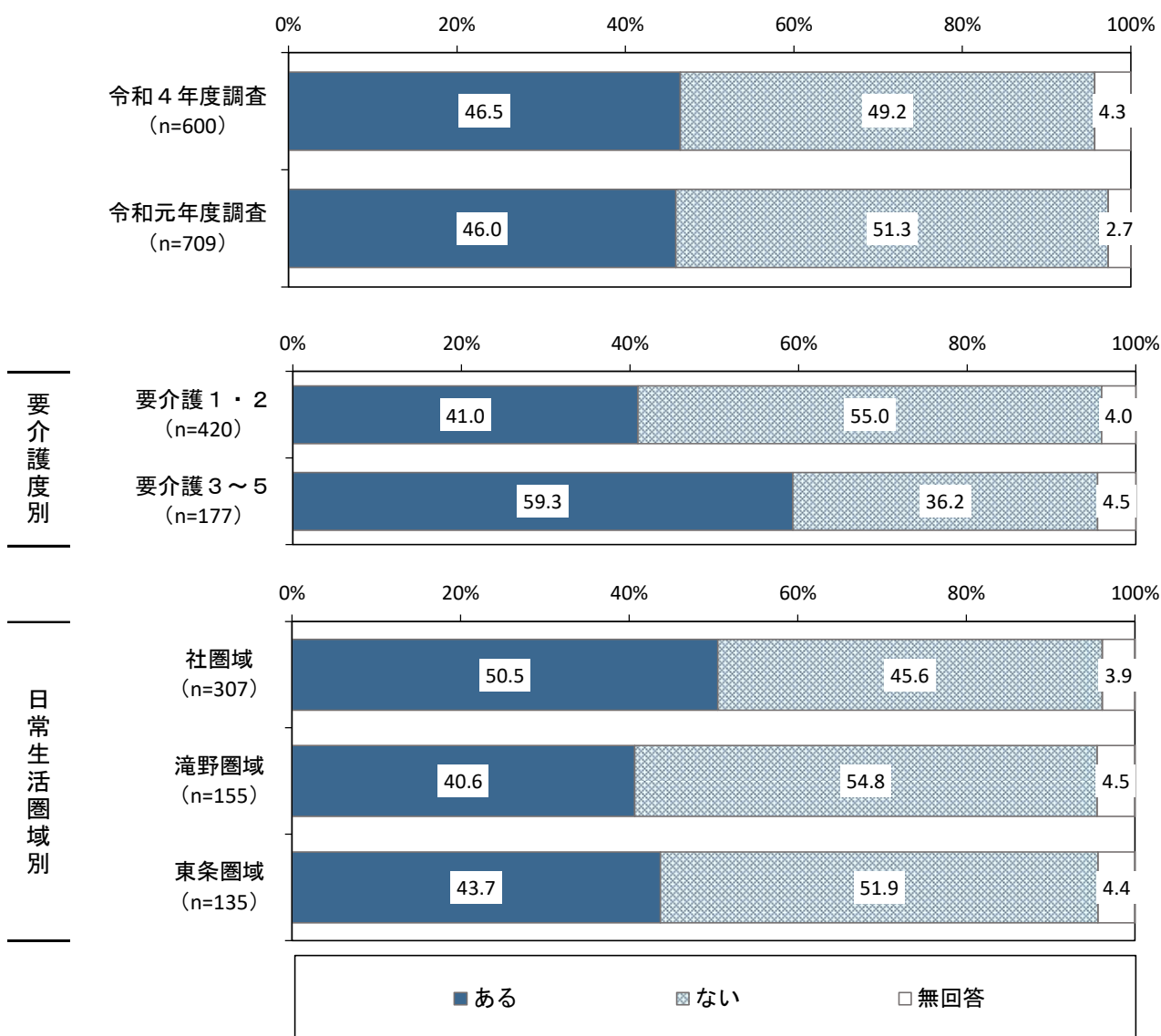
病院・医院（診療所やクリニック）にかかっているかについて、「通院している」が 79.3% で最も高く、次いで「往診を受けている」が 11.2%、「かかっていない」が 3.5%と続いています。

『かかっている（「通院している」と「往診を受けている」の合計）』では、90.5%となっています。



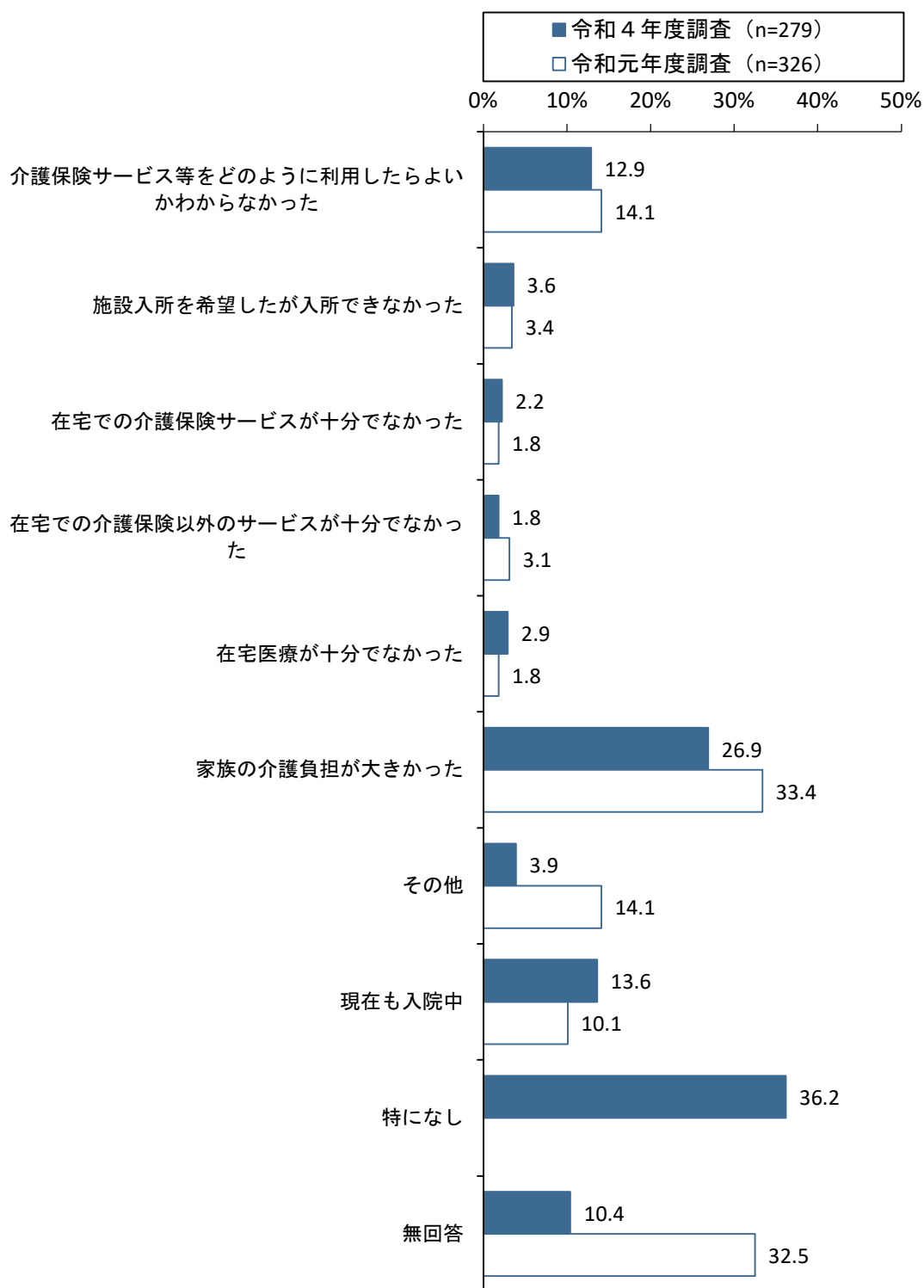
（３）過去１年間の医療機関への入院の有無

過去１年間の医療機関への入院の有無については、「ある」が46.5%、「ない」が49.2%となっています。



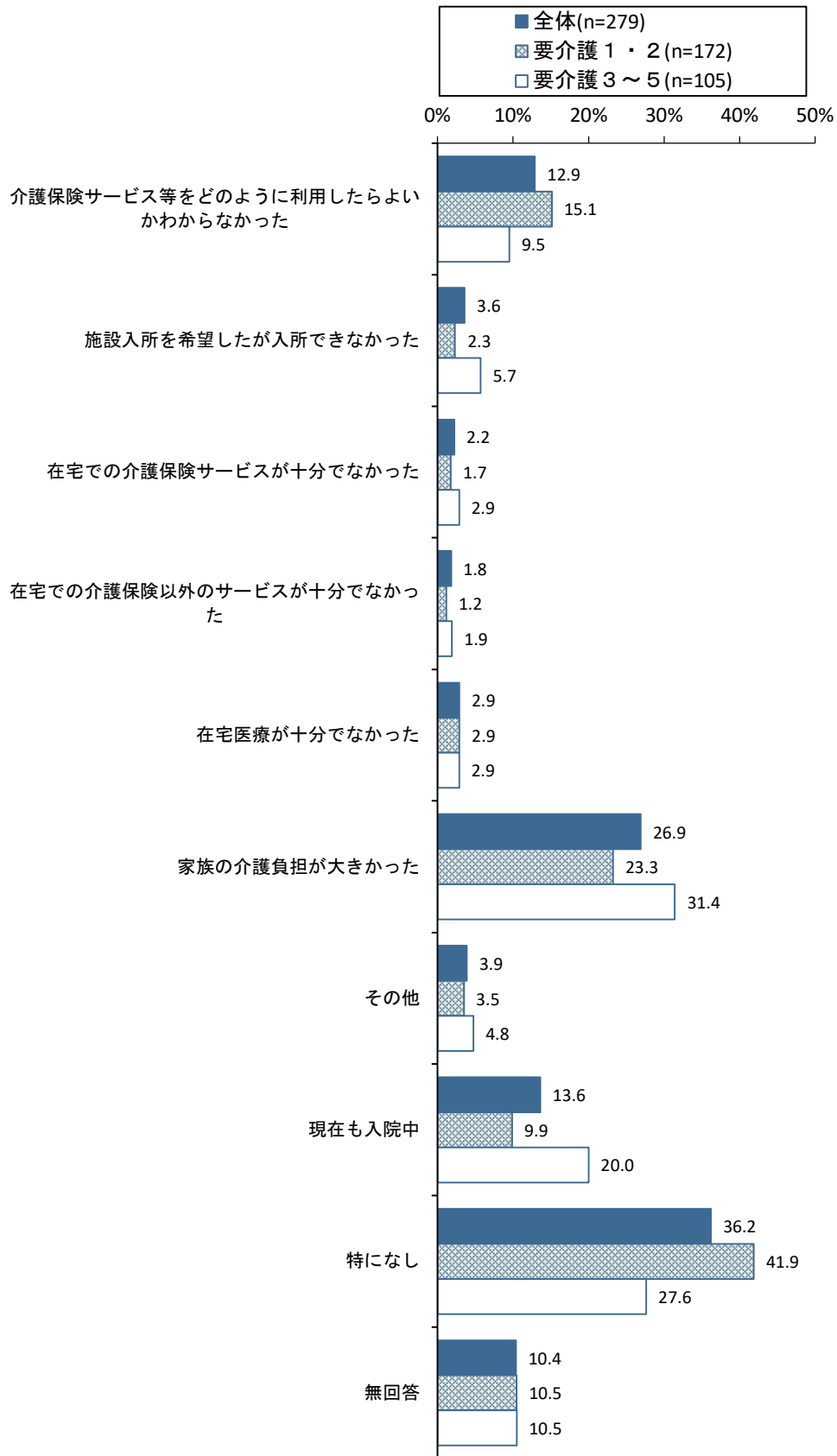
（４）退院後、介護保険等サービスへの移行や連携で困ったこと

退院後、介護保険等サービスへの移行や連携で困ったことについて、「特になし」が36.2%で最も高く、次いで「家族の介護負担が大きかった」が26.9%、「現在も入院中」が13.6%と続いています。



※「特になし」については、令和4年度調査から追加された選択肢

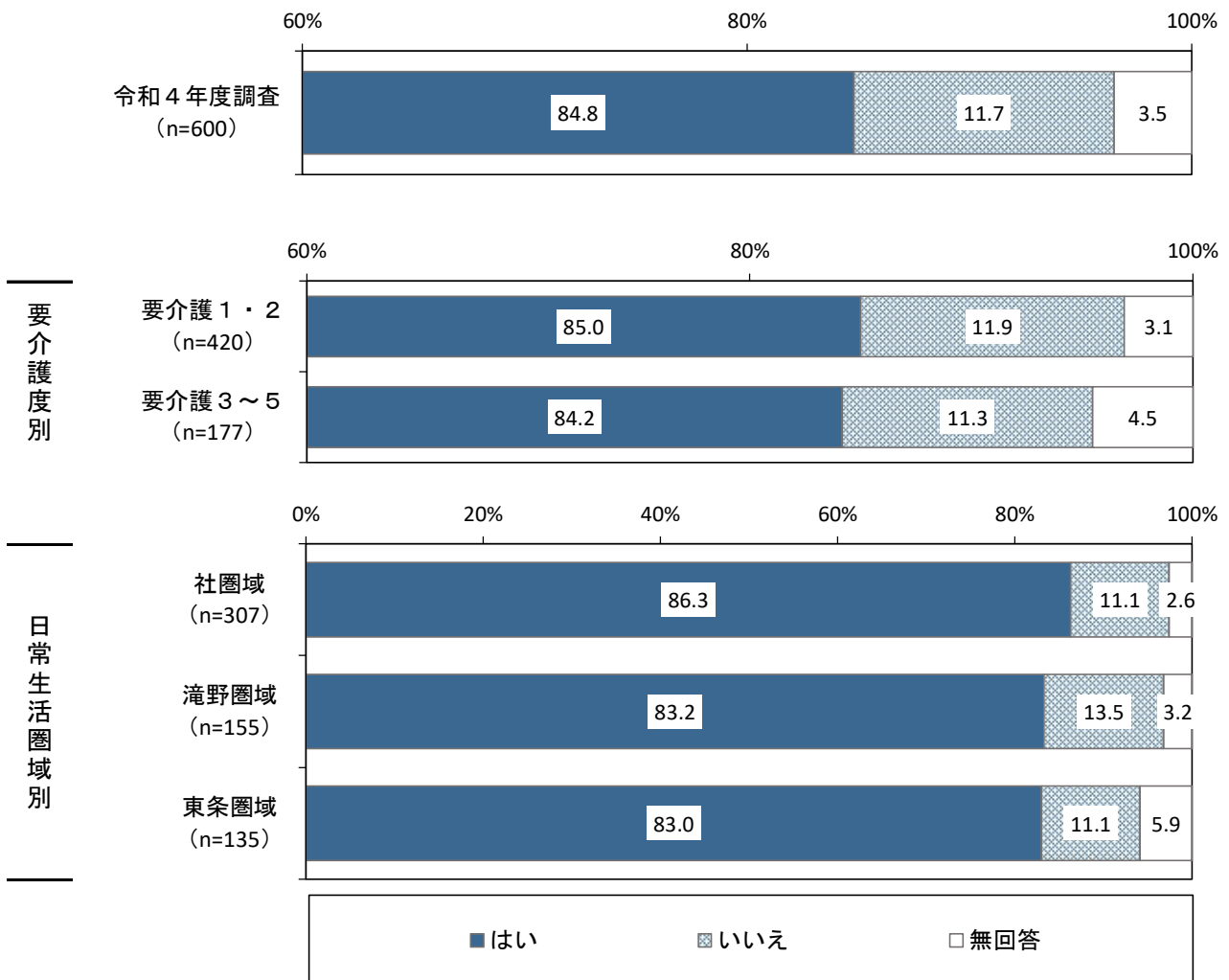
【要介護度別】



5 介護保険制度と介護保険サービスについて

(1) 介護サービス等を利用しているか

介護サービス等を利用しているかについて、「はい」が 84.8%、「いいえ」が 11.7%となっています。

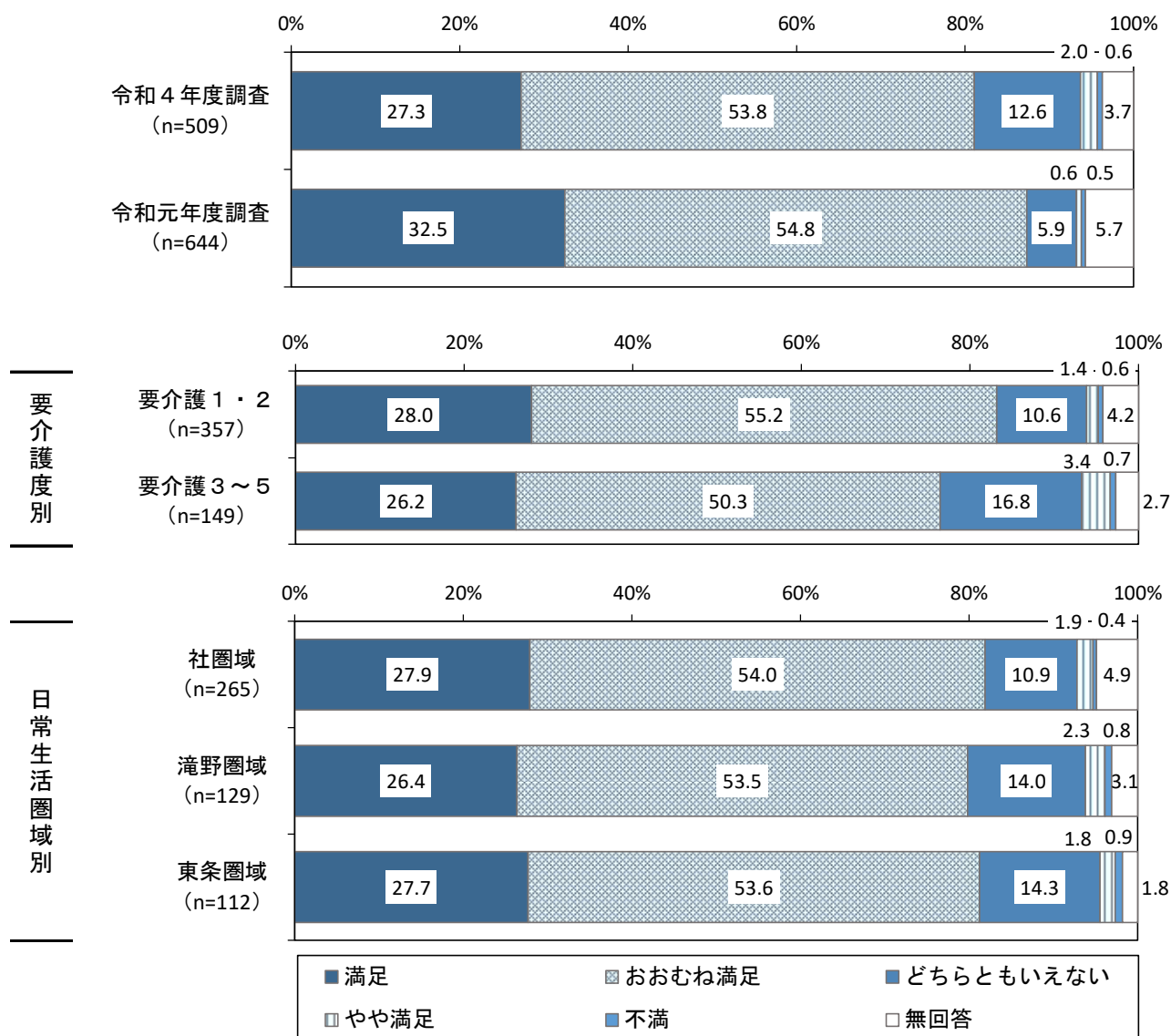


(2) 介護サービスの満足度

介護サービスの満足度について、満足している割合（「満足」と「おおむね満足」の合計）は81.1%となっています。

要介護度別でみると、満足している割合は要介護1・2では83.2%、要介護3～5で76.5%となっています。

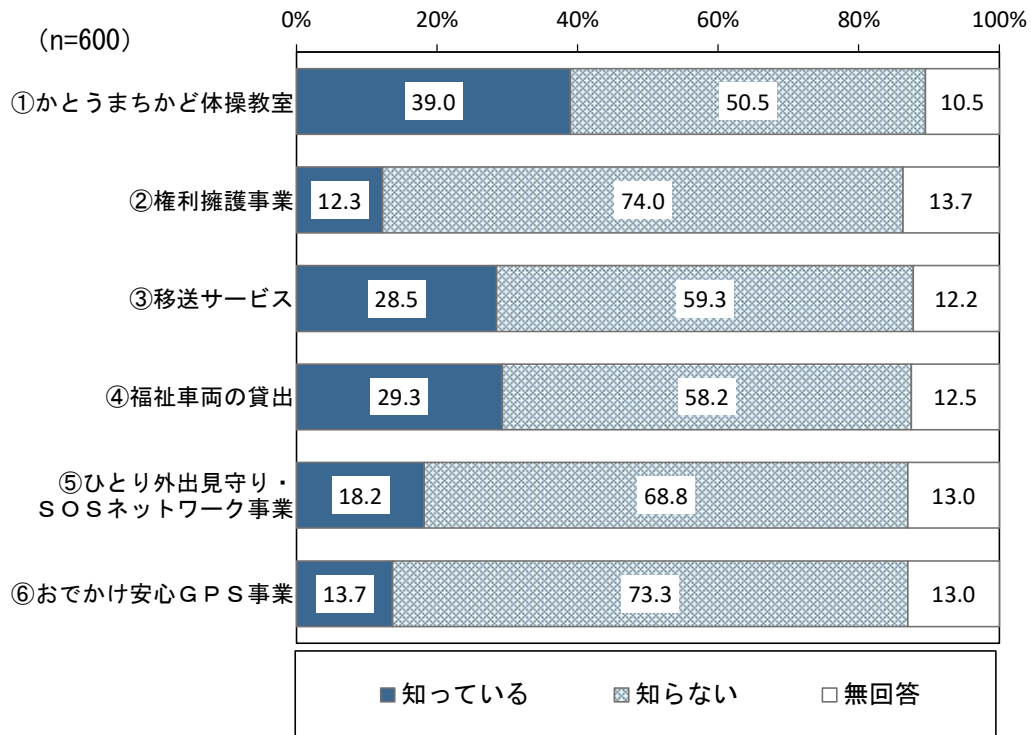
日常生活圏域別でみると、満足している割合はいずれの圏域も約8割となっていますが、「満足」では、社圏域が27.9%で最も高くなっています。



6 市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて

(1) 介護予防・生活支援サービスの認知度状況

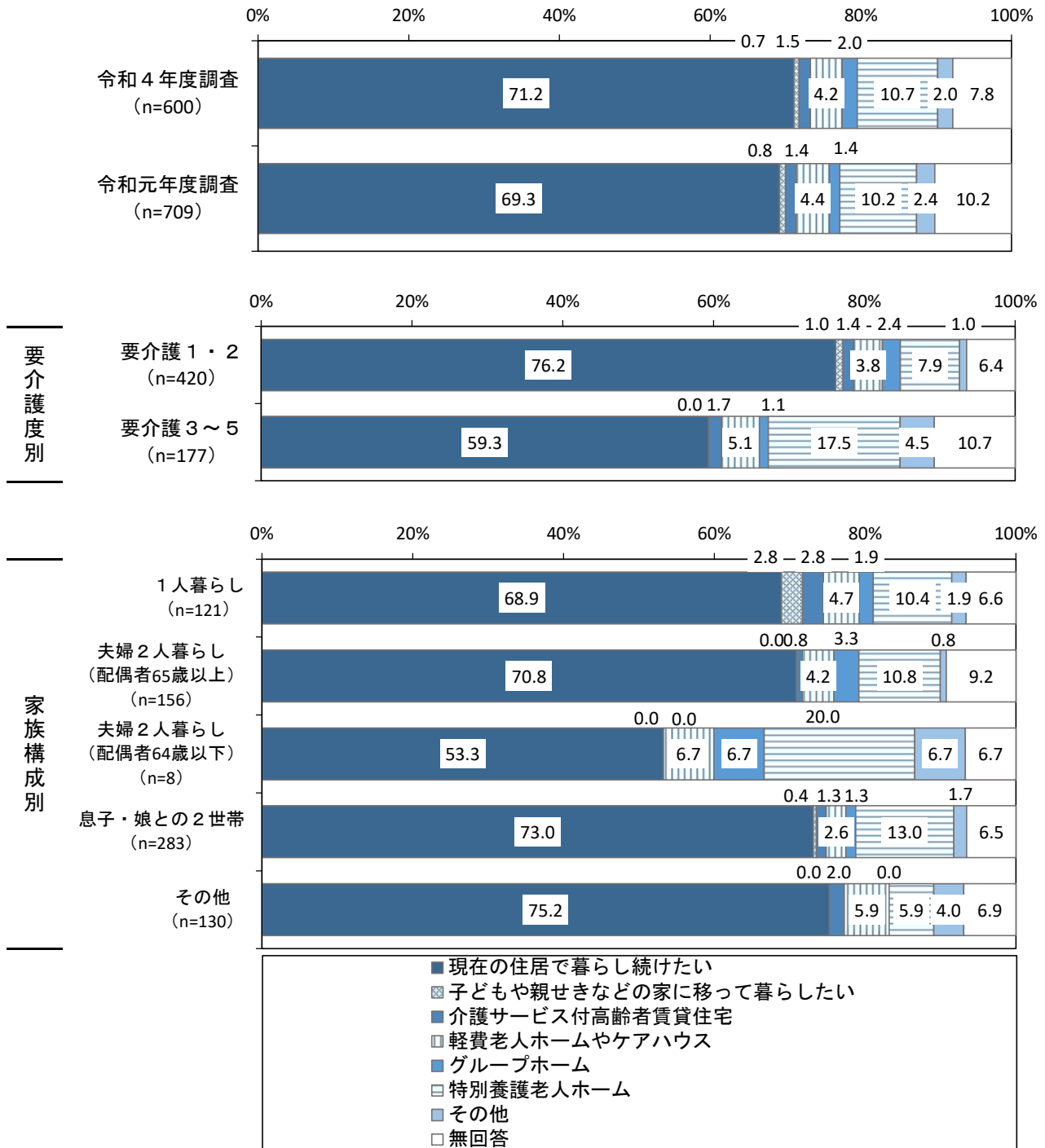
介護予防・生活支援サービスの認知度状況について、「① かとうまちかど体操教室」が39.0%で最も多く、次いで「④ 福祉車両の貸出」が29.3%、「③ 移送サービス」が28.5%となっています。



7 今後の生活と福祉や介護保険制度について

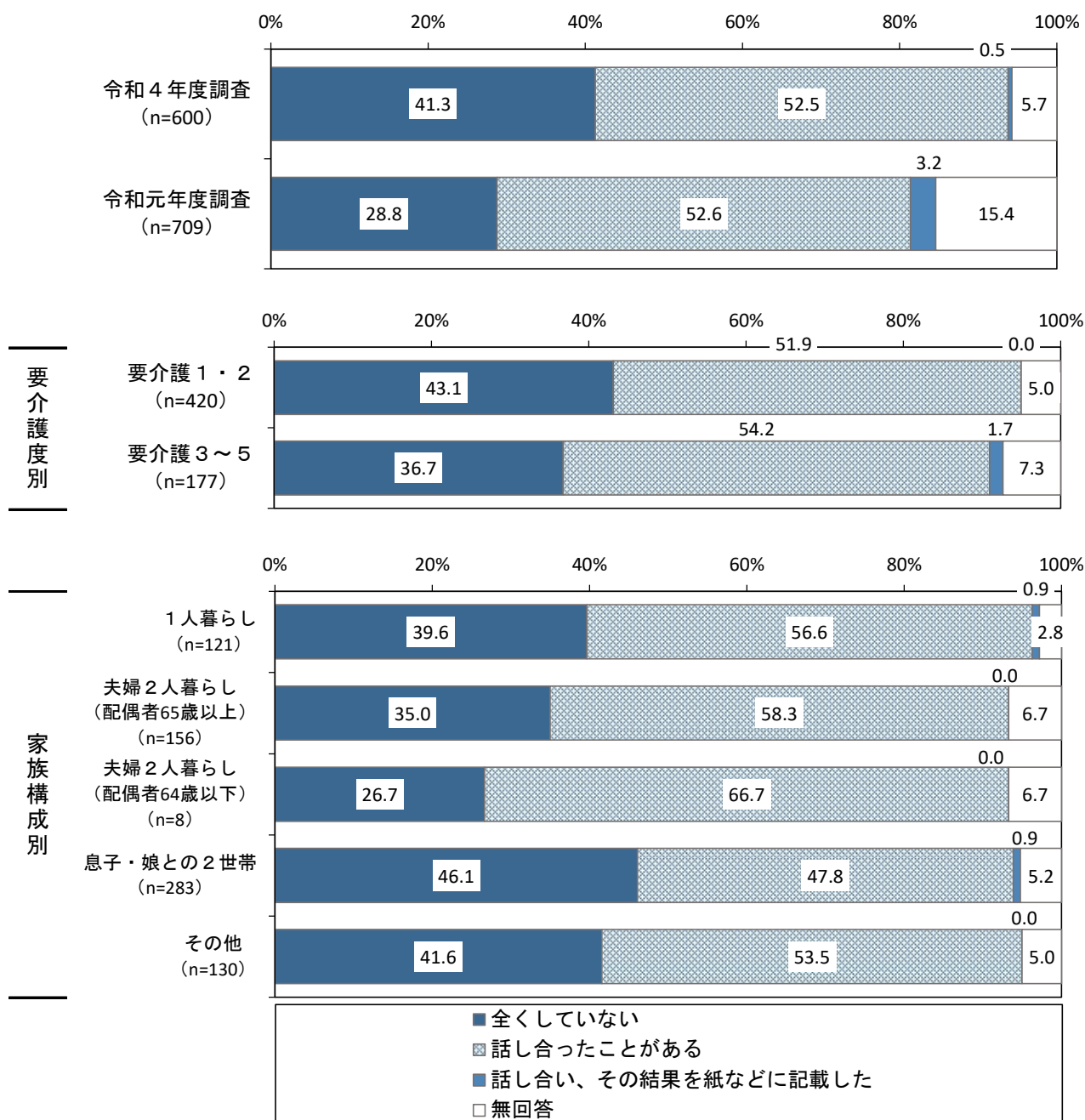
(1) 今後の住まいの希望

今後の住まいへの考えについて、「現在の住居で暮らし続けたい」が71.2%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」が10.7%、「軽費老人ホームやケアハウス」が4.2%となっています。



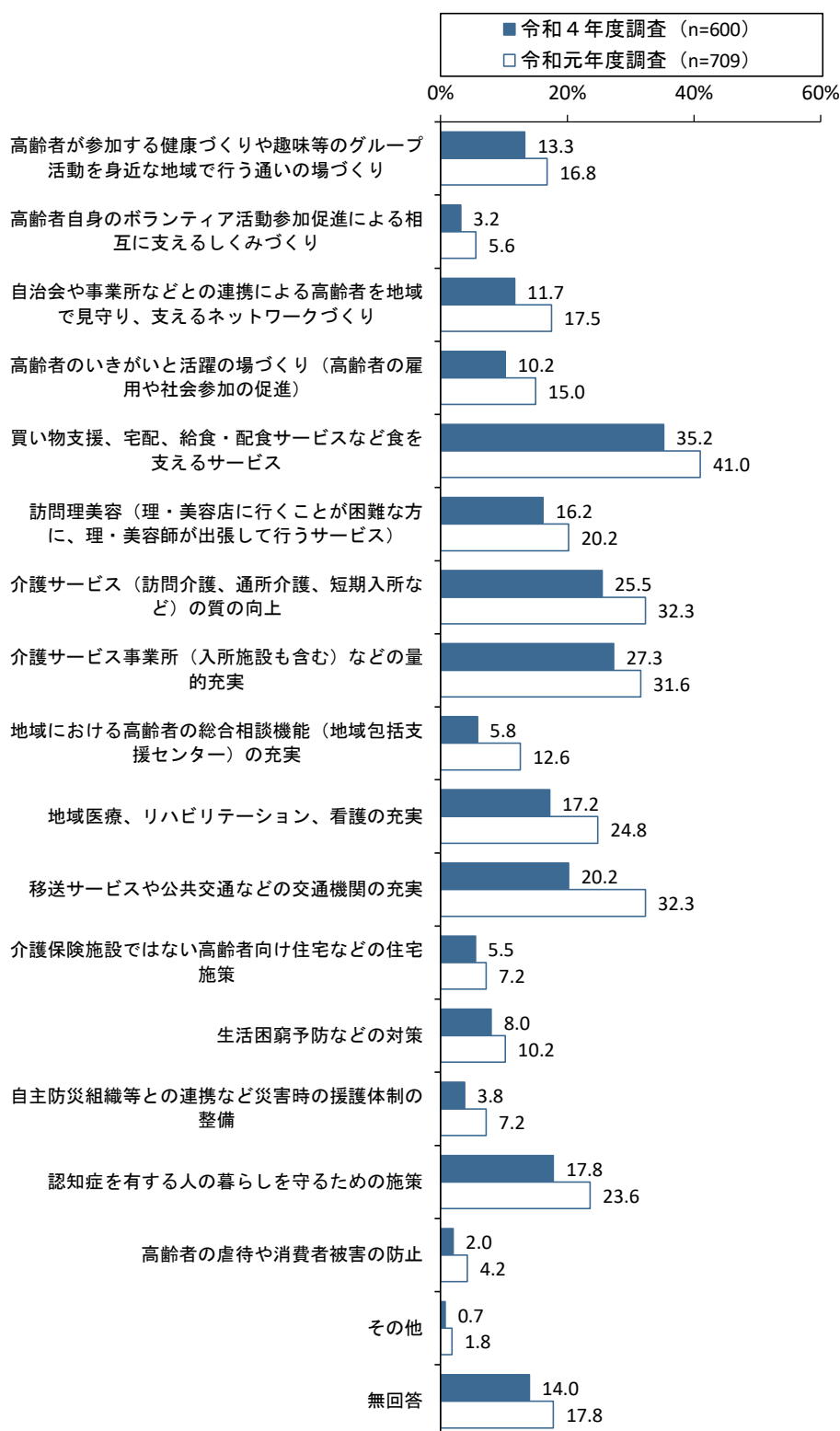
（２）今後の住まいへの考えについての話し合い

今後の住まいへの考えについての話し合いについて、「話し合ったことがある」が 52.5% で最も多く、次いで「全くしていない」が 41.3%、「話し合い、その結果を紙などに記載した」が 0.5%となっています。



（３）加東市において、特に重要になると思う施策

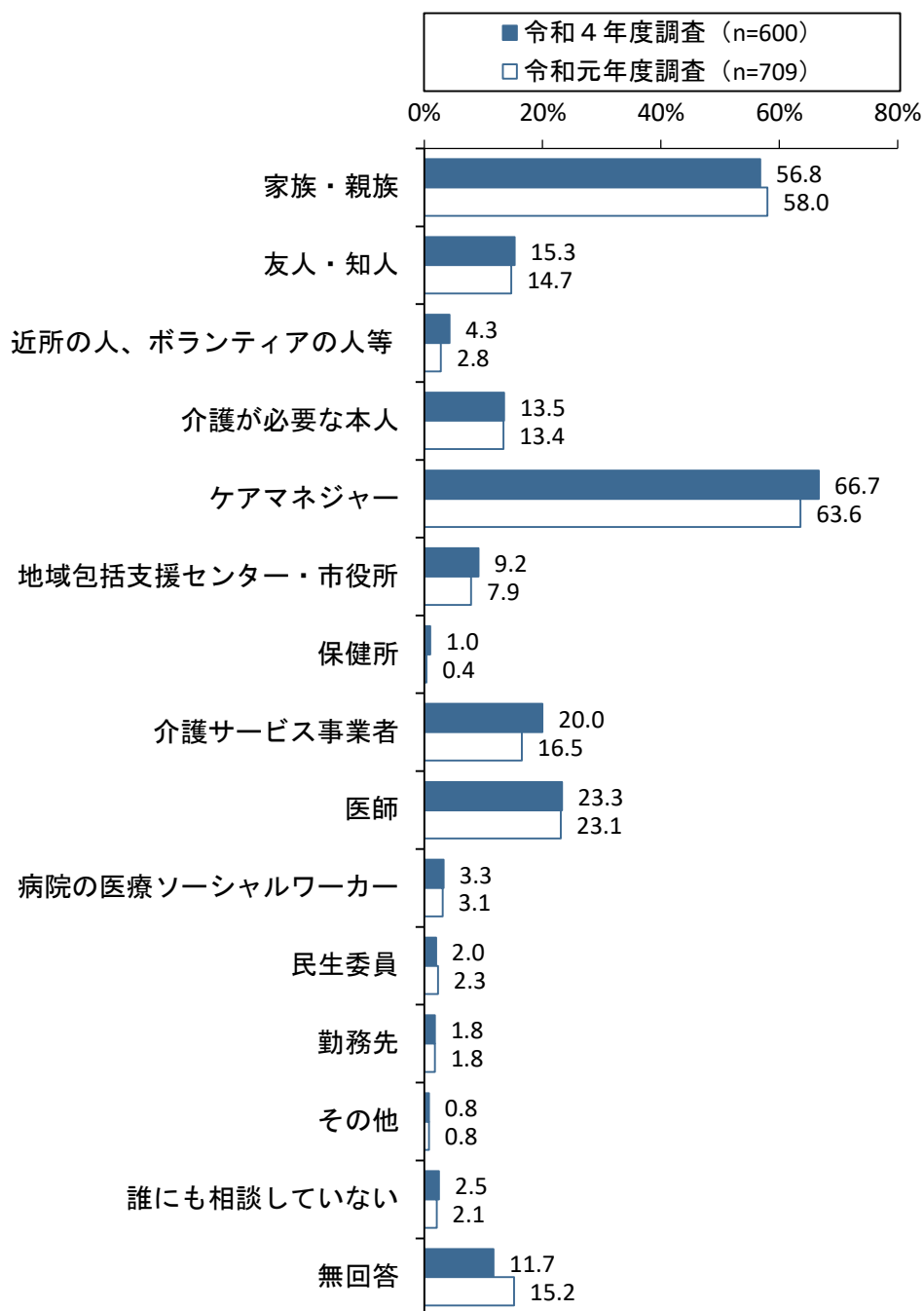
これからの加東市において特に重要な施策について、「買い物支援、宅配、給食・配食サービスなど食を支えるサービス」が 35.2%で最も多く、次いで「介護サービス事業所（入所施設も含む）などの量的充実」が 27.3%、「介護サービス（訪問介護、通所介護、短期入所など）の質の向上」が 25.5%となっています。



8 主な介護者の考えについて

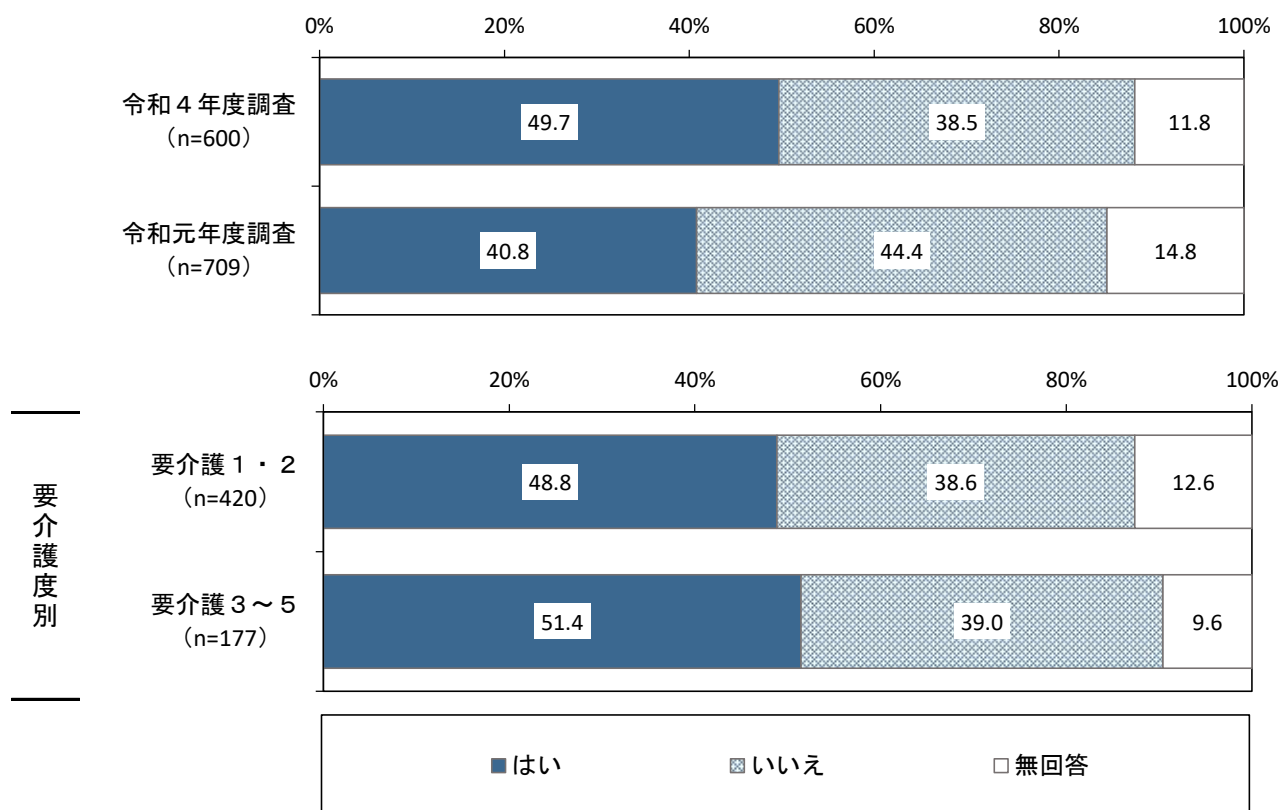
(1) 主な介護者が介護について相談する相手

主な介護者が介護について相談する相手について、「ケアマネジャー」が 66.7%で最も多く、次いで「家族・親族」が 56.8%、「医師」が 23.3%となっています。



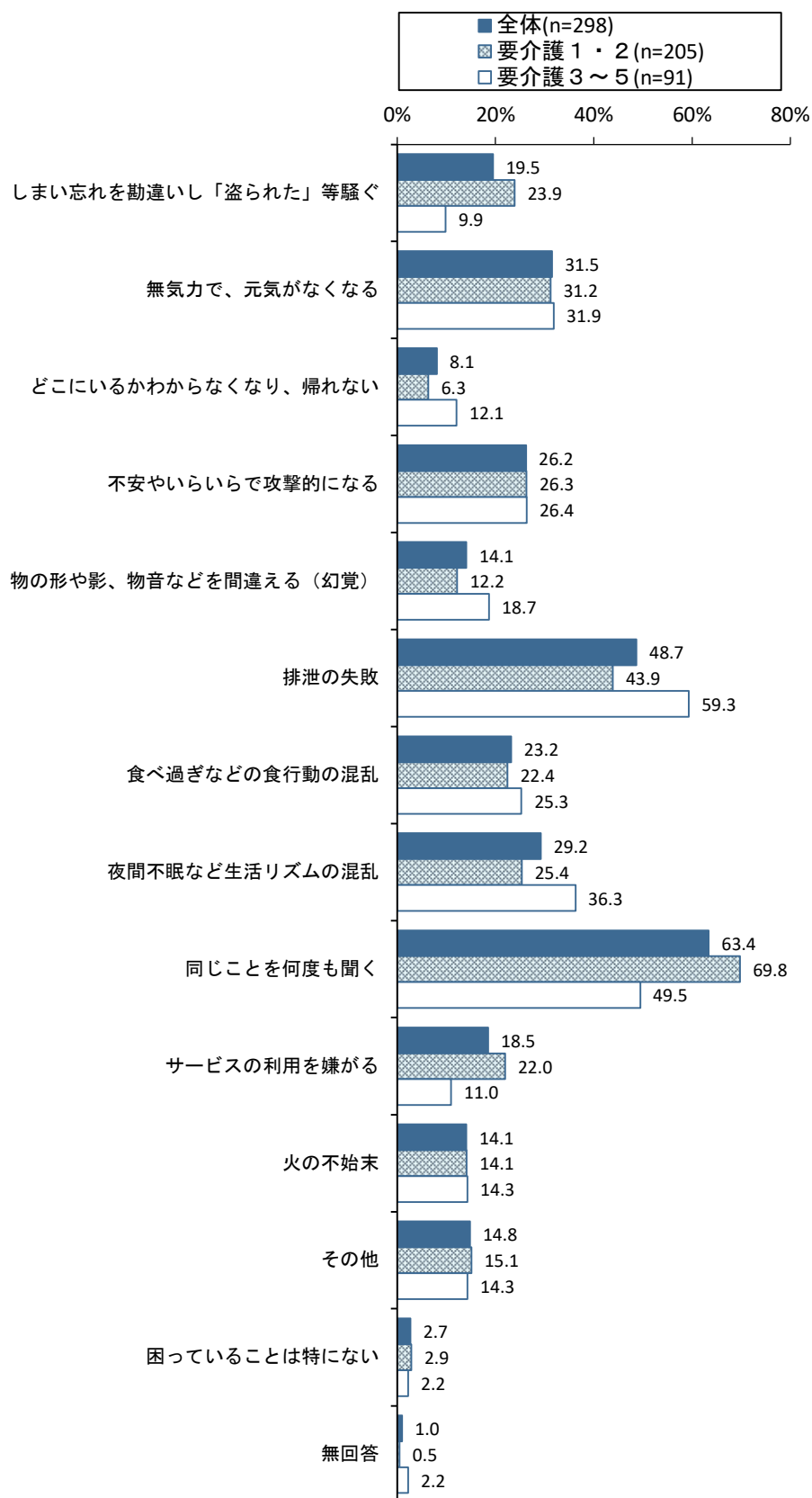
（２）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

自身や家族の認知症の症状有無について、「はい」が 49.7%、「いいえ」が 38.5%となっています。



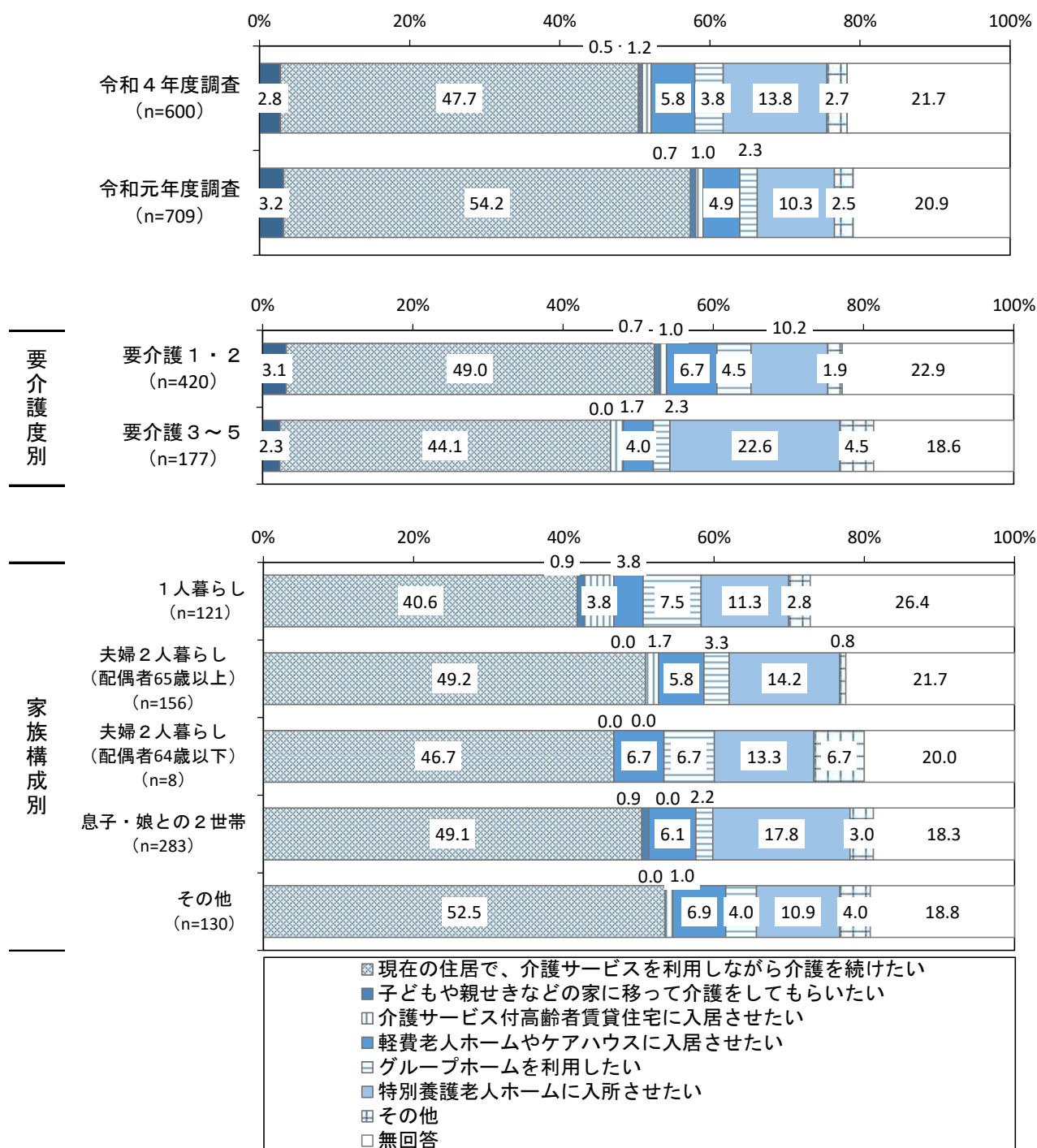
（３）困っている認知症に伴う行動や症状

困っている認知症に伴う行動や症状について、「同じことを何度も聞く」が63.4%で最も高く、次いで「排泄の失敗」が48.7%、「無気力で、元気がなくなる」が31.5%と続いています。



(4) 主な介護者の今後の介護に対する考え

主な介護者の今後の介護に対する考えについて、「現在の住居で、介護サービスを利用しながら介護を続けたい」が47.7%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームに入所させたい」が13.8%、「軽費老人ホームやケアハウスに入所させたい」が5.8%となっています。



9 調査結果の考察

(1) 要介護認定者本人についての現状・課題

① 家族や生活状況について

- 家族構成について、全体では令和元年度調査時と大きな変化はありませんが、要介護度3～5では1人暮らし世帯が9.4%から14.1%で4.7ポイント増加しています。
- 要介護者と主な介護者の年齢についてみると、「老老介護」が多くみられ、85歳以上の要介護者では介護者の年齢60代以上が72.9%、介護者の年齢80歳以上は26.3%となっています。
- 主な介護者の要介護度についてみると、要介護1・2では令和元年度調査時の16.7%から23.6%と6.9ポイント増加、要介護3～5では7.8%から14.1%と6.3ポイント増加しています。

② 日常生活について

- 外部の支援が必要だと感じることにについて家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）を除く全ての世帯で、現に支援を受けている割合が令和元年度調査時より減少している項目が多くなっており、且つ必要であると思っている割合の増加項目が多くなっていることから、全体的に必要なと感じているのに支援を利用していない状況がみられました。

③ 介護保険サービス、介護予防・生活支援・福祉サービスについて

- 居宅介護サービスについて、満足している（「満足」と「おおむね満足」の合計）割合では、令和元年度調査の87.3%から81.1%と6.2ポイント減少しています。特に「満足」の割合が令和元年度調査の32.5%から27.3%と5.2ポイントの減少で、減少幅が大きくなっています。
- 保健福祉サービスの認知度についてみると、「かとうまちかど体操教室」（39.0%）が最も多くなっていますが、他のサービス全ての割合が3割未満となっていることから、サービスの認知が浸透していない状況が見られます。

(2) 要介護認定者の介護者についての現状・課題

- 主な介護者の要介護度についてみると、要介護（支援）認定を受けている人の割合が42.6%となっています。
- 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいる割合は49.7%で、半数近くで近くに認知症状の人がいる状況となっています。
- 今後の介護意向として、在宅を希望している割合は50.5%となっていましたが、要介護者本人の「現在の住居で暮らし続けたい」（71.2%）意向に比べると、少なくなっています。